

2024年度  
兵庫県保健師キャリア支援センター事業  
実績報告書

2025年3月  
兵庫県保健師キャリア支援センター  
公立大学法人 神戸市看護大学



# 目 次

## 緒 言

兵庫県保健師キャリア支援センター4年目に寄せて	……3
-------------------------	-----

## 1. 兵庫県保健師キャリア支援センター事業

### 1) 兵庫県保健師キャリア支援センター業務検討会 (省略)

### 2) 保健師人材育成研修

#### (1) 新任期保健師研修

2024年度 新任期保健師研修会実施要領	……11
----------------------	------

2024年度 新任期保健師研修会実施状況	……21
----------------------	------

2024年度 新任期研修会アンケート結果	
----------------------	--

新任期保健師研修会(前期Ⅰ研修) アンケート結果	……24
--------------------------	------

新任期保健師研修会(前期Ⅱ研修) アンケート結果	……36
--------------------------	------

新任期保健師研修会(後期研修) アンケート結果	……50
-------------------------	------

#### (2) プリセプター研修

2024年度 プリセプター研修会実施要領	……64
----------------------	------

2024年度 プリセプター研修会実施状況	……66
----------------------	------

2024年度 プリセプター研修会アンケート結果	……67
-------------------------	------

#### (3) 地域ケアの総合調整研修

2024年度 地域ケアの総合調整研修事業実施要領	……72
--------------------------	------

2024年度 地域ケアの総合調整研修会実施状況	……75
-------------------------	------

2024年度 地域ケアの総合調整研修会アンケート結果	……76
----------------------------	------

### 3) 保健師及び地域保健に携わる関係者への調査研究

(1) 2024年度調査研究課題	……83
------------------	------

### 4) 保健師キャリア支援(再就業支援含む)

#### (1) 保健師キャリア相談

2024年度保健師キャリア相談	……87
-----------------	------

2024年度保健師キャリア相談実績	……88
-------------------	------

#### (2) 保健師就業・復職支援研修会

2024年度 保健師就業・復職支援研修会実施要領	……89
--------------------------	------

2024年度 保健師就業・復職支援研修会実施状況	……91
--------------------------	------

2024年度 保健師就業・復職支援研修会アンケート結果	……92
-----------------------------	------

#### (3) オンデマンド研修

2024年度オンデマンド研修	……97
----------------	------

### 5) 総括

2024年度兵庫県保健師キャリア支援センター事業総括	……101
----------------------------	-------

<b>2. 新任期保健師研修専門的能力評価（2022年度・2023年度）</b>	
新任期保健師研修専門的能力評価表から見た現状と課題	・・・105
新任期保健師研修 専門的能力評価表	・・・123
<b>3. 巻末資料</b>	
兵庫県保健師の現任教育体系	・・・131
自治体保健師の標準的なキャリアラダー	・・・132
兵庫県保健師キャリア支援センター事業（2024年度実績版）	・・・136
兵庫県保健師キャリア支援センターチラシ	・・・137
保健師キャリア相談チラシ	・・・138
兵庫県保健師キャリア支援センター事務局名簿	・・・139
<b>編集後記</b>	・・・140

# 緒 言



## 兵庫県保健師キャリア支援センター4年目に寄せて

兵庫県保健師キャリア支援センターが発足して4年が経過しました。平素より関係機関の皆様のご理解とご支援を賜り、日々活動を継続できておりますことに感謝申し上げます。当センターでは、兵庫県保健師人材育成ガイドラインに基づく人材育成研修や、キャリアアップを図るための相談・支援、保健師活動に関する調査研究や情報発信等、地域で活動される保健師の方々の資質向上につながる様々な取組を行っています。

新型コロナウイルス感染症パンデミック以降、兵庫県内における保健師の採用数は増加しつつあります。その影響もあるのか、保健師だけではなく、看護師や助産師など、多様なキャリアを有する保健師の採用が増えているようです。このように多様なキャリアを有する新任期保健師の皆様が、そのキャリアを活かした成長を支援することは重要だと感じております。一昨年に調査しました、新任期保健師の特徴の調査結果は、今年度のプリセプター研修等でご報告をいたしました。新任期保健師の特徴を踏まえた人材育成の方策について、今後も検討をしていきたいと考えております。

年々、新任期保健師研修会にご参加されます皆様の課題への取り組み内容の質の向上を感じております。この理由に、新型コロナウイルス感染症が収束されるにつれて新任期保健師の皆様の活動が強化されたこと、新任期研修方法が定着したこと、所属職場の皆様の手厚いご指導があること、などを推測しております。さらに「新任期保健師研修会」では、先輩・中堅期保健師の講話や兵庫県下の自治体保健師・大学教員が担うファシリテーターから学びを得ています。それにより、多角的な視点からの新たな気づきや活動のモチベーションを高めることにもつながり、スキルアップや保健師活動伝承の一翼を担うこともできと思えます。このような複合的な要因があると考えますが、いずれにしても、保健師としての実践力の成長がみられることは大変にうれしいことです。今後も、当センターでは、委託元の兵庫県や各研修講師の先生方と密な打ち合わせと評価を行い、新任期保健師の皆様のニーズに把握しながら、研修の企画を進めてまいりたいと思えます。

当センターは、自治体と大学が協働して、保健師の人材育成を行う全国的にも先駆的な体制による人材育成を行っています。この利点を生かしながら、保健師活動の資質向上や、貴重な人脈づくり及び現場と大学をつなぐ場としてもご活用いただくことを期待しております。今後とも保健師の皆様と共に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

兵庫県保健師キャリア支援センター事務局代表

公立大学法人 神戸市看護大学いちかんダイバーシティ看護開発センター長 岩本 里織



## 1. 兵庫県保健師キャリア支援センター事業

### 1) 兵庫県保健師キャリア支援センター業務検討会







## 2)保健師人材育成研修



## (1) 新任期保健師研修

### 2024 年度 新任期保健師研修会実施要領

#### 1. 目的

行政機関で公衆衛生に携わる新任期保健師が、公衆衛生看護活動の原点である個別支援の重要性を学び、対象及び地域の理解を深め、地域特性を踏まえた上で、地域の健康課題解決に向けた事業の展開につなげる、保健師活動の一連のプロセスを理解し、実践できる能力を養うことを目的とする。

#### 2. 目標

- (1) 個別支援において、相談者と信頼関係を築くことの大切さや、生活者としての価値観、思いを踏まえた上で支援することの重要性を理解することができる。併せて、情報収集からアセスメント、課題の明確化及び課題に応じた目標設定、訪問計画、実施、評価という一連のプロセスを理解し、実践することができる。
- (2) 地域診断において、個別支援から把握した情報をはじめ、日常的な保健活動から得られる情報・データの内容及び重要性を理解することができる。これらを実践し、地域全体の健康課題について明らかにするとともに、地域の強みを活かした事業展開（目標設定及び計画立案まで）を実践することができる。
- (3) 地域の関係機関と連携して立案した事業計画を実際に行い、評価・修正するといった、PDCA の一連の過程について理解することができる。また、最終的に評価計画に基づいた事業評価を行うことができる。

#### 3. 実施主体

兵庫県（運営：兵庫県保健師キャリア支援センター）

#### 4. 対象

新任期保健師（原則採用後 3 年未満の保健師で、非常勤等含む。）

#### 5. 内容

- 1 年目相当 個別支援（情報収集、アセスメント、目標・課題設定、支援計画作成等）
- 2 年目相当 地域診断（地域診断の方法及び実践、PDCA サイクルとの関係等）
- 3 年目相当 地域診断に基づく PDCA（保健事業の計画と評価、地域ケアシステムの構築）

#### 6. スケジュール※プログラムは別紙 1～4 参照

##### (1) 前期 I 研修（オンライン研修）※研修 URL は研修案内文書に記載

###### 1) 1 年目相当（個別支援）：

日時：5 月 16 日（木）9:30～12:00

内容：①講義「個別支援について（仮題）」

講師：神戸大学大学院教授 和泉比佐子氏

②講義「1 年目の課題の取り組み方について」

講師：県庁健康増進課

###### 2) 2 年目相当（地域診断）：

日時：5 月 21 日（火）9:30～12:00

内容：①講義「地域診断について（仮題）」

講師：神戸大学大学院教授 和泉比佐子氏

②講義「2 年目の課題の取り組み方について」

講師：県庁健康増進課

###### 3) 3 年目相当（地域診断に基づく PDCA）：

日時：5 月 23 日（木）9:30～12:00

内容：①講義「地域診断に基づく事業計画と評価について（仮題）」

講師：神戸大学大学院教授 和泉比佐子氏

②講義「3 年目の課題の取り組み方について」

講師：県庁健康増進課

## (2) 前期Ⅱ研修（対面研修）

### 1) 1年目相当（個別支援）：

日時：9月4日（水）10:00～16:30

会場：神戸市立中央区文化センター 1階 多目的ルーム  
神戸市中央区東町115番地

内容：①先輩保健師からの講話「研修の学びと後輩保健師に伝えたいこと（仮題）」  
②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（中間）

### 2) 2年目相当（地域診断）：

日時：9月18日（水）10:00～16:30

会場：神戸市立中央区文化センター 1階 多目的ルーム  
神戸市中央区東町115番地

内容：①先輩保健師からの講話「研修の学びと後輩保健師に伝えたいこと（仮題）」  
②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（中間）

### 3) 3年目相当（地域診断に基づくPDCA）：

日時：9月20日（金）10:00～16:30

会場：神戸国際会館 9階 大会場  
神戸市中央区御幸通8-1-6

内容：①先輩保健師からの講話「研修の学びと後輩保健師に伝えたいこと（仮題）」  
②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（中間）

## (3) 後期研修（対面研修）

### 1) 1年目相当（個別支援）：

日時：1月17日（金）10:30～16:00

会場：神戸市立中央区文化センター 1階 多目的ルーム  
神戸市中央区東町115番地

内容：①中堅期以降保健師による講話「個別支援の実際（仮題）」  
②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（最終）

### 2) 2年目相当（地域診断）：

日時：1月23日（木）10:30～16:00

会場：神戸市立中央区文化センター 1階 多目的ルーム  
神戸市中央区東町115番地

内容：①中堅期以降保健師による講話「地域診断の実際（仮題）」  
②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（最終）

### 3) 3年目相当（地域診断に基づくPDCA）：

日時：1月30日（木）10:30～16:00

会場：神戸市立中央区文化センター 1階 多目的ルーム  
神戸市中央区東町115番地

内容：①中堅期以降保健師による講話「地域診断に基づく事業計画と評価の実際（仮題）」  
②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（最終）

## (4) 各所属でのフィードバック

所属の実情に合わせて、個別指導または発表会等によるフィードバック

（個々に派遣調整・依頼する。必要に応じて様式6により、兵庫県保健師キャリア支援センターあてに派遣調整依頼も可能）

## 7. 課題の取り組み方及び提出物等について

### (1) 事前課題

1) 提出期限 5月14日（火）

2) 提出方法

健康福祉事務所及び市町ごとに事前課題をとりまとめて、それぞれが所属機関（または自治体）から直接兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールにて提出す

る。その際、メールの表題に「新任期保健師研修事前課題（○年目）」と記載すること。（ZIP ファイルで1～3年目分をまとめて送付しても可）

メールアドレス：phncenter@kobe-ccn.ac.jp

### 3) 提出物

#### ①「兵庫県保健師人材育成ガイドライン」の専門的能力評価表（研修前評価）

1年目相当：1 個別支援（P52）

2年目相当：2 地域診断（P53～54）

3年目相当：3 地域診断に基づくPDCA（P55～56）

（※「3年目相当」について、ガイドライン評価表の項目は「3地域連携」と表記）

※自己評価及び指導保健師（プリセプター保健師、係長、専門員等）による評価を行い、自己評価及び指導保健師評価として各1部提出すること。

※ファイル名は以下の例のように記載して送付する。

受講者本人分の評価の場合：〇〇市受講者氏名（自己評価）

指導者による評価の場合：〇〇市受講者氏名（指導者評価）

## (2) 研修課題

### 1) 中間提出

①提出期限 8月16日（金）

#### ②提出方法

健康福祉事務所及び市町ごとに中間課題をとりまとめて、それぞれが所属機関（または自治体）から直接兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールにて提出する。その際、メールの表題に「新任期保健師研修中間課題（○年目）」と記載すること。（ZIP ファイルで1～3年目分をまとめて送付しても可）

#### ③提出物（詳細は前期研修Ⅰで説明）

1年目：①様式1 家庭訪問支援記録（ケースの概要と現状～訪問計画まで）

②様式2 個別事例関連図（1年目の様式1に準じた箇所まで）

2年目：①様式1 保健師活動計画表（個別支援から把握した情報～行政課題まで）

②様式2 社会資源関連図（2年目の様式1に準じた箇所まで）

3年目：①様式1 保健事業あるいは地域のシステム構築の計画のための現状分析

②様式2 保健事業あるいは地域のシステム構築の計画と評価（評価計画まで）

③様式2（別紙）保健活動・事業の含まれる政策・施策全体（3年目の様式1、2に準じた箇所まで）

### 2) 最終提出

①提出期限 12月20日（金）

#### ②提出方法

健康福祉事務所及び市町ごとに最終課題をとりまとめて、それぞれが所属機関（または自治体）から直接兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールにて提出する。その際、メールの表題に「新任期保健師研修最終課題（○年目）」と記載すること。（ZIP ファイルで1～3年目分をまとめて送付しても可）

#### ③提出物

1年目：①様式1 家庭訪問支援記録（今までの修正を踏まえ、完成）

②様式2 個別事例関連図（完成）

2年目：①様式1 保健師活動計画表（今までの修正を踏まえ、完成）

②様式2 社会資源関連図（完成）

3年目：①様式1 保健事業あるいは地域のシステム構築の計画のための現状分析

②様式2 保健事業あるいは地域のシステム構築の計画と評価（今までの修正を踏まえ、完成）

③様式2（別紙）保健活動・事業の含まれる政策・施策全体（今までの修正を踏まえ、完成）

### (3) 事後課題

1) 提出期限 2月21日(金)

2) 提出方法

健康福祉事務所及び市町ごとに事後課題をとりまとめて、それぞれが所属機関(または自治体)から直接兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールにて提出する。その際、メールの表題に「新任期保健師研修事後課題(○年目)」と記載すること。(ZIPファイルで1~3年目分をまとめて送付しても可)

3) 提出物

①「兵庫県保健師人材育成ガイドライン」の専門的能力評価表(研修後評価)

1年目相当:1 個別支援(P52)

2年目相当:2 地域診断(P53~54)

3年目相当:3 地域診断に基づくPDCA(P55~56)

(※「3年目相当」について、ガイドライン評価表の項目は「3地域連携」と表記)

※自己評価及び指導保健師(プリセプター保健師、係長、専門員等)による評価を行い、自己評価及び指導保健師評価として各1部提出すること。

※ファイル名は以下の例のように記載して送付する。

受講者本人分の評価の場合:〇〇市受講者氏名(自己評価)

指導者による評価の場合:〇〇市受講者氏名(指導者評価)

②研修後アンケート(後日配布)

## 8. 申し込み

(1) 申し込み期限 5月10日(金)

(2) 申し込み方法

健康福祉事務所及び市町ごとに別紙5の参加申込書を取りまとめて、それぞれが所属機関(または自治体)から直接兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールにて提出する。その際、メールの表題に「新任期保健師研修申し込み」と記載すること。

(3) 留意事項

- ・原則として、全ての研修に参加することを前提として申し込むものとする。
- ・課題領域はグループ編成の参考とするため、十分検討の上、研修期間中同一の課題領域とすること。
- ・取り組むテーマが申し込み時に定まらない場合は、「未定」として提出してもよいが、グループ編成の都合上、6月末までには報告すること。

## 9. 研修のすすめ方

(1) 受講者の留意事項

1) 研修課題に関すること

①研修課題にあたっては、前期Ⅰ研修を受講し、課題に取り組む準備性を高めて臨み、所属での助言を得て作成すること。

②研修申し込み及び課題提出にあたっては、必ず所属機関の確認を得て行うこと。

③研修にあたっては、全受講者の研修課題をPDFファイルにて事前配布するので、課題作成にあたっては、配布資料とすることを前提に、個人情報等の取り扱いには十分留意して作成し、ファイルにパスワードを設定して送付すること。

2) 研修時に持参するもの

①各自グループメンバーの資料を印刷して当日参加すること(グループは後日通知)。

(2) 研修全体に関すること

1) 研修の進め方について

①3か年を目途として、体系的に実施する。

②全ての研修に参加することを原則とする。

③研修は、集合研修と職場での助言指導を交えた実践型研修とする。

④前期Ⅱ研修及び後期研修の集合研修は、自治体保健師及び大学教員によるファシリテーターの助言のもと進める。

⑤各所属でのフィードバックの際に教員の派遣を希望する場合は、個々に講師と交渉し、派遣の調整・依頼を行うものとする。兵庫県保健師キャリア支援センターに県内の看護系大学の教員の派遣調整を依頼する場合は、10月31日(木)までに、「新任期保健師研修における派遣調整依頼書(別紙6)」により、兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールにて依頼すること。センターにおいて申し込みを受けて派遣調整を行うが、必ずしも希望に添えない場合もあることをご了承願いたい。なお、講師の派遣にかかる経費は、実施機関で負担するものとする。

2) 研修に係る講師等の協力依頼及び推薦について

ファシリテーター、先輩保健師及び中堅期以降保健師の講話講師の協力については、別途依頼するものとする。

(3) その他

1) 感染予防対策等の措置について

- ① 対面研修の受講時に発熱等の症状がある場合は、事務局へ連絡の上、参加を見合わせる。
- ② 対面研修の受講者等は、マスクの着用や手指消毒等各自感染対策を講じて参加すること。
- ③ 新型コロナウイルス感染症等の流行状況によっては、研修の形式を変更する場合があります。その場合は、別途通知するものとする。

10. 問合せ先

兵庫県保健師キャリア支援センター事務局 担当：藤本  
TEL 078-794-8084 (直通) / 078-794-8080 (代表)  
FAX 078-794-8084  
E-mail phncenter@kobe-ccn.ac.jp

2024年度 新任保健師研修年間スケジュール

別紙1

時期		1年目	2年目	3年目	
月	日	時間/会場			
参加申込み		5/10(金)	参加申込み締め切り		
事前課題		5/14(火)	事前課題(専門的能力評価表)提出締め切り		
【前期Ⅰ】	5/16 (木)	会場	オンライン		
		9:30	講義(個別支援)(90分) 質疑応答 講師:神戸大学大学院 教授 和泉比佐子氏		
		11:00	休憩		
		11:05 12:00	課題の説明(60分) 質疑応答 講師:県庁健康増進課		
	5/21 (火)	会場	オンライン		
		9:30	講義(地域診断)(90分) 質疑応答 講師:神戸大学大学院 教授 和泉比佐子氏		
		11:00	休憩		
		11:05 12:00	課題の説明(60分) 質疑応答 講師:県庁健康増進課		
	5/23 (木)	会場	オンライン		
		9:30	講義(地域診断に基づく事業計画と 評価)(90分) 質疑応答 講師:神戸大学大学院 教授 和泉比佐子氏		
		11:00	休憩		
		11:05 12:00	課題の説明(60分) 質疑応答 講師:県庁健康増進課		
	8/16(金)		研修課題(中間)提出締め切り		
	【前期Ⅱ】	9/4 (水)	会場	神戸市立中央区文化センター	
			10:00	先輩保健師の講話(60分)	
12:00			グループワーク (日頃の活動の振り返り)(60分)		
			休憩		
13:00			グループワーク(120分)		
15:00			課題の共有・質疑応答・意見交換		
			休憩		
15:10			グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成		
9/18 (水)		会場	神戸市立中央区文化センター		
		10:00	先輩保健師の講話(60分)		
		12:00	グループワーク (日頃の活動の振り返り)(60分)		
			休憩		
		13:00	グループワーク(120分)		
		15:00	課題の共有・質疑応答・意見交換		
			休憩		
	15:10	グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成			
15:40	全体発表(30分) 課題に取り組んでの気づき・学び・ 今後に向けて等				
16:10					
16:30	ファシリテーターから総評				

時期			1年目	2年目	3年目
月	日	時間/会場			
【前期Ⅱ】	9/20 (金)	会場			神戸国際会館
		10:00			先輩保健師の講話(60分)
		12:00			グループワーク (日頃の活動の振り返り)(60分)
		13:00			休憩
		15:00			グループワーク(120分) 課題の共有・質疑応答・意見交換
		15:10			休憩
		15:40			グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成
		16:10			全体発表(30分) 課題に取り組んでの気づき・学び・ 今後に向けて等
		16:30			ファシリテーターから総評
		12/20(金)		研修課題(最終)提出締め切り	
【後期】	1/17 (金)	会場	神戸市立中央区文化センター		
		10:30	個別支援の実際(講話)(60分) 講師:中堅期以降の保健師		
		11:30	休憩		
		12:30	グループワーク(120分) 課題・研修全体を通して 学び等意見交換		
		14:30	休憩		
		14:40	グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成		
		15:10	全体発表(30分) 課題や研修全体での気づき・学び・ 今後に向けて		
		15:40			
		16:00	ファシリテーターから総評		
	1/23 (木)	会場	神戸市立中央区文化センター		
		10:30	地域診断の実際(講話)(60分) 講師:中堅期以降の保健師		
		11:30	休憩		
		12:30	グループワーク(120分) 課題・研修全体を通して 学び等意見交換		
		14:30	休憩		
		14:40	グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成		
		15:10	全体発表(30分) 課題や研修全体での気づき・学び・ 今後に向けて		
		15:40			
		16:00	ファシリテーターから総評		
	1/30 (木)	会場	神戸市立中央区文化センター		
		10:30	地域診断に基づく事業計画と評価の 実際(講話)(60分) 講師:中堅期以降の保健師		
		11:30	休憩		
		12:30	グループワーク(120分) 課題・研修全体を通して 学び等意見交換		
		14:30	休憩		
		14:40	グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成		
15:10		全体発表(30分) 課題や研修全体での気づき・学び・ 今後に向けて			
15:40					
16:00		ファシリテーターから総評			
事後課題	2/21(金)	事後課題(①研修事後アンケート及び②専門的能力評価表)提出締め切り			
2月下旬～3月		各所属の実情に合わせて、受講者へのフィードバック(個別指導、合同発表会等) ※必要時教員の派遣依頼も可能			

## 2024年度 新任保健師研修年間スケジュール(1年目)

別紙2

時期			1年目
月	日	時間/会場	
参加申込み	5/10(金)		参加申込み締め切り
事前課題	5/14(火)		事前課題(専門的能力評価表)提出締め切り
【前期Ⅰ】	5/16 (木)	会場	オンライン
		9:30	講義(個別支援)(90分) 質疑応答 講師:神戸大学大学院 教授 和泉比佐子氏
		11:00	休憩
		11:05	課題の説明(60分) 質疑応答 講師:県庁健康増進課
		12:00	
8/16(金)		課題(中間)提出締め切り	
【前期Ⅱ】	9/4 (水)	会場	神戸市立中央区文化センター
		10:00	先輩保健師の講話(60分)
		12:00	グループワーク (日頃の活動の振り返り)(60分)
			休憩
		13:00	グループワーク(120分) 課題の共有・質疑応答・意見交換
		15:00	休憩
		15:10	グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成
		15:40	全体発表(30分) 課題に取り組んでの気づき・学び・ 今後に向けて等
		16:10	
		16:30	ファシリテーターから総評
12/20(金)		課題(最終)提出締め切り	
【後期】	1/17 (金)	会場	神戸市立中央区文化センター
		10:30	個別支援の実際(講話)(60分) 講師:中堅期以降の保健師
		11:30	休憩
		12:30	グループワーク(120分) 課題・研修全体を通して 学び等意見交換
		14:30	休憩
		14:40	グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成
		15:10	全体発表(30分) 課題や研修全体での気づき・学び・ 今後に向けて
		15:40	
		16:00	ファシリテーターから総評
事後課題	2/21(金)		事後課題(①研修事後アンケート及び②専門的能力評価表)提出締め切り
2月下旬 ~3月		各所属の実情に合わせて、受講者へのフィードバック (個別指導、合同発表会等) ※必要時教員の派遣依頼も可能	

※スケジュールは、時間配分が変わる可能性があります。

## 2024年度 新任期保健師研修年間スケジュール(2年目)

別紙3

時期			2年目
月	日	時間/会場	
参加申込み	5/10(金)		参加申込み締め切り
事前課題	5/14(火)		事前課題(専門的能力評価表)提出締め切り
【前期Ⅰ】	5/21 (火)	会場	オンライン
		9:30	講義(地域診断)(90分) 質疑応答 講師:神戸大学大学院 教授 和泉比佐子氏
		11:00	休憩
		11:05	課題の説明(60分) 質疑応答 講師:県庁健康増進課
		12:00	
8/16(金)		研修課題(中間)提出締め切り	
【前期Ⅱ】	9/18 (水)	会場	神戸市立中央区文化センター
		10:00	先輩保健師の講話(60分)
		12:00	グループワーク (日頃の活動の振り返り)(60分)
			休憩
		13:00	グループワーク(120分) 課題の共有・質疑応答・意見交換
		15:00	休憩
		15:10	グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成
		15:40	全体発表(30分) 課題に取り組むでの気づき・学び・ 今後に向けて等
		16:10	
		16:30	ファシリテーターから総評
12/20(金)		研修課題(最終)提出締め切り	
【後期】	1/23 (木)	会場	神戸市立中央区文化センター
		10:30	地域診断の実際(講話)(60分) 講師:中堅期以降の保健師
		11:30	休憩
		12:30	グループワーク(120分) 課題・研修全体を通して 学び等意見交換
		14:30	休憩
		14:40	グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成
		15:10	全体発表(30分) 課題や研修全体での気づき・学び・ 今後に向けて
		15:40	
16:00	ファシリテーターから総評		
事後課題	2/21(金)		事後課題(①研修事後アンケート及び②専門的能力評価表)提出締め切り
2月下旬 ~3月		各所属の実情に合わせて、受講者へのフィードバック (個別指導、合同発表会等) ※必要時教員の派遣依頼も可能	

※スケジュールは、時間配分が変わる可能性があります。

2024年度 新任期保健師研修年間スケジュール(3年目)

別紙4

時期			3年目
月	日	時間/会場	
参加申込み	5/10(金)		参加申込み締め切り
事前課題	5/14(火)		事前課題(専門的能力評価表)提出締め切り
【前期Ⅰ】	5/23 (木)	会場	オンライン
		9:30	講義(地域診断に基づくPDCA)(90分) 質疑応答 講師:神戸大学大学院 教授 和泉比佐子氏
		11:00	休憩
		11:05	課題の説明(60分) 質疑応答
		12:00	講師:県庁健康増進課
8/16(金)		研修課題(中間)提出締め切り	
【前期Ⅱ】	9/20 (水)	会場	神戸国際会館
		10:00	先輩保健師の講話(60分)
		12:00	グループワーク (日頃の活動の振り返り)(60分)
			休憩
		13:00	グループワーク(120分) 課題の共有・質疑応答・意見交換
		15:00	休憩
		15:10	グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成
		15:40	全体発表(30分) 課題に取り組んでの気づき・学び・ 今後に向けて等
		16:10	
		16:30	ファシリテーターから総評
12/20(金)		研修課題(最終)提出締め切り	
【後期】	1/30 (木)	会場	神戸市立中央区文化センター
		10:30	地域診断に基づく事業計画と評価の実際(講話)(60分)
		11:30	講師:中堅期以降の保健師
			休憩
		12:30	グループワーク(120分) 課題・研修全体を通して 学び等意見交換
		14:30	休憩
		14:40	グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成
		15:10	全体発表(30分) 課題や研修全体での気づき・学び・ 今後に向けて
15:40			
16:00	ファシリテーターから総評		
事後課題	2/21(金)		事後課題(①研修事後アンケート及び②専門的能力評価表)提出締め切り
2月下旬 ~3月		各所属の実情に合わせて、受講者へのフィードバック (個別指導、合同発表会等) ※必要時教員の派遣依頼も可能	

※スケジュールは、時間配分が変わる可能性があります。

# 2024 年度 新任期保健師研修会 実施状況

## I. 【前期 I 研修】

### 1 年目相当研修

1) 日時:2024 年 5 月 16 日(木) 9:30~12:00

2) 開催方法:オンライン(ZOOM 開催)

3) 講義:テーマ「個別支援」

講師 神戸大学大学院保健学研究科教授 和泉 比佐子 氏

課題説明「個別支援としての家庭訪問(1 年目)」

講師:兵庫県保健医療部健康増進課

4) 参加者数:81 名(新任期保健師 71 名、聴講者 10 名)

5) 研修結果アンケート:回答数:60 名 回答率:84.5%

### 2 年目相当研修

1) 日時:2024 年 5 月 21 日(火) 9:30~12:00

2) 開催方法:オンライン(ZOOM 開催)

3) 講義:テーマ「地域診断」

講師:神戸大学大学院 教授 和泉 比佐子 氏

課題説明「地域診断(2 年目)」

講師:兵庫県保健医療部健康増進課

4) 参加者数:69 名(新任期保健師 62 名、聴講者 7 名)

5) 研修結果アンケート:回答数:54 名 回答率:87.1%

### 3 年目相当研修

1) 日時:2024 年 5 月 23 日(木) 9:30~12:00

2) 開催方法:オンライン(ZOOM 開催)

3) 講義:テーマ「地域診断に基づく事業計画と評価について」

講師 神戸大学大学院保健学研究科教授 和泉 比佐子 氏

課題説明:「地域診断に基づく PDCA(事業計画と評価)(3 年目)」

講師:兵庫県保健医療部健康増進課

4) 参加者数:参加状況:86 名(新任期保健 76 名、聴講 10 名)

5) 研修結果アンケート:回答数:63 名 回答率:82.9%

## II.【前期Ⅱ研修】

### 1年目相当研修

- 1) 日時:2024年9月4日(水)10:00～16:30
- 2) 場所:神戸市立中央区文化センター
- 3) 内容: 講義 テーマ「先輩保健師による講話」  
講師 自治体 2年目保健師  
グループワーク(課題に対するグループ指導)
- 4) 参加者数: 参加状況:71名  
(健康福祉事務所 17名、中核市 15名、市町 28名)  
ファシリテーター18名  
(県庁・健康福祉事務所 5名、中核市 4名、市町 1名、大学 4名)
- 5) 研修結果アンケート:回答数:61名 回答率:85.9%

### 2年目相当研修

- 1) 日時:2024年9月18日(水)10:00～16:30
- 2) 場所:神戸市立中央区文化センター
- 3) 内容: 講義 テーマ「先輩保健師による講話」  
講師 自治体 3年目保健師  
グループワーク(課題に対するグループ指導)及び全体発表
- 4) 参加者数: 参加状況:60名  
(健康福祉事務所 17名、中核市 15名、市町 28名)  
ファシリテーター14名  
(県庁・健康福祉事務所 5名、中核市 4名、市町 1名、大学 4名)
- 5) 研修結果アンケート:回答数:57名 回答率:95.0%

### 3年目相当研修

- 1) 日時:2024年9月20日(金)10:00～16:30
- 2) 場所:神戸市立中央区文化センター
- 3) 内容: 講義 テーマ「先輩保健師による講話」  
講師 自治体 4年目保健師  
グループワーク(課題に対するグループ指導)及び全体発表
- 4) 参加者数: 参加状況:70名  
(健康福祉事務所 17名、中核市 20名、市町 33名)  
ファシリテーター17名  
(県庁・健康福祉事務所 6名、中核市 3名、市町 1名、大学 7名)
- 5) 研修結果アンケート:回答数 62名 回答率:88.6%

### Ⅲ.【後期研修】

#### 1年目相当研修

- 1) 日時:2025年1月17日(金)10:30～16:00
- 2) 場所:神戸市立中央区文化センター
- 3) 内容:講義 テーマ「中堅期保健師による講話～個別支援の実際」  
講師 自治体 中堅期保健師  
グループワーク(課題に対するグループ指導)及び全体発表
- 4) 参加者数: 参加状況 62名  
(健康福祉事務所 11名、中核市 19名、市町 32名)  
ファシリテーター17名  
(県庁・健康福祉事務所 6名、中核市 6名、市町 2名、大学 3名)
- 5) 研修結果アンケート:回答数:40名 回答率:67.7%

#### 2年目相当研修

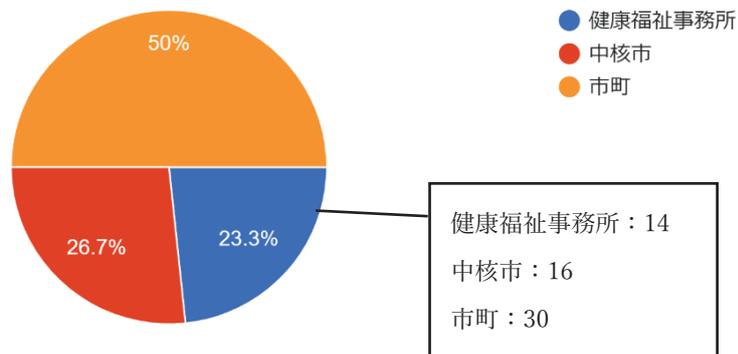
- 1) 日時:2025年1月23日(木)10:30～16:00
- 2) 場所:神戸市立中央区文化センター
- 3) 内容:講義 テーマ「中堅期保健師による講話～地域診断の実際」  
講師 自治体 中堅期保健師  
グループワーク(課題に対するグループ指導)及び全体発表
- 4) 参加者数: 参加状況 59名  
(健康福祉事務所 17名、中核市 15名、市町 27名)  
ファシリテーター13名  
(県庁・健康福祉事務所 5名、中核市 4名、大学 4名)
- 5) 研修結果アンケート:回答数:53名 回答率:89.8%

#### 3年目相当研修

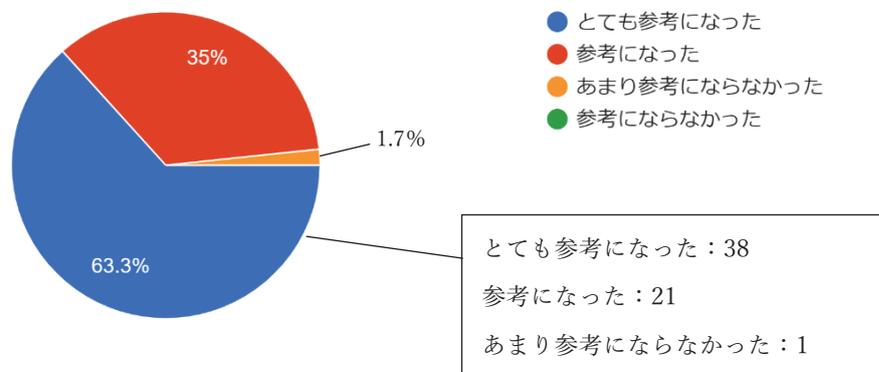
- 1) 日時:2025年1月30日(木)10:30～16:00
- 2) 場所:神戸市立中央区文化センター
- 3) 内容:講義 テーマ「中堅期保健師による講話～PDCAの実際」  
講師 自治体 中堅期保健師  
グループワーク(課題に対するグループ指導)及び全体発表
- 4) 参加者数: 参加状況 67名  
(健康福祉事務所 16名、中核市 19名、市町 32名)  
ファシリテーター17名  
(県庁・健康福祉事務所 7名、中核市 3名、大学 7名)
- 5) 研修結果アンケート:回答数:65名 回答率:97.0%

研修参加者：71名、アンケート回答者：60名(回答率 84.5%)

【1】研修参加者の所属機関



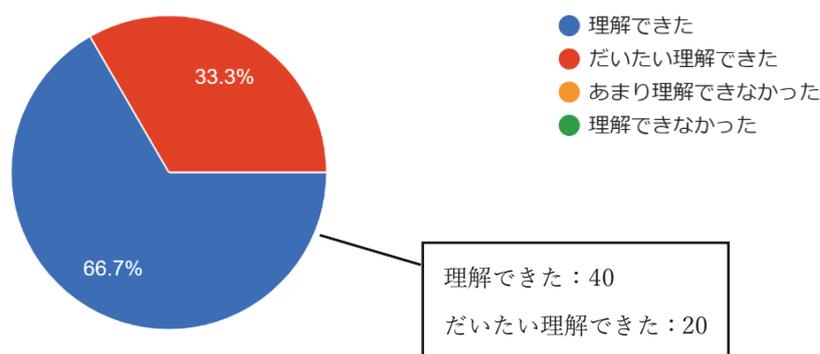
【2】「個別支援」の講義について



【3】「個別支援」の講義についての学び・感想

講義についての学び・感想		
研修内容について (17)	アセスメント(10)	今まで、訪問計画を立てる中で、情報収集やアセスメントで悩む場面が多くあり、情報収集の枠組みや、それぞれのアセスメントのポイントを学ぶことができた。
		対人支援のアセスメントの方向性についてイメージがついた。
	理論の活用(7)	理論や枠組みを用いた情報収集やアセスメントの重要性を改めて学ぶことができた。
		保健師の代表的な業務の一つである家庭訪問などの個別支援の理論について、理解を深めることができたと考ええる。
		対象者を理解しアセスメントする上で理論等を活用することが重要であると思った。
	個別支援対象の理解、保健師業務に活かせること(16)	個別支援の学び(7)
どのような視点で個別支援を行えばいいのか学ぶことができた。		
保健師としての学び(9)		対象にどうなって欲しいのかという視点の大切さを改めて感じることができた。
		原点に立ち戻って、どういう視点が大切であるとかということを改めて学ぶことができた。
		今後の業務に活かしていける内容だと感じた。
取り組み方の学び(4)		重要なポイントとなるところを説明してくださったので、何を大切にして取り組むとよいかがわかった。
講義の内容について(8)		保健師に関する講義を受講するのが10年以上前であったため、新しい内容を学べた。
	学生の頃に学習した内容を思い出すことができた。	

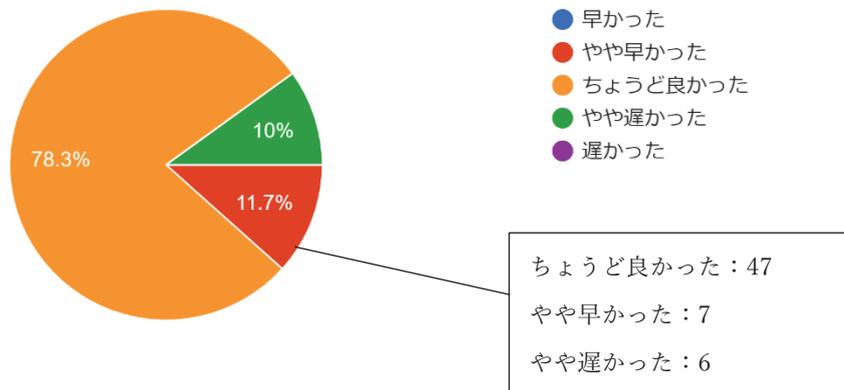
【4】「個別支援としての家庭訪問 ～1年目の課題の取り組み方～」の説明について



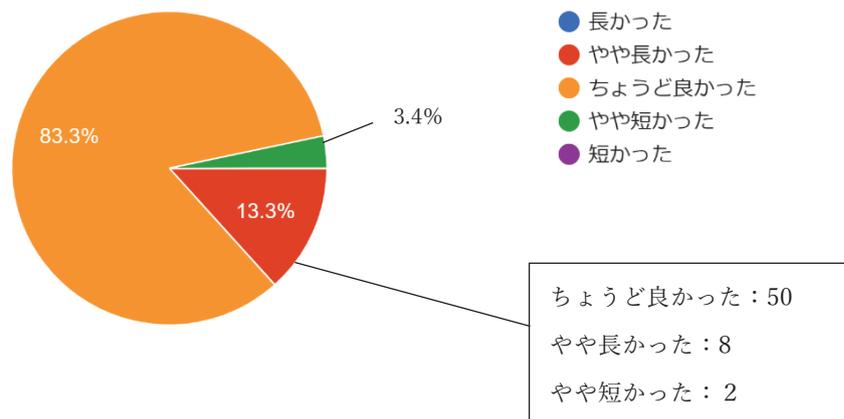
【5】「個別支援としての家庭訪問 ～1年目の課題の取り組み方～」の説明について

説明について	
家庭訪問について(15)	生活者を支援するという視点で家庭訪問の必要性を改めて理解することができた。
	家庭訪問をこれから予定しているので、実践してまた理論に戻るよう心がけたいと思う。
	今後家庭訪問を行う上で大切なことや、着眼点について学び、深めることができた。
個別支援について(6)	コミュニケーションの中で、相手が話したことを明確化して確認をとることで認識のすれ違いを防止することができることを理解し、是非訪問した際に実践してみたいと感じた。
	個別支援という名前であっても、個人に家族の存在は大いに影響するため、個人だけでなく家族を1単位として考える必要性を改めて感じる事ができたから。また、課題様式の記載方法は、日々の記録でも活用したいと思う内容が多かった。
	課題に取り組むにあたっての情報収集から支援の方向性決定までイメージできた。
	課題についての取り組み方、家庭訪問での視点などよく分かることができた。
講義内容について(11)	先の講義の先生の講義資料と関連させて説明をしていただいたので、理解しやすかった。資料の構成もわかりやすく、理解がしやすかった。
	パワーポイントのスライドで、それぞれの項目のポイントがわかりやすく、今後課題を行っていく上でもためになると感じた。

【6】 研修の開催時期

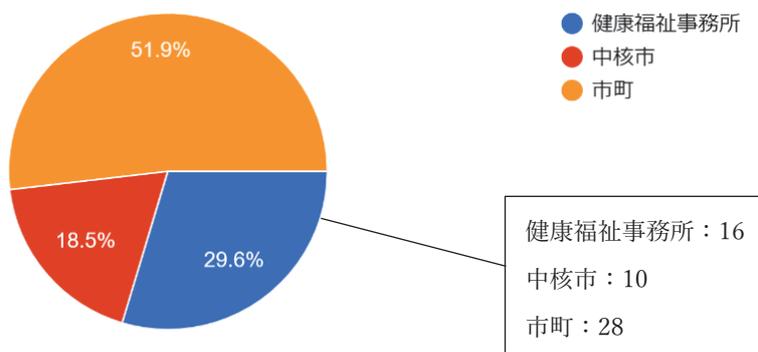


【7】 研修の時間

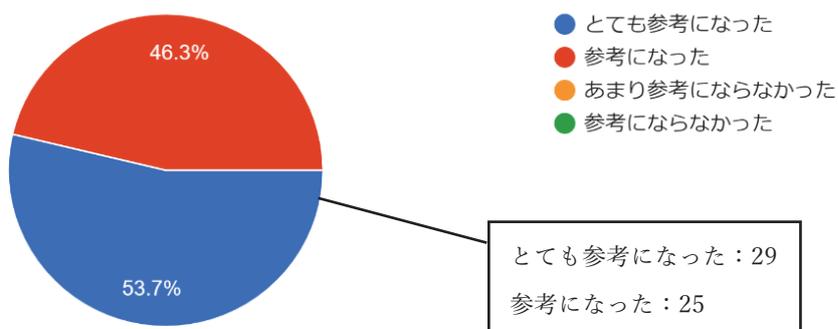


研修参加者：62 名、アンケート回答者：54 名(回答率 87.1%)

【1】研修参加者の所属機関



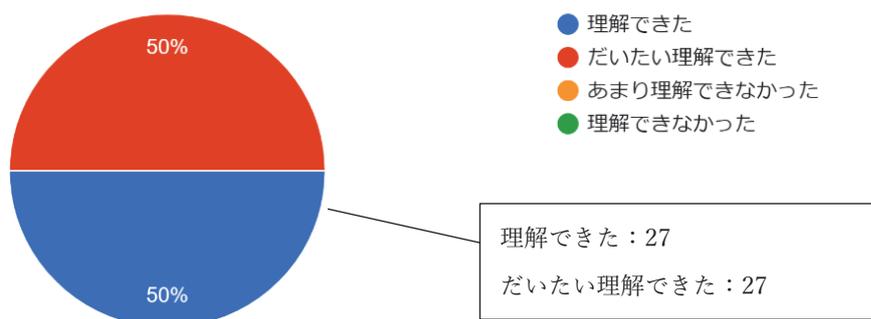
【2】「地域診断」の講義について



### 【3】「地域診断」の講義についての学び・感想

講義についての学び・感想	
研修内容について(13)	具体例を提示しながらわかりやすく説明してくださり、理解しやすく参考になった。
	詳しい話が聞けたことで、自分の中でモヤモヤしていたわからないことが分かったため。コミュニティ・アズ・パートナーモデル等、学生の時に学んだ理論を再度確認することができ、復習をしようと思うことができた。
	健康課題について、ネガティブな状況だけでなくポジティブな状況も含め、生活を捉えていくことが重要だと学んだ。また緊急性や重要性だけではなく、費用対効果を考慮して優先順位をつけて支援する必要性を感じられた。
地域診断について(17)	地域診断における、アセスメントが必要な項目について具体的に知ることができた。
	地区診断においてどのような視点から地区を見ていけば良いか分かりやすく理解できた。
	普段の業務では、地区診断など意識する余裕があまりないので、この度改めて地区診断のポイントなどを復習できていい機会になった。
	個別支援の考え方が基本となって地域診断が行えることを再認識した。また、地域アセスメントを行ううえでの地域社会の構成要素やその項目について学ぶことができた。

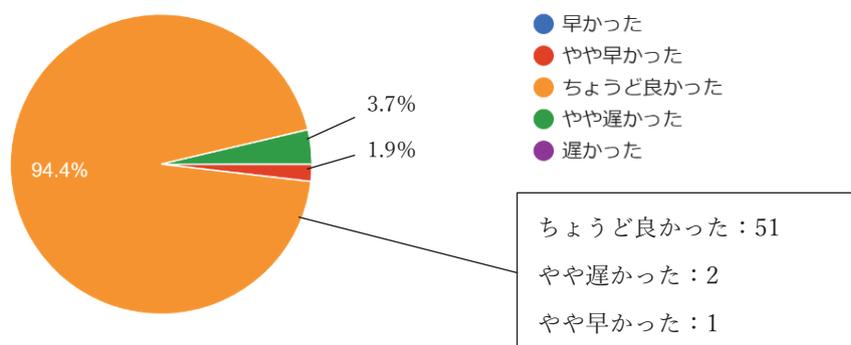
### 【4】「地域診断～2年目の課題への取り組み方～」の説明について



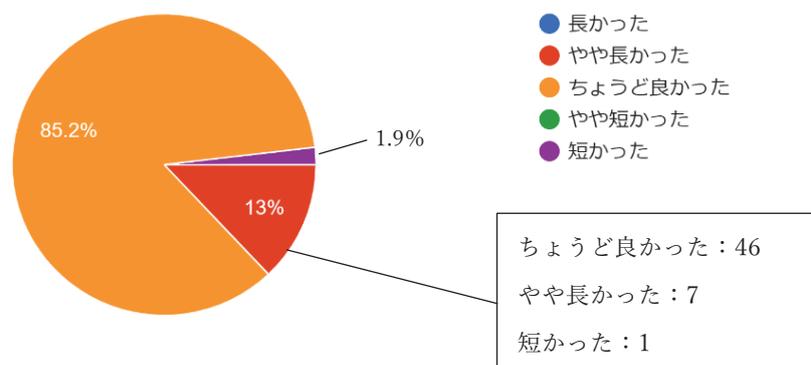
【5】「地域診断～2年目の課題への取り組み方～」の説明について

説明について	
研修内容について(18)	地域アセスメントをするうえで、地域診断についての講義で学んだことをもとにしていくことが大切だと学んだ 統計データだけでなく、日々の活動のなかでアンテナを張り、得られるデータや声も反映して地域診断に取り組んで行きたい。
	個別支援を土台にし、地域への視点へ広げていく重要性を感じた。
	課題の書き方や考え方等を「地域診断」の講義と関連付けて伝えてくれたり、実際の思考を伝えてくれたため分かりやすかった。
	課題について1つずつ具体例を挙げながら説明して下さり、イメージしやすかった。
様式の記入の仕方について(10)	様式の書き方にいつも悩むため、説明があって書き方での悩みが減ったと思った。ポイントをわかりやすく伝えていただき助かった。
	実際の事例を用いた記入例がわかりやすかったです。
	課題シートに沿って進め方を丁寧に教えて頂いたので、分かりやすく理解につながった。

【6】研修の開催時期



【7】研修の時間

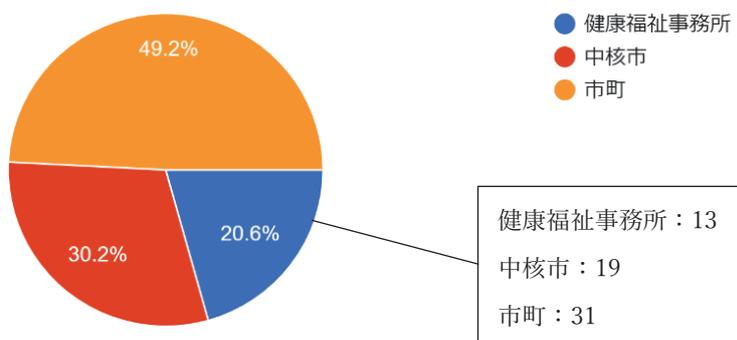


【8】研修全体を通しての感想

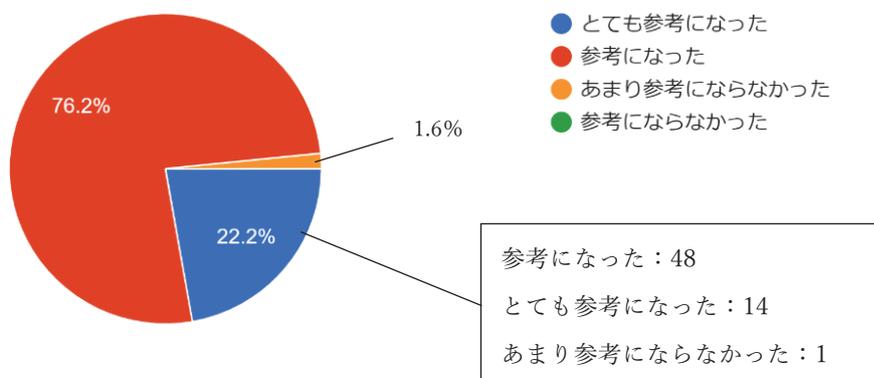
研修全体の感想	
研修の時期について(2)	テーマを考える参考になるので、テーマ決定前に研修の時期を設定してほしい。
	課題説明の時期がもう少し早いほうが良い。研修内容は、よく分かった。
研修内容について(9)	昨年度より課題のスケールが大きくなったが、「地域診断」の講義から日々の保健師活動の積み重ねの延長に地区把握があることがわかり、取り組むべき課題が明確になった。課題への取り組みを通してデータ活用の手法を身につけていこうと思う。
	2年目となり、個別支援から地域全体への支援を学んでいくことの意識付けをすることができた。
	難しかったです。日々の保健活動を改めて考えられる機会でした。課題を頑張ろうと思った。

研修参加者：76 名、アンケート回答者：63 名(回答率 82.9%)

【1】研修参加者の所属機関



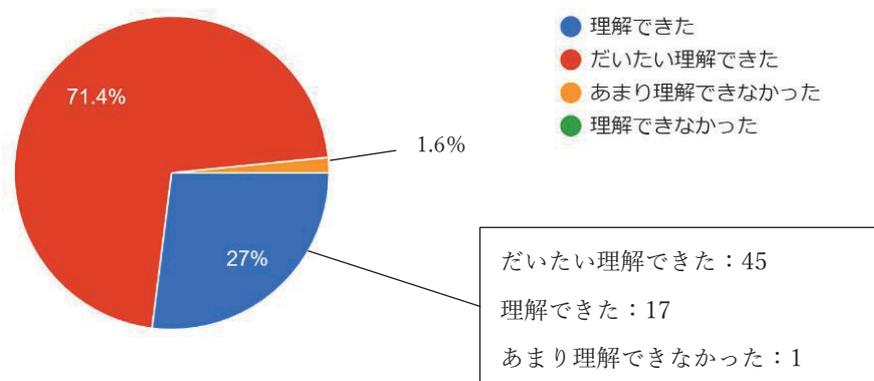
【2】「地域診断に基づく事業計画と評価について」の講義について



【3】「地域診断に基づく事業計画と評価について」の講義について

講義の学び・感想	
研修内容について(12)	PDCA サイクルについての研修を受けたのが初めてで、情報収集から評価までの流れが分かった。
	大学での講義を思い出しました。正確に分析を行うため、情報収集には留意しようと思った。
	少し内容が難しかったですが、課題に取り組むにあたって参考になった。
事業計画と評価について(13)	事業計画の概要と詳細について詳しく説明があったから
	計画と評価について、根拠に基づいた説明があり、わかりやすかった。
	評価の仕方など忘れていた部分もあったので復習することができてよかった。市の総合計画など把握できていないところもあるのでこれを機に確認して日ごろの業務と結び付けていきたいと思った。
研究資料について(4)	データ分析について説明をされていたところが役に立った。

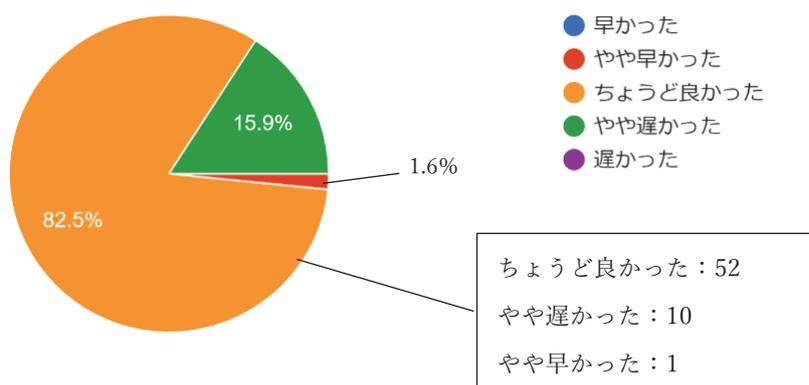
【4】「地域診断に基づく PDCA～3年目に関する課題の取り組み方について」の説明について



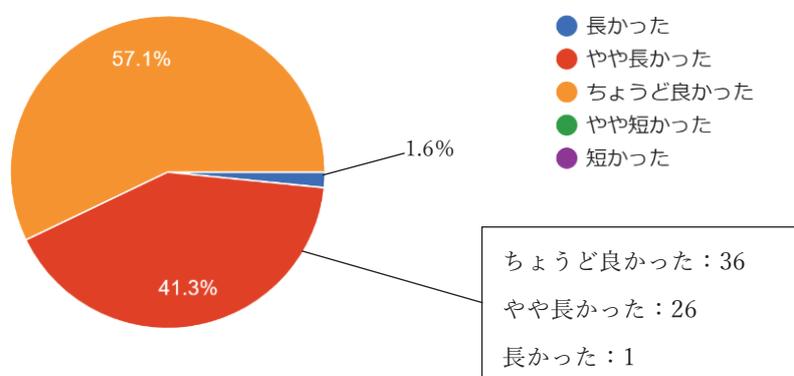
【5】「地域診断に基づく PDCA～3 年目に関する課題の取り組み方について」の説明について

説明について	
研修資料について(3)	資料がわかりやすかった。
	具体例を資料として呈示いただけたことで、イメージがつきやすかった。
課題への取り組みについて(23)	課題について順序立てて説明があったのと、記載例で想像しやすかった。
	様式を参照しながら、丁寧に教えていただきました。考え方の流れが分かった。
	1 年目、2 年目の研修で学んだことを活かしていくこと、全て繋がっているということがよくわかった。
	PDCA サイクルについて改めて認識することができた。

【6】研修の開催時期



【7】研修の時間

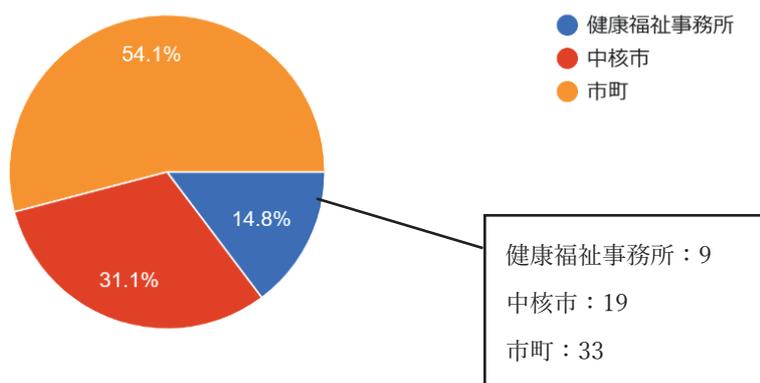


【8】研修全体を通しての感想

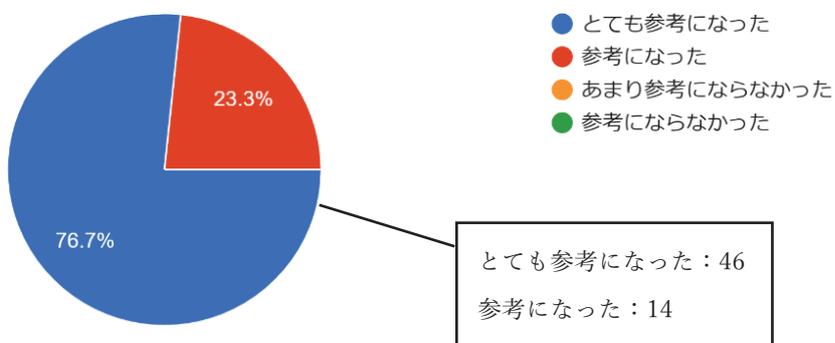
研修全体の感想	
講義資料について(2)	今までの復習も兼ねて、よく分かった。
統計について(3)	出来れば検定を用いた評価方法を計画に入れてみたいと感じました。難しいと思いましたが、また勉強してみたいと思う。
今後の取り組み(4)	有意義な時間でした。研修を通して、地域の課題に目を向けながら日頃の業務を振り返り、より良い支援になるよう努めていきたい。
	課題に取り組むうえで、情報収集の注意点や指標を示していただけたことは非常にありがたかった。

研修参加者：71 名、アンケート回答者：61 名(回答率 85.9%)

【1】 研修参加者の所属機関



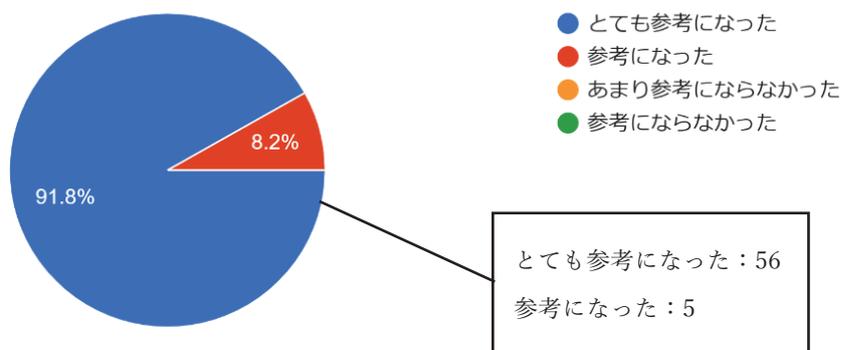
【2】 先輩保健師からの講話について



### 【3】先輩保健師の講話からの学び

講話からの学び		
業務について(10)	報告連絡相談(3)	報告、連絡、相談の大切さ。嫌だと思ふ報告こそ、早くする必要がある。 何かあった時の報告の重要性を学んだ。
	具体的な保健師業務(7)	経験を交えてわかりやすく講話していただき、支援ノートや工夫していることについての話はとても参考になった。
		病態だけでなく、その人の人生に目を向けること。
	仕事への姿勢(16)	積極性・向上心(9)
相談・意見交換する(5)		
		自分自身を大切にする(2)
講話を通しての学び(5)		1年のなかで成長しておられる姿に私も頑張ろうと思った。
		失敗することやわからないこともある中、目の前の事例に一生懸命に取り組むことが成長につながるということ。

### 【4】グループワークについて



【5】グループワークを通して、今後、課題に取り組む上で参考になったことや、学んだこと、気づいたこと

グループワークを通しての学び・気づき	
対象の理解(23)	思い込みをすることのないように、その人の生活をいろんな角度から見ることの大切さがわかった。また外国人の対象者の場合は、文化の違いも考慮する必要があると気づいた。
	母子本人のことだけでなく周囲の環境についても情報収集することが大切だと学んだ。また、母の思いを傾聴した上で見守る時は見守り、母が今行っていることを聞き、できていることをほめることや、求められたアドバイスなどを適切に行うことが大切だと学んだ。
	家族とまとめて書くのではなく、家族のなかでも夫はどうか、長男はどうか、一人一人を捉えることで、家族全体をより深く理解することができるということを学んだ。
	対象者の実際の生活を具体的にイメージして情報収集、アセスメントする。
多角的な視点(17)	多角的な視点を持ち、先入観や価値観を対象者に押し付けないように、同じ目線で物事を考えるということが大切だと学んだ。
	先入観を持たないことの大切さや視野を広げた支援をして行くこと、また、生活の視点を大切にこれからも支援して行きたいと思った。
	自分では気付かない視点での意見がありとても勉強になった。
介入や支援の工夫(8)	社会資源をただ伝えるだけでなく、実際に活用できるように対象者の特性をとらえて伝える。
	常に今の本人の思い考えを踏まえ介入を検討する。
	聞くことの大切さを学んだ。聞きづらいから聞かないというようにしては、相手を知れないため、聞き手を工夫しながら相手を知れるようになっていきたいと思った。
情報収集について (3)	情報は自ら足を運んで取りに行くことも意識する。
	家族単位で情報を収集するという視点。
目標の設定について(1)	短期目標や長期目標の設定について。

【6】研修を受ける前の事前課題の作成を通じて学んだこと、課題に取り組むにあたって難しかったこと

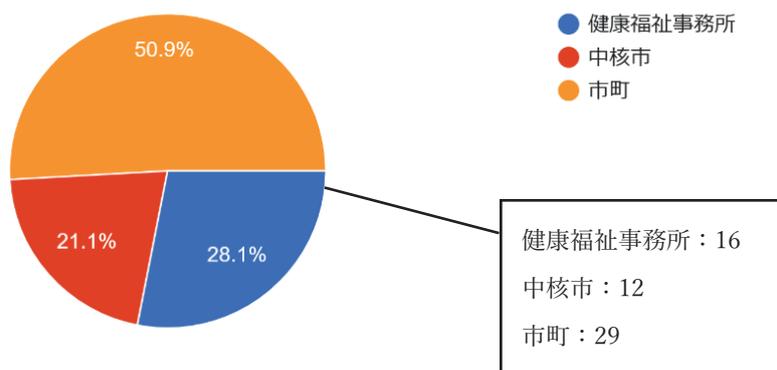
事前課題の作成を通じて学び・課題に取り組むにあたって難しかったこと		
対象の理解・個別事例(6)		頭の中で考えていることを整理して書き出す作業を行うことで、対象者の理解を深めることにつながった。
		本人の疾患に目を向けがちになるが、その方の生きていた生活背景から強みを見つけ、そこからアプローチして行くことが大切であると学んだ。
情報収集・整理(18)		改めて情報を整理してしっかりアセスメントするのはとても良い時間になった
		課題を通して情報整理をすることで、対象者の健康課題や支援のポイントが明確化することを学ぶことができた。
		第3者が読んでもわかりやすいように、情報を取捨選択しながら記入するのが難しかった。
様式の活用・課題の取り組み (28)	課題への取り組み (15)	ケースの課題の優先順位のつけ方や目標・計画の関連性を考えることが難しかった。今回の研修で解決できてよかった。
		自分1人だけの視点では狭かったけれど、他者からの意見を聞いたので今後課題に反映させる上で参考にしていきたい。
	アセスメント(8)	目標を決め、情報を書きアセスメントすることで今後この人に何が必要なのかが見えてきて良かった。
		普段の業務でしっかり様式に基づいてアセスメントする時間が無いので、課題として取り組めてよかった。
	計画(5)	一度フォーマットに沿って事例への支援計画を書くことで、基礎に立ち直って支援の在り方や、方法を考えることができ、今後の支援へ繋げることができる学びになった。
		今回、計画を立てて対象者の全体像をまとめることで視覚的に対象者のことが見えて、その人が求めていることだったり、必要な支援などをより深く考えることができた。

【7】研修全体を通しての感想

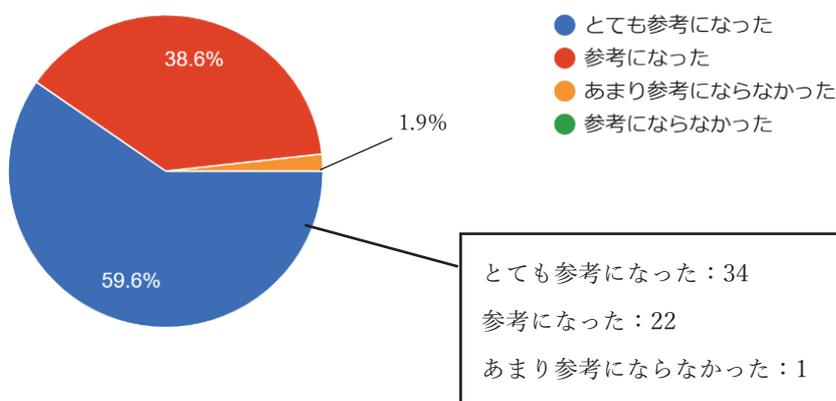
研修全体の感想	
対象の理解・支援(4)	いい意味で対象者への支援に慣れて、自分の中で保健師像を確立していくことができればと思う。
	対象者の立場に立ち支援計画を立てることが大切ということを学んだ。
他自治体保健師との意見交換・多角的な視点を学べた(12)	様々な自治体の保健師の方と関わることができ、それぞれの自治体の特色があることなど、新たな視点の発見に繋がった。
	午前、午後ともにとっても参考になる講義やグループワークができてすごく有意義な時間になった。
	GW にファシリテーターの方が入ってアドバイスをくださり勉強になった。
1年目保健師どうしの交流(11)	異なる職場で頑張っている同僚と、日頃の大変さや楽しさなどを共有する機会になり、とても励みになった。
	保健師の同期と顔を合わせる機会が少ないので、このような機会を作っただけだと、自分のリフレッシュにもなってとても良いと思った。
	他市の保健師の活動や地域の様子を知ることができとても勉強になった。同じように1年目保健師として頑張っている方がたくさんいることを知り、頑張りたいと思った。

研修参加者：60名、アンケート回答者：57名(回答率 95%)

【1】研修参加者の所属機関



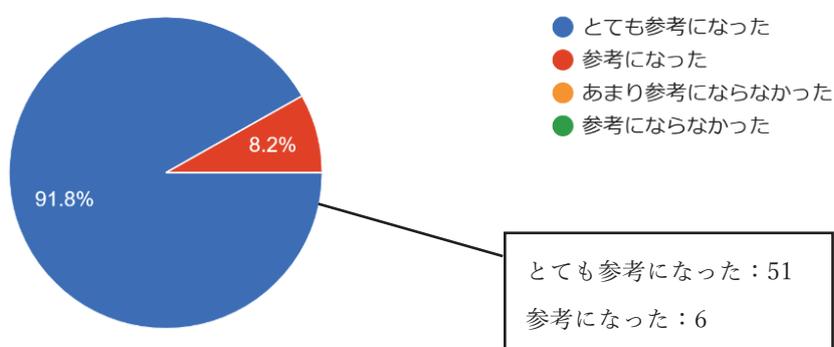
【2】先輩保健師からの講話について



### 【3】先輩保健師の講話からの学び

講話からの学び		
個別支援と事業の両立(9)	<p>2年目になり、個別支援と事業の両立に悩むというところがとても共感できた。</p> <p>個別支援と事業の両立は難しいが、先輩保健師や上司と相談しながら支援を進めて行きたいと感じた。</p> <p>個別支援と事業の両立の難しさは多くの人が感じていることであると知った。</p>	
業務に対する姿勢や大切なこと(20)	<p>苦手なことへの取り組み(7)</p> <p>苦手なことへ新任期のうちに積極的に取り組んでいくとこの大切さを改めて感じた。</p> <p>苦手なことこそ、積極的に取り組む大切さを学んだ。</p>	
	<p>新たなことへの挑戦(13)</p> <p>未経験で当たり前でも苦手な業務は避けてしまいがちでしたが、新任期の今でこそ様々な経験をするこの大切さを再認識した。</p> <p>経験は学びなので、苦手と思っていることこそ積極的に挑戦していきたい。</p> <p>積極的に何事にもチャレンジしていこうと思う。</p>	
	業務の工夫(1)	<p>進行管理のため、リスト化し、先輩と共有したという話が参考になった。</p>
	講話を通して(14)	<p>自分が今感じていることを先輩保健師も感じていたのだ知ることができて安心した。</p> <p>経験談を聞くことで、自身の目標や取り組みを考え直すきっかけになった。</p> <p>経年毎の事業やその時の想いが聞け、良かった。</p>

### 【4】グループワークについて



【5】グループワークを通して、今後、課題に取り組む上で参考になったことや、学んだこと、気づいたこと

グループワークを通しての学び・気づき	
地域特性(3)	地域の特長（背景）について、再度考え直すきっかけになった。データを見直し、計画立案する方向性を固められたのがよかった。
データの重要性(18)	関係機関に実際にヒアリングをして、生の声を聞くことで連携がしやすくなると思った。
	量的なデータだけでなく住民の声を聞きながら質的なデータ収集していきたいと思った。
	質的データをもっと活用しようと思った。同じ課題でも地域によって背景が違っているのので、自分の地区の背景をもう少し具体的に調べようと思った。
個別から地域（集団）へ(2)	個別支援から健康課題を導き出したい。
課題の優先順位(1)	課題の優先順位の考え方で、重大性や緊急性だけでなく、目的に立ち返ることも方法の一つと知ることができた。
多角的な視点・他市との違い(13)	いろいろな地域での取り組みを知ることができた。様々な視点で意見を出し合うことができ、勉強になった。
	同じ健康課題でも市町によって異なる計画になる。
	どこの市町も同じような事業を展開しておりその中で工夫点などが聞け、自身の業務に結びつけることが出来ると思った。
	人数規模や利便性等市町によって違うなかでも同じような健康課題があり、そこを検討するなかで地域による強みに気づくことができた。
モデル事例を通しての学び(2)	個別指導を通して、課題に取り組んでいくサイクルへの理解。
強みへの着目(3)	日々当たり前と感じている地域資源が強みにつながる。強みを活かした課題の検討をしていくのも良いと思った。
事業の背景を知る重要性(3)	事業の背景や目標、課題などについて理解することで今後の健康課題などへつながっていくことを学んだ。
その他の気づきや学び(7)	頭の中を整理して必要な情報を分析することは漠然とした課題感を解消して有効な保健活動に繋がると感じた。
	情報をまとめて整理をすることで、根拠を持って他の関係機関に保健師の仕事を理解してもらうことにも繋がり、日々の活動に直結することを実感できた。

【6】研修を受ける前の事前課題の作成を通じて学んだこと、課題に取り組むにあたって難しかったこと

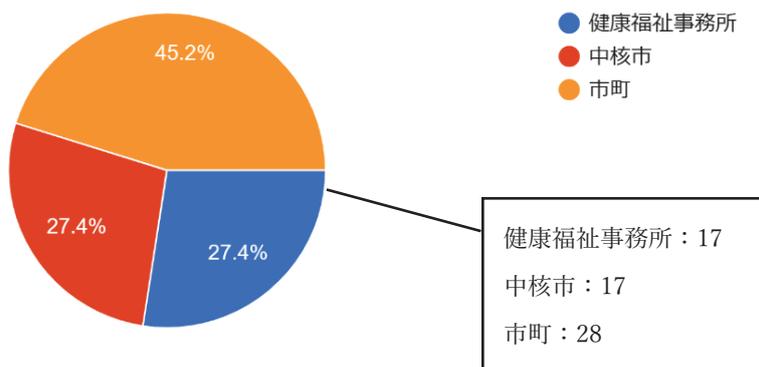
事前課題の作成を通じて学び・課題に取り組むにあたって難しかったこと		
地域診断の難しさ(25)	データ収集(12)	地域の課題を考え、その上でデータを見出すこと、収集することが大変だった。
		データベースの見方や、欲しい情報がどこにあるのかなど分からないことが多かった。
		関連図を書くことで、地域にどのような社会資源や施設があるのか改めて感じる事ができた。
	課題抽出(6)	同じような健康課題があっても背景には地域特性があることを学んだ。地域特性に応じた計画を立案したい。
アセスメント(5)	地域の課題を絞るのが難しかったが、視野を広げて課題を考えたい。	
	アセスメントを活用して、市町の実情に合わせた具体的な計画立案に取り組んでいきたい。	
地域特性(2)	個別支援で気になっていたこととデータを統合させ、地域をアセスメントすることで、今まで何となく気になっていたことが明確になった。	
	地域の特徴を捉えるのが難しかった。	
優先順位のつけ方(1)	優先順位のつけ方、情報をつなげてアセスメントすることが難しかったが勉強になった。	
業務内での取り組み(7)	普段の業務に合わせて課題をすることがとても大変だった。	
	業務の中で時間が短くとても大変だったが、思考のプロセスを学ぶことができよかった。	
課題の難しさ(9)	どこになにを記載すればよいか等つながりが分からなくなり、混乱することがあり難しかった。	
	課題は日々の業務の中で取り組むのは大変だったが、他市の保健師と意見交換をおこない、自身の課題へも当てていけることがあるなど思った。	
所属での限界(2)	担当地区がない中だったので、地域の特性について課題をするのが難しかった。	
	個別ケースがあまりないため、質的データを収集するのに苦労した。	

【7】 研修全体を通しての感想

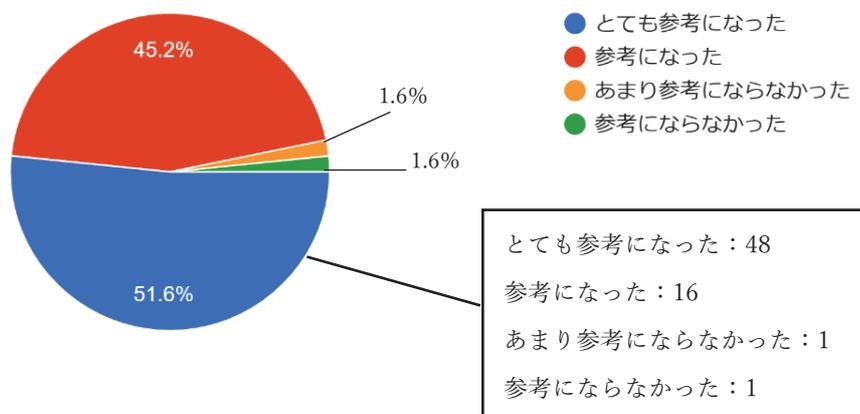
研修全体の感想	
情報交換の機会・グループワークのよさ(12)	グループワークをすることで、メンバーの意見を聞けたり、ファシリテーターの方の助言を聞けたり、勉強になった。
	様々な地域の話聞くことで、自分の地域の強みにも気づくことができた。話すことで気づくことが多かった。
	いろんな人たちの意見が聞ける場になってよかった。
対面研修のよさ(2)	対面の方が話しやすいので、研修は対面が嬉しい。中々職場では言いにくいモヤモヤを共有したり、各自治体の取り組みを知る良い機会になった。

研修参加者：70 名、アンケート回答者：62 名(回答率 88.6%)

【1】研修参加者の所属機関



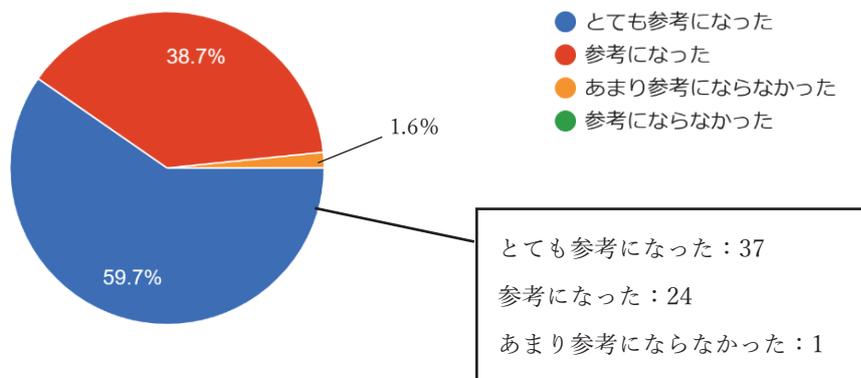
【2】先輩保健師からの講話について



### 【3】先輩保健師の講話からの学び

講話からの学び	
先輩の経験を知れた(9)	これまで自分が歩んできたステップを先輩保健師も同じように進んできたのだと知ること、学びだけでなく、自身の成長が感じられる機会になった。
	同じ思いを抱えながら仕事されていたんだなと思った。
	今までの経験から、先輩が初めての経験する業務に対してどのように乗り越えてこられてきたか努力の仕方を知ることができて良かった。
仕事に対する姿勢(10)	事業の成り立ちとゴールを考える話が特に、主担当をしている今、印象的だった。
	小さな疑問がのちのち事業に関わる情報にもなり得るということ。日々の業務の気づきを大切にしたい。
	中堅に向けて、小さな気づきから実行していく力を身につけていかなければいけないと考えることが出来た。

### 【4】グループワークについて



【5】グループワークを通して、今後、課題に取り組む上で参考になったことや、学んだこと、気づいたこと

グループワークを通しての学び・気づき		
課題について(17)	明確・具体的に記載すること(10)	現状、課題、目標、評価など具体的に記載することで、より実態に応じた事業展開が可能だとわかった。
		個別ケースの情報を課題に活かすこと、抽象的な記載にならないことを参考にしたい。
		目的の明確化、目的と計画内容に矛盾が生じていないか確認することが大切。
	課題へのとりくみ(7)	モデル事例のテーマは自分のテーマと違っていたが、保健師として必要な考え方や視点について考えることが出来た。
		グループワークで課題の検討をすることで、自身の課題も客観的にみることができ、健康課題や評価方法などの修正に生かすことができそうだ。
他市について知れた(6)		他市の事業展開の実際を知ることができて良かった。
		他市の事業と比較できたのが良かった。
データや情報の不足・学び(5)		データの不足に気づくことができた。
		評価指標のところはグループワークの内容を生かしていきたい。
多角的な視点(4)		グループで話していると、自分の考えの整理にも繋がりました。先生のアドバイスでなるほどと思ったりできて、有意義な時間だった。
その他(3)		同じ経験年数の人と普段の業務のしんどさ、やりがいについて共有できたのはよかった。

【6】研修を受ける前の事前課題の作成を通じて学んだこと、課題に取り組むにあたって難しかったこと

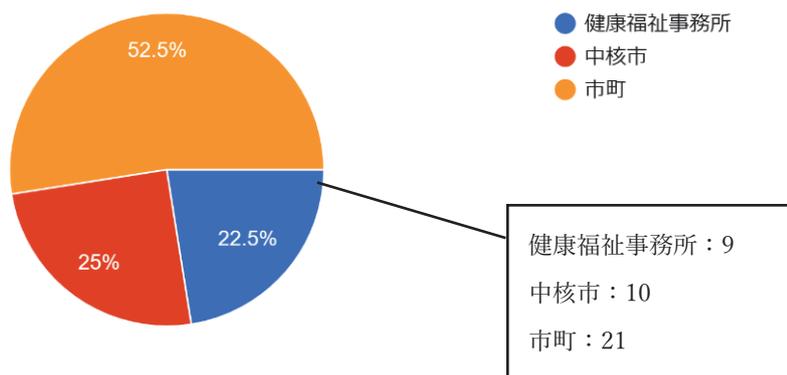
事前課題の作成を通じて学び・課題に取り組むにあたって難しかったこと		
難しかったこと (22)	課題への取り組み (8)	データを集めてくるが大変でしたが、データを集めないと見えないことがわかった。
		一つの事業を取り上げての課題作成だったが、ゴールがなかなか見えない中でPDCAを回す難しさを感じた。
		市の政策や方針が大きな枠組みで立てられているため、今回のピックアップした事業計画に落とし込む際に修正していくことが難しかった。
	情報の取捨選択(3)	どのデータが必要か取捨選択すること。
	目的・目標(3)	事業実施において、あらかじめ目的や計画を具体的にすることで、何のために実施しているかが明らかとなり、次回以降の改善につながると学んだ。
	評価指標(6)	評価のしかたを具体的にしておくことを学んだ。
テーマの特性上、事業展開における評価方法や指標の書き方が難しかった。		
分析(2)	必要な情報を集め、分析しまとめることが難しかった。	
業務の中での負担(5)	日々の業務の中で課題に取り組む時間を作るのがとても難しく、大変だった。	
	他業務の主担当もする中で時間のやりくりが難しかった。しかし、課題に取り組むことで事業の担う役割を学ぶことができた。	

【7】研修全体を通しての感想

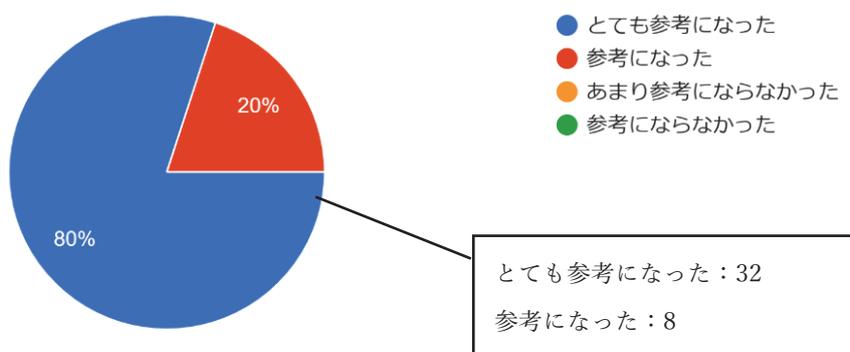
研修全体の感想	
グループワークについて(4)	グループワークで意見交換することで見えてくる視点があるので、やはり対面するのはよいと感じた。
他自治体との交流(3)	健康福祉事務所や中核市など様々な立場の話が聞けて勉強になった。
学び・その他(5)	今取り組んでいる事業を様々な組み合わせることで、より広く住民に知ってもらうことができ、事業実績も大きく伸びることが分かった。

研修参加者：62 名、アンケート回答者：40 名(回答率 67.7%)

【1】 研修参加者の所属機関



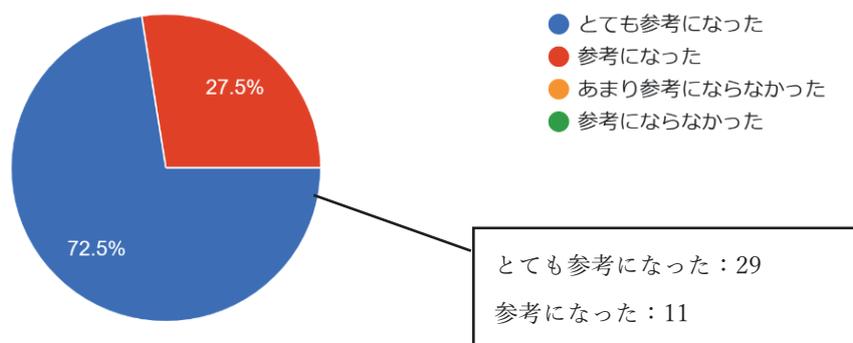
【2】 中堅期保健師からの講話について



### 【3】中堅期保健師の講話からの学び

講話からの学び	
情報収集・整理・共有について(17)	情報収集、整理の際は、主語を明確にしておくことが大切だと分かった。今後の活動時に注意したいと思う。
	個別支援の具体例をきき、情報収集やアセスメントのポイントを知れた。
	情報収集する手段を、時期・方法・対象を意識して選択すること、本人の思いを常に確認することが必要ということを改めて学んだ。一方で手段にとらわれすぎず、目標を明確にして関わることも大切と学ぶことができた。
	具体的な事例から、情報の整理の方法を学ぶことが出来た。
アセスメントについて(4)	アセスメントの方法を学ぶことができた。
	個別支援に必要なアセスメントについて、枠組みを用いて事例をもとに具体的なアセスメントの仕方を教えていただき、活用していきたいと思った。
	本人の行動や発言に加えて、本人の本音を引き出すことの重要性和難しさを感じた。本人の強みを見出すことも重要であると感じた。
	具体的な事例に落とし込んで説明して下さったので、情報収集やアセスメントの方法、個別ケースから地域課題に繋げる方法など、詳しく知ることができて良かった。
保健師活動の実際・大切にしていること(4)	実際に個別支援から地域課題へつなげた事例を紹介していただいたことで、どのようにしてつなげるのかの視点を学ぶことができた。

### 【4】グループワークについて



【5】グループワークを通して、今後、課題に取り組む上で参考になったことや、学んだこと、気づいたこと

グループワークを通しての学び・気づき	
多角的な視点・他都市の情報 (15)	ケースについて共有することで、多角的な視点でみることの必要性を学ぶことができた。様々な事例を知り、どのような支援方法があるのか、保健師としてどのような視点で情報を収集すべきかを考えることができた。
	実際の事例をとおして自分ならどうするかを考えることができ、他のメンバーやファシリテーターの意見も聞いて思考の幅が広がった。
	1人では気づかない視点に気づかせてもらえるので、何人かで事例を共有することは、対象への支援をより良くする上で重要だと学んだ。
	自分一人では気づけない視点に気づくことができた。
対象者の理解・状況に応じた支援(7)	困りごとの聞き方、これができていないと思うのではなく、ここまではできているなど、強みを見つけることの大切さを学んだ。
	対象者の健康課題に意識が向きがちだが、それを解決するためには対象者の強みを理解することが重要だと気づいたので、課題と共に強みも理解できるよう情報収集していきたいと思った。
保健師業務の実際・姿勢(4)	利用できる社会資源について対象者に具体的な情報提供をすることや、地域の情報を把握するために、多職種、他機関と連携をとり、普段からコミュニケーションを図っておく必要性を実感した。
	職場内の話しやすい関係づくりが対象者支援につながっている。
新任期 1 年目の共通点を知れた(1)	1年目として同じ疑問点や難しさを感じて日々の業務に取り組んでいると感じ、安心した。保健師として自分が悩んでいることを共有すると、みんなが同じことで悩んでいるということがわかり、ほっとした。悩むことがあっても個別支援を通して少しずつ成長していきたいと感じた。

【6】 前回の研修以降、課題に取り組むにあたって難しかったこと

課題に取り組むにあたって難しかったこと	
対象者支援(15)	目的を明確にし、目標を対象者と共有しておくことが大切だと感じたが、同時にその難しさも感じた。
	1つの事例について情報を丁寧に整理して支援を考えることができた。これからの支援の土台になると感じた。
	実際にサービス利用につなげる支援、声掛けについて難しさを感じ、学びとなった。
	市町によって住民の特徴や環境にも違いがあり、それによって住民への関わり方で注意すべき点や支援方法も異なるということが分かり、研修で意見交換をしたからこそその学びを得られた。
情報収集・整理(3)	情報整理が難しく、また足りていない情報が明確に理解できていなかったため、アセスメントをしてもしっくりこなかった。今回の研修で情報整理やアセスメントのコツを学ぶことができた。
	計画の段階で考えていたアセスメントと、訪問後のアセスメントで違いが出た時にそれがなぜだろうと考えることができて勉強になった。
様式の活用(4)	様式に沿って整理することで、時系列立てて考えることができた。
	項目の分け方、まとめかたが難しかった。

【7】 今後、新任研修で学びたいことや取り入れてほしい内容

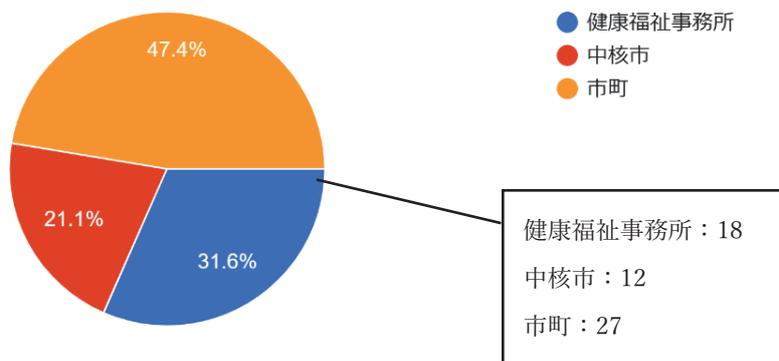
新任研修で学びたいことや取り入れてほしい内容	
他自治体と情報共有(4)	それぞれの業務の中で困っていることを話し合う機会が欲しい。
	それぞれの自治体で行なっている事業について意見交換をしたい。
先輩保健師の経験・業務への助言(5)	困難事例に実際どのように介入したか等、ベテラン保健師の方々の経験を聞きたい。
	前期のときのように、2年目や3年目の先輩の現状を知れると近い未来の想像ができやすい。
専門的知識(4)	同じ新任保健師の方と、発達や検診に必要な知識を学ぶ機会が欲しい。
発表の機会など経験(1)	一人一人が発表する機会、経験は後に役立つと思うので、そのような経験がたくさんできるグループワークは、今後も取り入れてほしい。

【8】研修全体を通しての感想

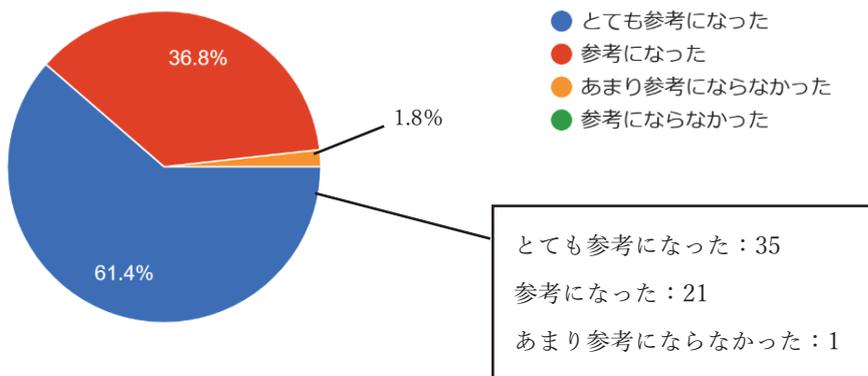
研修全体の感想	
他自治体保健師・同期とのグループワーク(20)	他の市の方や健福の方と話す機会が、普段はあまり無いので、グループワークで同じ班になった人などと顔見知りになり、情報共有ができたのは良かったと思った。
	同期と仕事のことやプライベートのことを話して、息抜きができてよかった。頑張ろうと思えた。
	グループワークを通して様々な支援での気づきがあった。日々の支援においても一人で考えず、周りと共にしながら支援していきたいと思った。
	1年目同士、同じような事で困ったり、難しく感じているという事がわかって安心できた。
先輩の保健師の講話(1)	先輩保健師の保健活動の実際を聞けるのはなかなかないのでありがたかった。
個別支援や保健師業務の学び(3)	課題は大変だったが、日頃の業務のリフレッシュにもなり、学びにもなり、良い機会だった。
その他(1)	1年目の課題では事例をひとつ探さないといけないが、そこにかなり時間がかかる。模擬事例などを用意して欲しい。

研修参加者：59名、アンケート回答者：53名(回答率 89.8%)

【1】研修参加者の所属機関



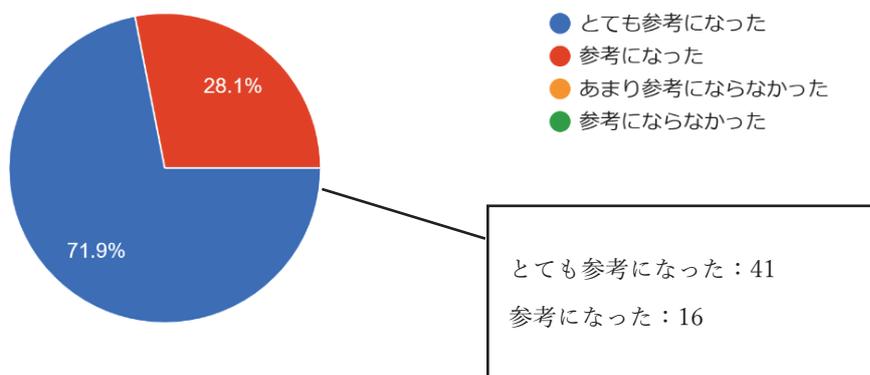
【2】中堅期保健師からの講話について



【3】 中堅期保健師の講話からの学び

講話からの学び	
地域診断のデータ・地域を知ること (31)	地区診断のまとめ方が分かりやすく参考になった。どのデータを使ったのかも分かりやすかった。
	日々の業務の中でなかなか地区踏査をすることが難しいが、訪問や会議のついでにちょっとした時間を使って地区踏査をして、地区の環境等を把握していきたいと思った。
	地区診断の内容をどう捉えるのか、わかりやすく学べた。
	普段から地域診断を行い、地域の特性を反映させて事業等も考えていく必要があると思った。
保健師業務・保健師としての働き方 (14)	科学的根拠に基づいて保健指導をすることの重要性を感じた。保健師として、患者さんから聞かれることは担当している内容だけではない。自分の業務のことだけでなく、様々なことを知っておく必要があると改めて感じた。
	保健師がなんでもできるわけでも、なんでもしないといけないわけではなく現状を関係機関に共有することも保健師の支援の一つであると学んだ。
	現在、自分が対象者と関わる中でぶつかっている壁と似たような経験をされていたということを知って、これからの自分の考え方についてとても参考になった。
他機関・他部署との連携 (3)	地域の課題を保健師だけで抱え込むのではなく、他機関とも共有しながら、地域全体で取り組む必要性を感じた。
	自分だけで解決しようと思わずに他の部署に伝える、巻き込むことで地域課題の解決の1歩を踏み出すことがこれまで自分にはなかった考え方だったのでとても参考になった。

【4】 グループワークについて



【5】グループワークを通して、今後、課題に取り組む上で参考になったことや、学んだこと、気づいたこと

グループワークを通しての学び・気づき	
地域特性・地域の強み (9)	各市町の様子を聞くことで、それぞれの強みがあることがわかり、それを活かした支援を考えていくことも大事だと感じた。
	それぞれの地域の特徴によって行っている事業内容を工夫しており、自分の地区にも活かせる考え方があり、グループワークがあったからこそ気づくことができた。
多角的な視点・新たな視点 (26)	新たな支援や事業を考えるだけでなく、既存の事業にプラスアルファすることで、よりよい支援をしていけるということを学んだ。
	地域診断に関連して他の健福での取り組みや経験も聞かせていただいて勉強になった。
	グループワークを通して、自分が気づけていなかった視点に対してアセスメントをすることが出来た。また、自分が感じている課題を周囲に伝えて行くことも大切だと思った。
	他の市町村の事業や電子化の進み具合について知れてよかった。
データの整理・活用(2)	どんなデータを使い、どう読み取るか。そのデータはどの集団を反映したものかを理解することが大切だとわかった。計画なども目的、指標など具体的に書くことがわかった。
個別支援の重要性(5)	事業を計画するには、日頃の個別ケースを大切に1ケース1ケースしっかり向き合いながら、積み重ねていくことで、課題や強みが明確化されるものがあるため、地域の視点も持ちながら、個別支援を大切にしていきたい。
	地域診断の重要性に合わせて個別支援の重要性と振り返ることの大切さも感じた。
保健師業務(2)	情報提供もアプローチのひとつである。
地域診断の実際(3)	同じような健康課題であっても、地域によりその背景にあることは様々であると学んだ。それを踏まえて、目標や計画立案を行う際には目的やアセスメントに立ち返ることの必要性を学んだ。

【6】 前回の研修以降、課題に取り組むにあたって難しかったこと

課題に取り組むにあたって難しかったこと	
データ収集・整理(9)	<p>データを追加で収集するのに、どうデータ化するかが難しかった。</p> <p>地区診断に必要な市民の声を日頃の業務の中で聞く機会が少なく、情報として活用しきれなかった点があったと思う。</p> <p>地域の人声だけでなく、データに基づいて分析する。</p>
記載の具体化・細分化(8)	<p>抽象的な言葉から、より具体的な目標と、それに対する活動を考えていくことが難しかった。</p> <p>計画の書き方などが具体例がなかったので分かりにくかった。指標も書いてみたが、これで良かったのかと悩んだので、参考になるような資料があれば良いと思う。</p>
目標設定(9)	<p>行政課題に対する目標が、普段あまり考えられていないこともあり難しかった。先輩に何度も質問して一緒に考えてもらうことで、思考の整理ができ、自分では見出せなかった課題もわかった。</p>
計画(4)	<p>課題から目標、計画を考える際に、具体的な計画(5W1H)を考えることが難しかった。また、計画を考えるうえで目標との整合性がとれないこともあり、目的や目標をぶれないようにすることも大切だと学んだ。</p>
その他(6)	<p>個人の課題と組織の課題が、つながっているところもあるので、分けて記入するのが難しかった。</p> <p>個別ケース対応や事業を進めながら課題を行うことが大変だった。</p>

【7】 今後、新任期研修で学びたいことや取り入れてほしい内容

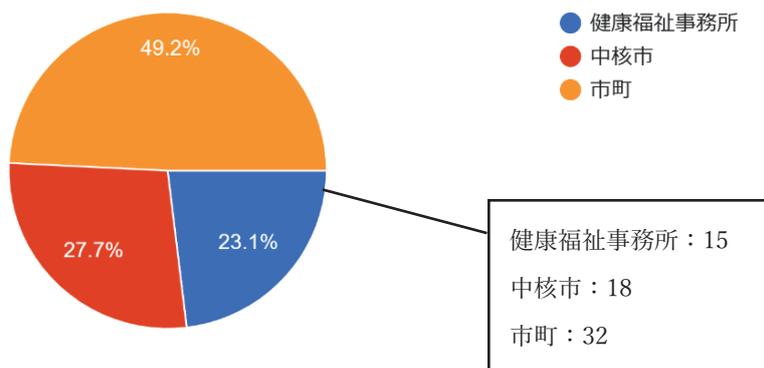
新任期研修で学びたいことや取り入れてほしい内容	
地域診断の活用(3)	<p>計画の立て方や具体例を最初のオリエンテーションで教えて欲しい。書き方がわからず、先輩の過去の記録を参考に立て方を学んで作成した。</p>
同職種・同世代対象の研修・グループワーク(6)	<p>同じ分野、同じ世代の他市町の担当の方と話をすることで、共感したり、新しい発見があったりと、様々な学びがあった。</p> <p>2年目のざっくばらんなお話の時間がなかったので、少しでいいから作って欲しい。</p>
災害支援(2)	<p>特に新人保健師は災害時の対応に不安があると思う。ハグ訓練ができると良いと思う。</p>
ケース対応(1)	<p>困難ケースへの取り組み方について。</p>

【8】研修全体を通しての感想

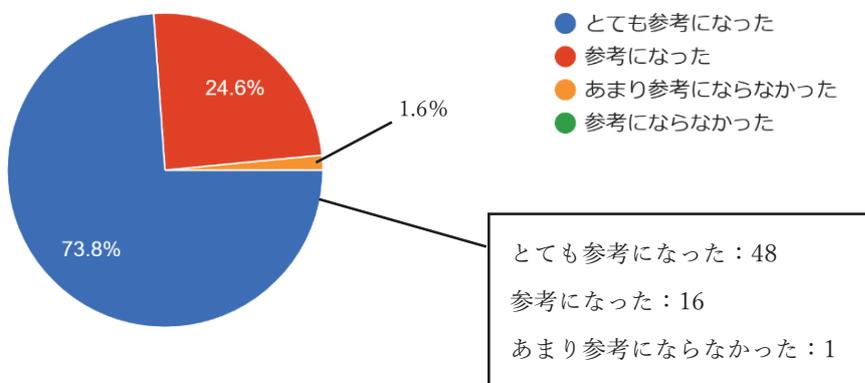
研修全体の感想	
新たな学び・学びの深まり(5)	SNS の活用や既存のものの活用など、対象に合わせた周知の方法について知れた。データの活用や日々の業務の注目すべき視点についても学び、今後の活動に活かしたいと感じた。
	ファシリテーターからの助言からたくさん学ぶことができた。
他自治体との意見交換・交流の機会(5)	今後の課題を考えるきっかけになった。他市町の保健師さんとも交流ができ良かった。
	他市町の方と話せる機会がなかなかないのでいい機会だった。
その他(1)	有意義な時間になった。普段業務に追われている毎日で、振り返る機会となった。

研修参加者：67名、アンケート回答者：65名(回答率 97.0%)

【1】研修参加者の所属機関



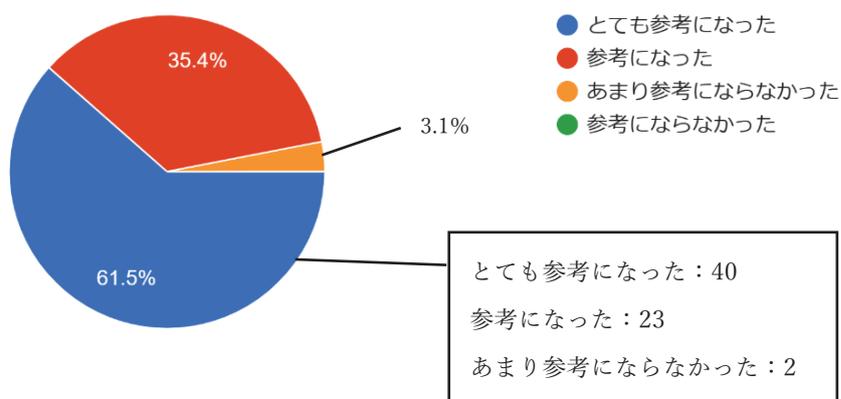
【2】中堅期保健師からの講話について



【3】中堅期保健師の講話からの学び

講話からの学び	
保健師業務・業務の工夫(15)	具体的で実践しやすい内容を教えていただいた。具体的に行政に抵抗のあるご家族に対しても短時間でも出会いに行くことは地道ではあっても関係作りにはやはり大切だと思った。
	“誰が何のために”をたいせつに、目標設定をみなおして、事業展開していくことが大切と学んだ。
	アセスメント表を自分の担当分野でも活用していきたい。
多職種連携・周囲をまきこむこと(11)	他機関連携、顔の見える関係づくり、根回しなどが大切であることがわかった。アンケートを参加者にフィードバックすることについて、今後事業に活かしたい。
	どのように事業を展開したのか具体的に分かった。他の機関との連携をしていく中で顔の見える関係性作りが大切だと再認識した。
	地域づくりは1人ではできない。地域住民と同じ方向を向いて地域を作っていくために、現状や課題を伝える機会を作り、理解してもらうことが大切ということ学んだ。
見える化(4)	見える化すること、それを共有し、目標や課題を関係機関や市民と共通認識をもって一緒に地域づくりをしていくことが大切だと学んだ。
	PDCA を見える化する重要性を学んだ。
目的を明確にする(10)	すべて具体的で自分の事業について考えながら、聞くことができた。特に会議の目的の共有、昨年の内容の共有が参考になった。
	会議で目的の共有や前回の振り返りなど、担当業務に活かせる工夫をたくさん学べた。
PDCA サイクル(17)	PDCA サイクルと地区診断の実際が、具体的にイメージがやすかった。フィードバックの大切さや顔の見える関係性づくりが重要だと思った。
	PDCA の考え方がとてもわかりやすくて、展開が見えやすかった。計画を実行していくために、表を作っていこうと思った。
	事業途中で問題があった際にはプロセス評価を見直すことの必要性を学べた。
その他(3)	とても分かりやすかった。最初の考え方からそれをどう実行するかまでの流れや考え方が理解しやすかった。

【4】 グループワークについて



【5】 グループワークを通して、今後、課題に取り組む上で参考になったことや、学んだこと、気づいたこと

グループワークを通しての学び・気づき	
PDCA サイクル(19)	<p>事業をこなすことに精一杯だったが、PDCA をするようになり、頭で考えながら納得して実施できるようになった。</p> <p>自身で PDCA を行い、個別事例を展開していく際のポイントを注意して行うことが出来たと思う。</p> <p>事業計画について、立てたら終わりではなくタイムリーに地区診断をすることで計画を見直していく</p>
関係機関・協力者の発掘(3)	<p>関係機関との連携の中で、互いを知ろうと思う意識や、積極的に足を運んで顔の見える関係を作ることの必要性を学んだ。</p>
目的・目標を意識する(6)	<p>目的と目標を意識して事業やケース対応に取り組んでいきたい。</p> <p>常に地域のあるべき姿や目標、事業目的を意識することで、目的を持って日々の活動に取り組めると感じた。</p>
他自治体保健師との意見交換(18)	<p>他市の状況を知ることができ、自分の市の強み、弱み、今後活かしていけることについて認識することができた。</p> <p>他市の事業を知り、自分の地域の強みを理解できた。</p> <p>自身の事例をモデルにしたため、他の人の意見が聞けて、良かった。</p>
日々の保健活動の重要性(6)	<p>個別事業や地域診断を大切にしながら取り組んでいくことが大切だとわかった。</p> <p>事業展開する際に、地区診断から見える化して丁寧に進めて行くことのモデルが見えて良かった。</p>
その他(2)	<p>PDCA の進み方だけでなく、自分の考え方の癖も理解することができた。</p>

【6】 前回の研修以降、課題に取り組むにあたって難しかったこと

課題に取り組むにあたって難しかったこと	
3年目課題・PDCA サイクル(18)	3年間を通して PDCA に関する講義、研修を受ける機会が多かったがようやく少しずつわかってきたような気がする。
	PDCA を実際に回してみても、悩んだ部分もあったが、事業展開の方法など学びもあった。
	実際の担当業務を課題ですることにより考える機会となった。
	計画、評価指標が大変でした。トレーニングしていきたい。
評価指標の設定(9)	評価指標の設定が難しかったけれど、グループで相談できて良かった。
	事業評価のところ、他の項目でも評価項目が重なるところがあり記載方法が難しかった。
	健康課題の適切性、目標設定の適切性を評価するのが難しかった。
地区診断(4)	地域診断から事業へのつながりを考えるのが難しかった。
日々の保健活動・業務(4)	個別事業や地域診断を大切にしながら取り組んでいくことが大切だとわかった。
	情報収集が土台となるため、それを得るための日頃の業務がとても大切になる。
その他(11)	業務と平行しながら取り組むことが非常に大変だった。作り方に模索しながらだったので苦戦した。

【7】 研修全体を通しての感想

研修全体の感想	
グループでの意見交換の機会(13)	研修課題についてだけでなく、グループのメンバーで仕事の話などについて話す時間があれば嬉しい。
	同じ年数で頑張っている保健師さんとの交流は、今後も頑張っていこうと思える貴重な時間だった。
	他の自治体さんと話せてリフレッシュにもなった。
保健師としてのスキルアップ・学び(6)	PDCA がよく分かり、今後活かしていきたい。
	他の市町村の傾向や取り組みを知ることができ、自分の価値観を広げることができるいい機会となった。

## (2)プリセプター研修

### 2024年度 プリセプター研修会実施要領

#### 1. 目的

すべての住民が自ら健康を保持増進し、安心して質の高いケアシステムの中で暮らすことができるよう、専門的知識・技術を備え、研鑽に努めることのできる保健師を育成するため、新任期保健師の特徴を踏まえた指導ができるプリセプターを育成し、現任教育体制を構築することを目的とする。

#### 2. 目標

- (1)プリセプターの活動内容及び役割を理解する。
- (2)新任期保健師への支援に活かせるよう、コロナ禍における新任期保健師の教育背景や経験等新任期保健師の特徴を理解する。
- (3)新任期保健師の支援方法について理解を深め、プリセプターとして支援できる能力を習得する。
- (4)新任期保健師の知識、技術に応じた現任教育計画を立案することができる。

#### 3. 実施主体

兵庫県（運営：兵庫県保健師キャリア支援センター）

#### 4. 日時

2024年7月30日（火）13:30～16:30

#### 5. 場所

中央区文化センター 11階 1103・1104  
神戸市中央区東町115番地

#### 6. 対象

- (1)健康福祉事務所地域保健専門員・健康管理専門員及び現任教育担当者
- (2)新任期保健師（採用後3年未満）を指導している県及び市町保健師
- (3)新任期保健師（採用後3年未満）のトレーナー保健師として従事する者

#### 7. 内容

- (1)趣旨説明及びグループワーク  
「新任期保健師現任教育計画の策定と活用について」  
講師：兵庫県保健医療部健康増進課
- (2)講義  
「新任保健師の能力を高めるプリセプターシップ～新任期の強みや特性を活かして～」  
講師：兵庫大学看護学部 教授 時長 美希 氏
- (3)グループワーク  
「新任期保健師の現状を踏まえたプリセプターとしての支援のあり方」  
助言者：兵庫大学看護学部 教授 時長 美希 氏

#### 8. 申込み

- (1)申込方法  
兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールに「2024年プリセプター研修会申込書（別紙1）」を添付して申し込む。その際、メールの表題に「プリセプター研修」と明記すること。
- (2)申込期限  
2024年7月23日（火）

#### 9. 提出物等

以下について事前に作成の上、研修当日に持参し、研修終了時に提出する。

①「事前課題（別紙）」

②策定している「令和6年度 新任期保健師現任教育計画・報告書」

10. 問合せ先 兵庫県保健師キャリア支援センター事務局 担当：藤本  
TEL 078-794-8084（直通）/078-794-8080（代表）  
FAX 078-794-8084  
E-mail phncenter@kobe-ccn.ac.jp

### プリセプター研修会プログラム

時 間	内 容
13:30～13:35	挨拶
13:35～13:55（20分）	趣旨説明、プリセプターとしての経験 テーマ：新任期保健師現任教育計画の策定と活用について 講師：兵庫県保健医療部健康増進課
13:55～	講師の紹介
14:00～15:10（70分）	講義 テーマ：新任保健師の能力を高めるプリセプターシップ ～新任期の強みや特性を活かして～ 講師：兵庫大学看護学部 教授 時長 美希 氏
15:10～15:25（15分）	調査結果報告 報告者：兵庫県保健師キャリア支援センター
15:25～15:30（5分）	休憩
15:30～16:10（40分）	グループワーク テーマ：新任期保健師の現状を踏まえたプリセプターとしての 支援のあり方
16:10～16:25（15分）	全体発表・まとめ 講師：兵庫大学看護学部 教授 時長 美希 氏
16:25～16:30（5分）	連絡事項、アンケート

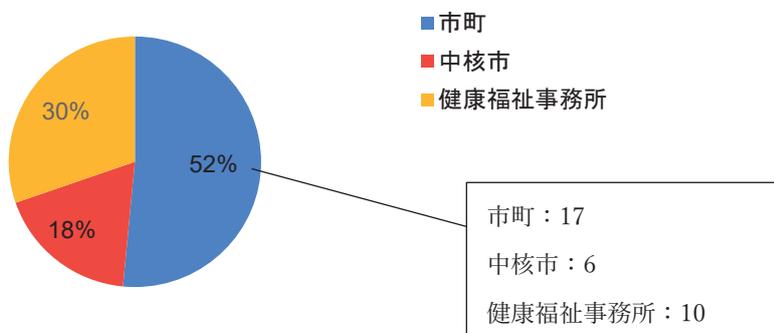
## 2024年度 プリセプター研修会 実施状況

- 1) 日時:2024年6月29日(木)13:30～16:30
- 2) 場所:神戸市立中央区文化センター
- 3) 内容:趣旨説明 「新任期保健師現任教育計画の策定と活用について」  
講師:兵庫県保健医療部健康増進課  
講義「新任保健師の能力を高めるプリセプターシップ～新任期の強みや特性を活かして～」  
講師:兵庫大学看護学部 教授 時長 美希 氏  
グループワーク「新任期保健師の現状を踏まえたプリセプターとしての支援のあり方」
- 4) 参加者 38名(現任教育担当者、プリセプター及びトレーナー保健師)
- 5) 研修アンケート結果:回答数:33名 回答率:86.8%

## 2024 年度プリセプター研修 研修後アンケート

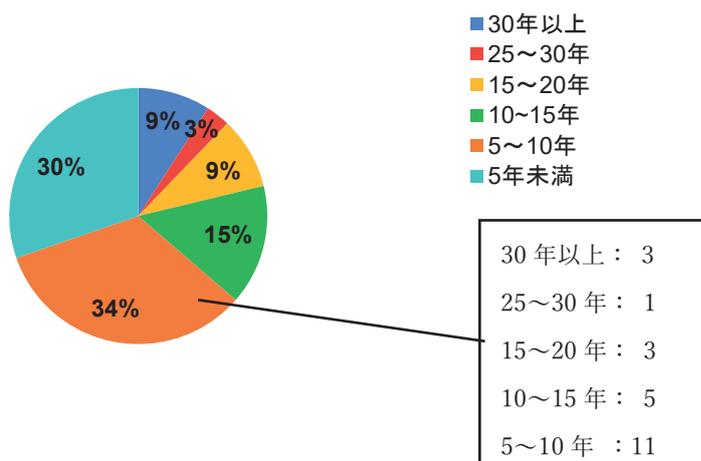
研修参加者：38 名、アンケート回答者：33 名（回答率 86.8%）

### 【1】 研修参加者の所属機関



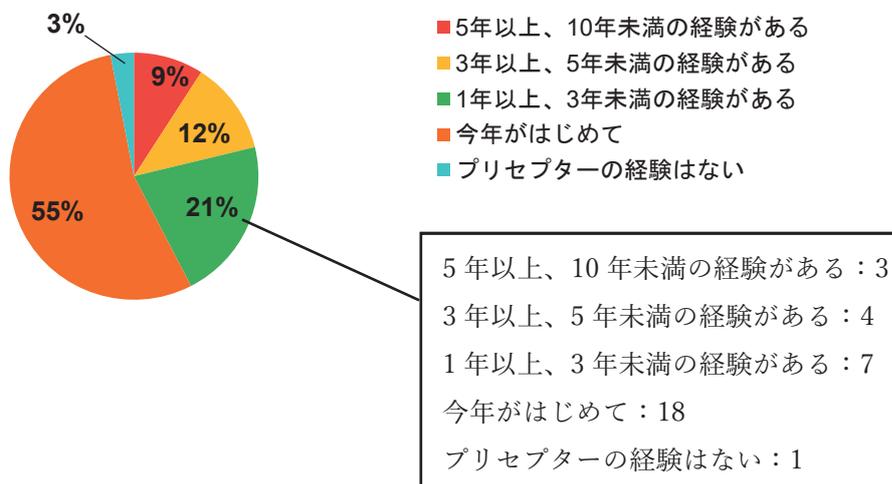
### 【2】 研修参加者の保健師としての実務経験年数

平均 11.5 ± 10.7 年

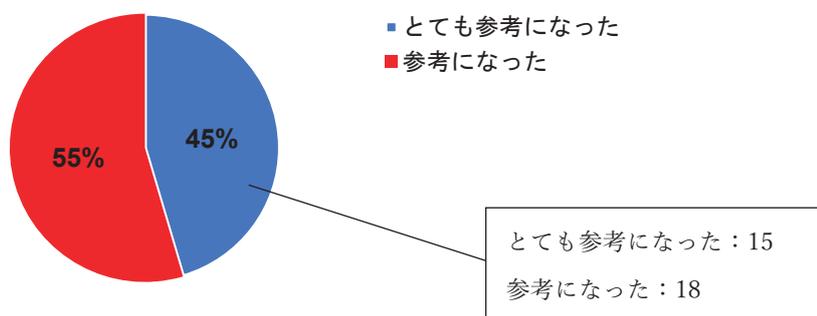


### 【3】 研修参加者のプリセプター経験について

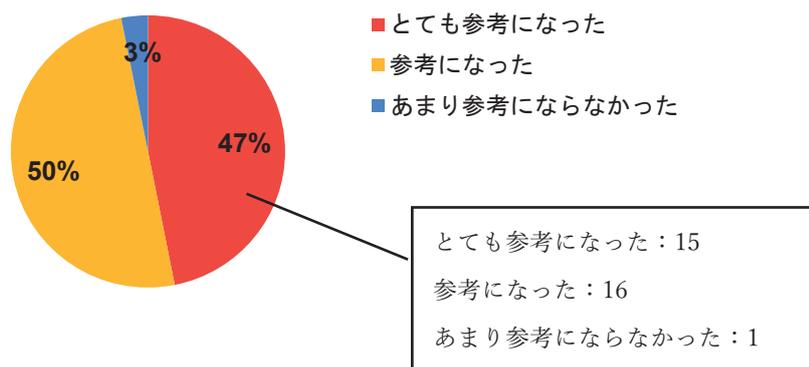
※現在の所属以外の経験も含めてお答えください



【4】「新任期保健師現任教育計画の策定と活用について」の説明について



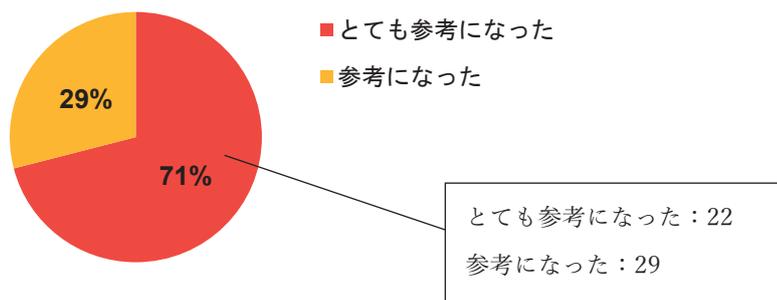
【5】「新任期保健師の能力を高めるプリセプターシップ～新任期の強みや特性を活かして～」の講義について



【6】「新任期保健師の能力を高めるプリセプターシップ～新任期の強みや特性を活かして～」の講義からの学び

講義からの学び・感想	
プリセプティを褒めることが大切 (2)	新任期保健師の良いところはしっかりと褒めて、指導するところは具体的に伝えるということが大切だと分かった。
プリセプティとの関わり方 (3)	新任への細やかな接し方を具体的な講義内容だった。今一度自分への接し方をふりかえるきっかけとなった。
	新任期保健師（プリセプティ）の教育背景を知ったり、関心を持って寄り添っていることが伝えられたらと思う。
リアリティショックを緩和するための関わり方 (2)	期待が高くなっていく時期には、プリセプターからの揺るぎない擁護が必要になること。味方でいたいと思った。
	リアリティショックを緩和できるよう、社会人としての能力をサポートすることもプリセプターの役割の一つであることを再認識できた。
プリセプターは完璧でなくてもいい (4)	プリセプターは完璧でなくてもよく、これで良いのか迷っていることも伝えて一緒に考えたり分かち合っただけで学ぶ姿勢を大切にしていきたい。
	プリセプターは手の届くロールモデルで近くで伴奏する人となる事が大事。
プリセプティのレベル別に指導を変える必要がある (4)	相手のレベル別に教えるということが必要であることは日頃から感じるが先生の講義で具体的にどのように相手のレベルを考えるのかが整理できた。
	学習の準備ができていない状態もあり、見せて、やらせて、確認することをやってみようと思った。
リフレクションの方法について (4)	「自分の中に起きる気づき」を大切に、自分の言葉で語ることが成長につながると分かった。望ましい行動を意識的に伝えていこうと思った。
	リフレクション振り返りがあまりできていないことに気づいた。もっとプリセプティの話を書き出して言語化してもらうことで、気づきを引き出し、学びを深めてもらおうと思った。
プリセプターとしての役割について (4)	プリセプターとしての役割を知ることができた。プリセプターになったけども、実際何をしたらよいかわからないまま1年がすぎて、できていたこととできていないことがあったのでこれからできることを実践したいと思った。
	プリセプターとしての役割や色々なタイプの対象者に合わせた支援方法が勉強になった。
他の職員との役割分担について (4)	プリセプターと他の先輩職員や上司との役割分担の仕方など。プリセプターは安全基地になることが大事ということ。
	プリセプティに寄り添う役割と厳格に指導する役割を分けること、相性も加味して指導者を選定することは今後の参考にしたい。
職場全体でプリセプティを育てる環境を作る (2)	新任期保健師の指導はなプリセプター1人で行うわけではなく、組織として育つ環境をどう作るかという視点も大切ということを再認識できた。
	職場全体でプリセプティを支える体制をつくることも大切であると学んだ。

【7】 グループワークについて



【8】 グループワークを通して、プリセプター役割を担う上で参考になったことや、学んだこと、気づいたこと

グループワークからの学び・感想	
同じ悩みを抱えていると分かって安心した (9)	皆、同じように悩みながら向き合っておられるのがわかった。
	いろんな立場でプリセプターについており、同じような悩みや不安を抱えながら模索してこなしているということに安心した。
同じ立場の人と情報交換ができてよかった (3)	プリセプターとしてとてもがんばっていることがわかった。3年目でプリセプターになっていることの大変さが伝わった。
	専門員としてのプリセプターの役割があるので、メンバーの中に同じ役割の方がおられると情報交換できてよかった。
プリセプティに関心をもって接すること (4)	新人さんの安全基地であること、関心をもって接することが大切だと思った。
	プリセプティとの関係性づくりについてなど、相手を知りたい時は自分のことから話すようにする。
プリセプティに合わせたサポートをすること (5)	良い関係をつくりながらプリセプティの背景を理解したり、個々に合わせたサポートをしていきたい。
	新任期保健師の性質は様々であり、「こうあるべき」ととらわれず、まずは新任期保健師を知り、状態に応じた声かけやアプローチ方法を考えていくことが大切であると分かった。
プリセプティの強みを理解して関わること (7)	プリセプティの強み・特性によって、プリセプターとしての関わり方も変わることを実感した。
	プリセプティの個々の特徴や得意分野、背景を活かすことで、より効果的に学びのサポートが出来ると気づいた。
職場全体で育成する環境を作ること (3)	職場全体で新任期保健師が育つ環境を作ることが大切だと思った。
	プリセプター1人で抱え込まず、組織として新任期の教育をする中で、プリセプターの役割を考えていくことが大事なのだと学べた。
他市の教育や取り組みを知ることができる (5)	一日の終わりに困っていることがないか尋ねる等、他の参加者が日々意識して取り組んでいることを聞くことができて参考になった。
	同じグループの方で教育計画・報告書をしっかり記載されており、これをもとに年に3回、面談をされていた。日々の業務の中で話す機会はあるが、きちんと時間をつくっていくのも良いかと思った。

【9】研修全体を通しての学びや感想

研修全体の学び	
保健師の専門性に着目すること (1)	保健師〇年目という視点に囚われすぎないようにしたい。保健師の専門性に着目しすぎて頭が固くならないようにしたい。
一人ではなく職場全体でプリセプティを育てたい (1)	新任期だけでなく、上司へも積極的に相談して、育てる意識を作りたい。
プリセプティに丁寧に向き合い、自分の成長したい (1)	社会人としても PHN としても経験のあるプリセプティですが、やはりプリセプターはきちんと丁寧に向き合うことが大切と感じた。今の自分自身が PHN として悩みが多く大変なことばかりですが、一緒に成長していきたいと思った。

研修全体の感想	
講義内容が良く、実践に生かそうと思えた (6)	保健師本来の仕事の仕方を明確にすることの内容でとてもよかった。今回参加したことで新任者の現状がより具体的に把握できプリセプターとしての悩みもわかった。
	寄り添える人になりたいと思った。年代様々で“保健師像”も様々だと思った。全て同じ思いですることはむずかしいと思うので、お互いの歩みよりが大事かなと思った。
他の参加者と情報交換する機会があった (3)	他の自治体の方と情報交換できたことも、とても励みになった。
	普段、なかなかプリセプター同士で話をする機会が少なかったため、不安や悩みを1人で溜め込みやすい状況下でしたが、研修でのグループワークを通して、同じ役割のある者同士でいろいろ話し合いをすることができて良かった。
会場が良かった (1)	会場がとても良かった。立地、広さ等はもちろんだが、なかなか神戸市の施設に行くことがなかったので、役所の中を知る機会になった。子育て広場のお部屋や健診室、外国人対応窓口など様々設置されていることを知れた。

### (3) 地域ケアの総合調整研修

#### 2024 年度 地域ケアの総合調整研修事業実施要領

#### 1 目的

地域保健活動に従事する保健師が、地域全体や活動における課題及び疑問などについて、科学的手法（量的・質的調査など）を用いて明確にした上で、その成果を学術集会や報告会等で公表し、多様な関係者と意見交換することにより、根拠に基づいた課題解決の方策を提案する能力を育成する。

#### 2 目標

- (1) 地域や保健活動において生じている課題を察知し、その明確化と解決に向けて、科学的手法を用いて取り組むことができる。
- (2) 地域保健活動分野において公表されている研究成果を用いることができる。
- (3) 取り組みの成果を、学術集会や報告会等で、プレゼンテーションをするとともに、同僚や関係者ととも検討することで、成果をブラッシュアップすることができる
- (4) 取り組みの成果をもとに、今後の課題解決に向けた方策を検討することができる。

#### 3 実施主体

兵庫県（運営：兵庫県保健師キャリア支援センター）

#### 4 内容

##### (1) 公開講座・実践報告会

日時：2024 年 12 月 19 日（木）13:30～16:30

場所：神戸市立中央区文化センター 11階 会議室 1103+1104

（神戸市中央区 115 番地）

対象：健康福祉事務所及び市町保健師

内容：①公開講座「地域活動において、科学的手法（調査研究）を用いて疑問や課題を明らかにする必要性とその手法について(仮題)」

講師 武庫川女子大学看護学部 教授 和泉 京子氏

②地域ケアの総合調整研修実践報告会(2022～2023 年度分)

- ・宍粟市：「高齢者保健」
- ・洲本市：「母子保健」
- ・加古川健康福祉事務所：「高齢者の感染症対策」
- ・明石市：「結核感染症」・「健康づくり」

③地域ケアの総合調整研修の課題研修受講者(予定含):サポート講師等との打ち合わせ

公開講座等のみの受講者:希望者は課題解決に向けた方法についての相談可

##### (2) 課題研修

保健活動における課題や疑問を選定し、別途指定された講師とともに、科学的手法を用いて課題や疑問を明らかにするための計画書を作成する。講師の助言を得ながら計画に基づき調査等を行い、課題や疑問を明確化する。取り組みの成果について学術集会や報告会等の場を活用して公表し、意見交換を行い、成果に基づく方策など現場への活用を提案する。

#### ア 対象

健康福祉事務所及び市町保健師

#### イ 定員

特に定めないが、課題研修については、申し込み者が多数の場合は、次年度での実施をお願いする場合がある。なお、新規申し込み及び継続実施である受講者が 1 組もない年度は実施を見合わせる。

## ウ 研修期間

研修受講決定日から 2026 年度末まで（2 年程度実施）

## エ 集合研修

2 日（開始時（公開講座）と実践報告会）

## オ サポート講師

- ① 助言にあたる講師は、県内看護系大学教員で、原則、公衆衛生看護学分野とする。
- ② 講師が行うこと

受講者との打ち合わせ及び研修期間を通して、計画立案、調査等の実施や分析、学術集会や報告会の発表の助言、活動展開について、受講者のニーズに基づきサポートする。

## カ 経費

集合研修における講師及びサポート講師の派遣にかかる報償費及び旅費については、兵庫県保健師キャリア支援センターが負担する。

集合研修以外のサポート講師の派遣にかかる報償費及び旅費の支給は、対面で行った助言指導に限るものとする。経費の支出については、「6 提出物及び提出期限」に示す別紙 3 で報告された活動実績に基づき、年度内の活動にかかる経費を年度末に一括して精算するものとする。

## キ サポート体制

- ① 課題達成に向けて、原則として受講者 1 組に対して、講師 1 人がサポートにあたるものとする。
- ② サポート方法は、現地及び集合研修による助言等のほか、受講者と講師が調整の上、受講者が大学等に出向いて助言を受けることも可能とする。
- ③ 職場のリーダー保健師（専門員等）は、研修者が研修を受けやすい環境づくりに配慮するとともに、過程を管理し、適宜助言を行う。
- ④ 集合研修のうち、報告会については別途通知する。

## 5 申込み

2024 年 11 月 15 日（金）までに、兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールに「2024 年度地域ケアの総合調整研修事業参加申込書（別紙 1）」を添付して申し込む。その際、メールの表題に「地域ケアの総合調整研修」と明記すること。

課題研修については、第 1 次募集の締め切りを 2024 年 11 月 15 日（金）とし、公開講座及び実践報告会を受けて行う第 2 次募集の締め切りを 2025 年 1 月 31 日（金）とする。（申込み様式は同上（別紙 1）を用いることとする。）

## 6 提出物及び提出期限（課題研修参加者のみ）

区分	提出物	内容
事前課題	別紙 2	地域ケアの総合調整研修事前レポート 内容：現場で困っていること、疑問に思っていること、課題だと感じていること
経過報告	計画書	様式自由 記載内容：課題を明らかにするために、取り組む具体的な方法とスケジュール、公表方法について記載する（内容：背景、調査方法と調査時期など）
報告会	地域ケアの総合調整研修報告書	様式自由 記載内容：内容：背景、方法、結果、考察（現場への提案）

	活動発表資料	学術集会へ発表した抄録、プレゼンテーション資料
活動報告	別紙3	活動実績報告書 内容：今年度のサポート講師からの助言指導実績（日時、内容、業務従事者等）について

<提出期限>

① 事前課題（別紙2）：

以下の提出期限までに、兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールに「2023年度地域ケアの総合調整研修事前レポート（別紙2）」を添付して提出する。その際、メールの表題に「地域ケアの総合調整研修」と明記すること。

提出期限 第1次募集：2024年11月15日（金）

第2次募集：2025年1月31日（金）

②経過報告（計画書）：

2026年度までの2年計画分として作成出来次第随時提出とし、2025年2月28日（金）を提出期限とする。提出の際は、兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールに「2024年度地域ケアの総合調整研修計画書（様式自由）」を添付する。その際、メールの表題に「地域ケアの総合調整研修」と明記すること。

③ 報告会用資料：

別途通知する。

④ 活動報告（別紙3）：

2025年2月28日（金）までに、報告日までに実施した活動実績について、兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールに「2024年度地域ケアの総合調整研修活動実績報告書（別紙3）」を添付して提出する。その際、メールの表題に「地域ケアの総合調整研修」と明記すること。

7. 受講決定（課題研修参加者のみ）

別紙1申込書及び別紙2事前レポートを総合的に判断した上で、受講及びサポート講師を決定し、通知する。

8. 問合せ先

兵庫県保健師キャリア支援センター 担当：岩本・藤本

TEL 078-794-8084（直通）/078-794-8080（代表）

FAX 078-794-8084

E-mail phncenter@kobe-ccn.ac.jp

附則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和4年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和5年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和6年4月1日から施行する。

## 2024 年度 地域ケアの総合調整研修会 実施状況

- 1) 日時:2024 年 12 月 19 日(木)13:30～16:30
- 2) 場所:神戸市立中央区文化センター
- 3) 参加者:34 名(内訳:受講者 24 名、実践報告者 5 名、外部講師 5 名)
- 4) 内容:a.公開講座「地域活動において、科学的手法(調査研究)を用いて疑問や課題を明らかにする必要性とその手法」

講師 武庫川女子大学看護学部 教授 和泉京子 氏

### b.実践報告会

- ①宍粟市:「いきいき百歳体操自主グループのグループ活動継続の要因」

サポート講師:武庫川女子大学 教授 金谷 志子 氏

- ②洲本市:「育児中の母親が感じる子育てのしづらさや子育て環境への困難感に関する実態調査」

サポート講師:神戸市看護大学看護学部 講師 山下 正 氏

- ③加古川健康福祉事務所:「高齢者施設での感染対策の実態とその関連要因～感染症対策の

実態が把握できていない高齢者施設への質問紙調査～」

サポート講師:神戸大学大学院保健学研究科

パブリックヘルス領域 教授 和泉 比佐子氏

- ④明石市:「接触者健診結果のデータ分析を活用した対象者選定基準の妥当性の検証」

サポート講師:兵庫県立大学看護学部 助教 島村 珠枝 氏

- ⑤明石市:「40 代から始めるフィットネスプログラム」による腹囲、体組成、運動の動機づけへの効果

サポート講師:甲南女子大学看護リハビリテーション学部 准教授 有馬 志津子 氏

### c.課題解決に向けた意見交換

助言者 武庫川女子大学 和泉 京子 教授、金谷 志子 教授

神戸大学大学院 和泉 比佐子 教授

甲南女子大学 有馬 志津子 准教授

兵庫県立大学 島村 珠枝 助教

神戸市看護大学 岩本 里織 教授、山下 正 講師、山田 暢子 助教

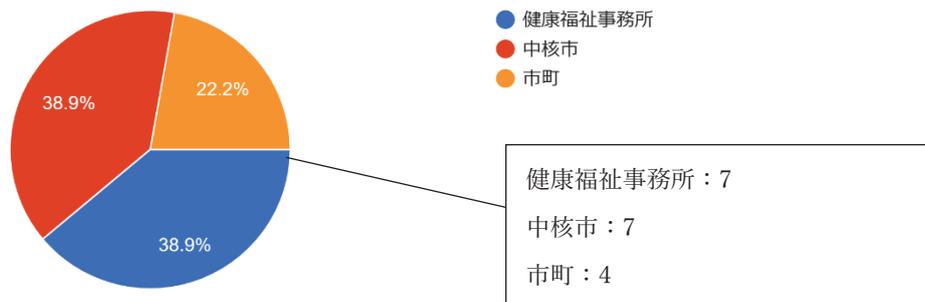
遠藤 真澄 助教、藤本 佳子 特任講師

兵庫県健康増進課

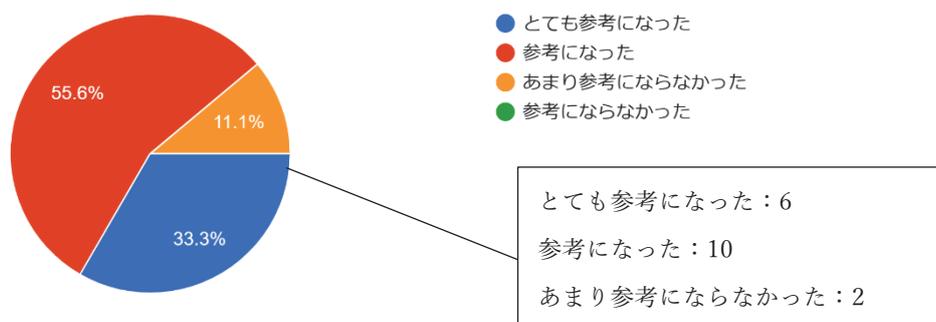
- 5) 研修結果アンケート:回答数 15 名 回答率:51.7 %

研修参加者： 29 名 アンケート回答者： 15 名（回答率 51.7%）

【1】 研修参加者の所属機関



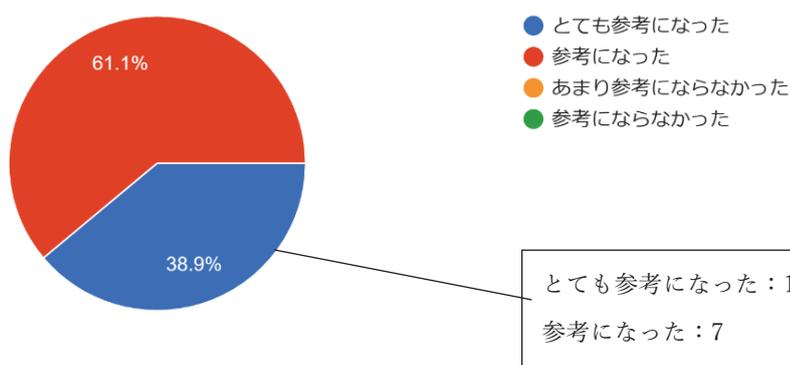
【2】 「地域活動において、科学的手法を用いて疑問や課題を明らかにする必要性とその手法」の講義について



【3】「地域活動において、科学的手法を用いて疑問や課題を明らかにする必要性とその手法」の講義からの学び

講義からの学び・感想	
根拠となるデータを明らかにすることの必要性を学べた (2)	保健師として、肌感で得た課題をデータに基づき明らかにして、事業や住民税に還元する大切さを改めて感じた。課題を見つけるのが苦手なので成長したい。
	課題がビルドばかりでスクラップできない現状に触れていたが、地域に合わせた重点取り組みを決めていく事のためにも、研究に基づく根拠を明らかにする事が大切と学べた。
調査研究の意義について学べた (6)	地域活動してる中で常に、何故かなと思う視点を大切に次に活かしていく手段を知ることができて良かった。
	調査研究の意味を改めて知る機会になり、調査研究をすることで日々の疑問の解決につながり、より良い支援につなげるために必要な物であると感じた。
保健師の育成の良い機会 (2)	中堅以降になると、県の研修も少なくなったり現場の仕事に追われ客観的にデータを見たり、他の市と比べる機会が少なくなるので良い機会になる。本当は中堅層に一律聞いてほしいと思う。
	保健師の育成をこのような形で支援してもらえることは、とてもありがたいと感じた。

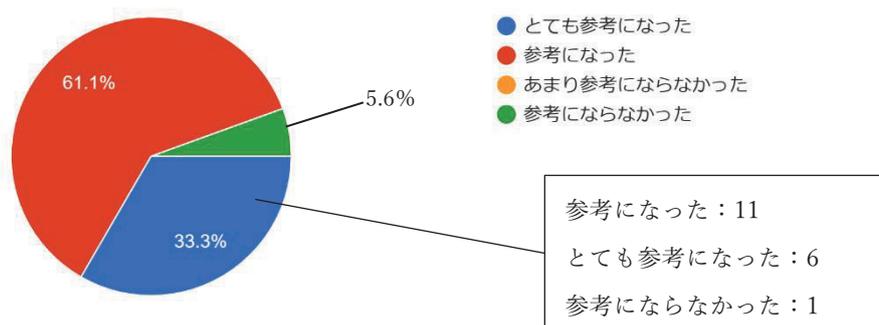
【4】 実践報告会について



【5】実践報告会からの学び・感想

実践報告会の学び・感想	
研究の取り組みや発表について知れた (4)	各市町、県がどのような取り組みをされているのかを知ることに加え、その取り組みにおける保健師の疑問や課題から実践された取り組みを知ること、改めて自分たちの取り組みと照らし合わせる事ができた。
	研究的手法に沿って発表されていて、複数の事例を聞くことで、研究発表で押さえるべきポイントが整理でき、学会発表の足がかりとなる場になっていたと思う。
地域ケアの総合調整研修や取り組み状況について知れた (6)	忙しい業務内で取り組んでおられるのは大変なことだと思う。サポート講師が研究の最初から伴走してくれたら心強いし、進めやすいし、研究をするハードルがだいぶ下がるとは思った。
	実践をきき、日々の活動での疑問や困りごとの解決に向け行っているとわかった。調査・研究を行うことで、今後の活動をより良い物にしていく機会と感じた。

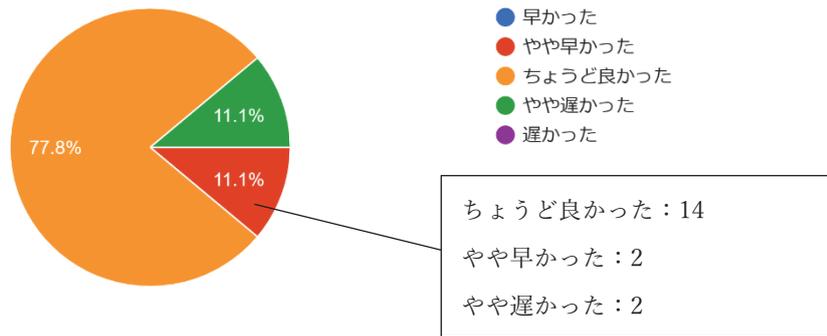
【6】課題研修及び課題解決に向けた意見交換のグループワークについて



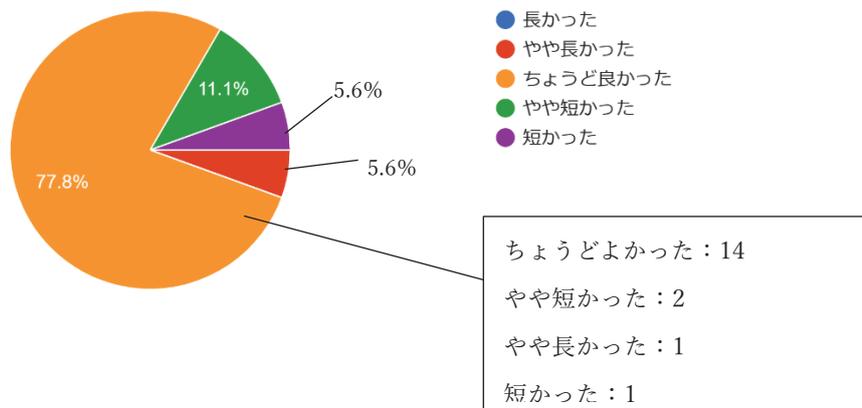
【7】課題研修及び課題解決に向けた意見交換のグループワークからの学び・感想

グループワークからの学び・感想	
研究の実際を知れた (3)	このような場に参加するのは初めてだったので先生方と話せる貴重な時間を共有させていただいた。大阪市のように入職時から研究が身近であればもっと抵抗なくできるようになるのかなと感じた。
	実際に調査・研究をおこなった市に話を聞く機会になり、日々の活動での疑問から研究を行うことで、少しは負担もあるが、モチベーションを維持しプラスが多いと実践での思いを聞け、参考になった。
意見交換ができた (4)	他市の担当者との意見交換ができ、皆さんがどのようなことで悩んでいるのか伺うことができて良かった。
	他市の状況が聞いて良かった。時間が足りないぐらいだった。
研究を進めることができた (1)	担当教員と一緒に確認し今後の作業が整理できた。

【8】 研修の開催時期



【9】 研修の時間



【10】 研修全体を通しての意見・感想

研修全体の意見・感想	
開催時期 (2)	<p>新任期研修もだが、各所属の予算要求や次年度の起案といった年度のスケジュールにあったタイミングで受講できると、イメージが膨らんで業務のモチベーションも上がると感じている。バラバラの自治体スケジュールにピッタリ合うのは難しいが、ちょうど今の時期だとどの自治体も来年度準備に役立つと思う。</p> <p>日々の困り事や疑問から、研究されており刺激になる。サポート講師もついて下さり、取り組みやすいと感じた。</p>
研修を受ける体制 (2)	<p>研究の風土が無いのか、参加者が少ない印象だった。県内では忙しさにバラツキがあるが日頃の業務が多すぎて、研究をしたいと思っても次年度の忙しさを考えると手を上げづらい。また、職場全体で考える、チームとして取り組むというスタンスも無さそうで、個人にかなり負担がかかる気がするため、躊躇しているのが現状である。</p> <p>兵庫県が研修を開催して頂き、中核市も入れて頂き、非常にありがたく感じている。今後も保健師の支援の向上と人材育成として継続して頂けたらと思う。一方で、多忙の業務の中、研修の参加が難しいことがある。</p>
研修参加の感想 (1)	<p>良い刺激になった。</p>



### 3)保健師及び地域保健に携わる関係者への調査研究



## 2024 年度 調査研究課題

### 1. 進行中の調査研究課題

#### 1) 保健師のキャリア支援に関するニーズと支援体制に関する研究

目的:本研究では、年度開設される保健師キャリア相談の内容を分析し、キャリア支援や離職防止の観点から、自治体の保健師が抱えるキャリア支援に関するニーズを把握すること、保健師キャリア相談の体制を評価することを目的とする。

対象者:保健師キャリア相談の利用者

研究方法:保健師キャリア相談の相談終了時に本調査について説明し、相談方法に応じて紙媒体またはメール等にて研究説明文及び調査票(Web回答のURL含む)を送信する。得られた調査票について、記述統計及び自由記載箇所についての質的分析を行う。

調査内容:相談者の属性に関すること(年齢・性別・経験年数等)及び相談内容の概要、相談対応や相談後の状況等

#### 2) 保健師の産休・育休復帰支援に関する研究

目的:行政保健師の産育休取得前後の支援プログラム構築に向けて、支援ニーズを明らかにし、本結果をもとに、ニーズに適した保健師の産休・育休復帰支援プログラムの開発を目指す。

対象者:兵庫県内において産育休を取得し復帰から3年以内の保健師8名及び、産育休を取得して復帰後3年以内の部下を持つ係長以上の保健師7名

調査期間:2024年2月～2024年3月

研究方法:インタビュー調査を行い、逐語録を作成後分析し、最終的に両者を統合して必要なプログラムを検討する。

調査内容:産育休を取得した保健師に対しては、育休中、育休明けに困ったこと、不安であったこと、職場復帰に向けて自身で努力したこと、求める支援などを聴取し、また、育休を取得した保健師の上司に対しては、育休中に行った支援内容・頻度、育休明けの支援で困難を感じ育休中に行った支援内容・頻度、育休明けの支援で困難を感じたこと、どのような支援体制があったらよいかなど、どのような支援体制があったらよいかなど。



#### 4)保健師キャリア支援(再就業支援含む)



## (1) 保健師キャリア相談

### 2024 年度 保健師キャリア相談

1. 目的: 保健師活動や保健師のキャリアアップに関する相談に応じることで、保健師活動の資質向上および離職防止につなげる。
2. 対象: ①現在保健師として活動している方  
②産前・産後休暇、育児休暇中の保健師の方  
③再就業を考えている保健師の方  
など保健師免許を有する方ならどなたでも利用可
3. 主な相談内容: ①保健師活動に関する具体的な相談(事業、個別支援等)  
②スキルアップに関すること  
③キャリアラダーに関すること  
④保健師活動に関する調査研究に関すること  
⑤その他保健師活動に関すること  
など保健師活動に関する相談全般
4. 相談定例日: 毎月第3水曜日 13:00～20:00 (左記以外の日程も応相談)
5. 方法: 面談(来所・遠隔)または電話(予約制)
6. 予約方法: 保健師キャリア支援センターホームページの相談申し込みフォームまたはメール(随時) Mail: [phncenter@kobe-ccn.ac.jp](mailto:phncenter@kobe-ccn.ac.jp)
7. 相談員: 保健師キャリア支援センター教員  
神戸市看護大学いちかんだ이버シティ看護開発センター教員: 藤本  
神戸市看護大学公衆衛生看護学分野教員: 岩本、山下

## 2024年度 保健師キャリア相談実績

番号	相談者所属	相談方法	相談概要
1	行政	Zoom	今後の就職先について
2	行政	Zoom	今後の就職先について
3	教育機関	メール	研究と今後の就職先について
4	行政	対面	仕事の継続について
5	行政	メール	文献検索について
6	行政	対面	今後の仕事や進学について
7	教育機関	対面	就職について
8	研究機関	対面	今後の仕事や進学について
9	行政	メール	今後の仕事について
10	行政	Zoom	子育てとの両立、キャリア形成について

## (2)保健師就業・復職支援研修会

### 2024 年度 保健師就業・復職支援研修会 実施要領

#### 1. 目的

新型コロナウイルス感染症の流行を機に、感染症対策の要である保健所や、予防接種など住民の生活に密着した支援を行う市町村など、主に行政機関で働く保健師の需要が増しており、自治体においても保健師の確保に尽力しているところである。

このような背景の中、保健師資格取得後、保健師活動から離れていた人材を有効に活用するため、潜在保健師等の就業・復職にあたり、最新の保健・医療・福祉の動向を理解し、行政機関で働く保健師に求められる基本的な知識等を学ぶことを目的とする。

#### 2. 目標

- (1) 最近の保健・医療・福祉の動向を理解する。
- (2) 兵庫県における保健活動に関する施策を理解する。
- (3) 行政機関における保健師活動の実際を理解する。

#### 3. 実施主体

兵庫県(運営:兵庫県保健師キャリア支援センター)

#### 4. 対象

行政保健師として就業を希望する潜在保健師等(兵庫県看護協会の保健師バンク登録者等)

#### 5. 内容

- (1) 講義(最近の動向、兵庫県の保健福祉施策、行政機関における保健師活動の実際)
- (2) 座談会(現職保健師との座談会)

#### 6. スケジュール

- (1) 日時:2025年3月7日(金) 13:00~16:30
- (2) 場所:神戸市立中央区文化センター 会議室 1112  
神戸市中央区東町 115 番地
- (3) 内容:①講義

「最近の保健・医療・福祉の動向と兵庫県における保健施策について(仮題)」

講師:兵庫県保健医療部健康増進課

「県における保健師活動の実際について(仮題)」

講師:兵庫県 保健師

「政令中核市における保健師活動の実際について(仮題)」

講師:神戸市 保健師

「市町における保健師活動の実際について:市町(仮題)」

講師:宝塚市 保健師

②座談会

## 7. 申込み

(1)申込み期限 2025年2月28日(金)

(2)申込み方法

兵庫県保健師キャリア支援センターホームページの研修申込フォームより、各自申し込んでください。

研修案内サイトの URL <https://kobe-phn-cc.jp/news/5233/>

研修申込フォームの URL <https://forms.gle/Q3ReLpf3TRcsgBuu8>

## 8. 問合せ先

兵庫県保健師キャリア支援センター 担当:藤本

TEL 078-794-8084(直通)/078-794-8080(代表)

E-mail [phncenter@kobe-ccn.ac.jp](mailto:phncenter@kobe-ccn.ac.jp)

## 2024年度 保健師就業・復職支援研修会実施状況

- 1) 日時:2025年3月7日(金)、13:00～16:30
- 2) 場所:神戸市立中央区文化センター 会議室 1112
- 3) 対象:行政保健師として求職中の方
- 4) 内容:

### 〈講義〉

- ① 講義「最近の保健・医療・福祉の動向と兵庫県における保健施策について」  
講師:兵庫県保健医療部健康増進課
- ② 講義「兵庫県における保健師活動について」  
講師:兵庫県 保健師
- ③ 講義「神戸市の保健師活動」  
講師:神戸市 保健師
- ④ 講義「市町における保健師活動の実際について」  
講師:宝塚市 保健師

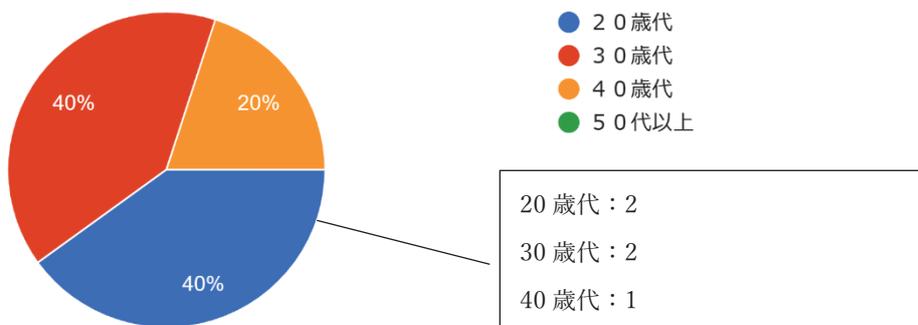
### 〈座談会〉

現職保健師と参加者の座談会

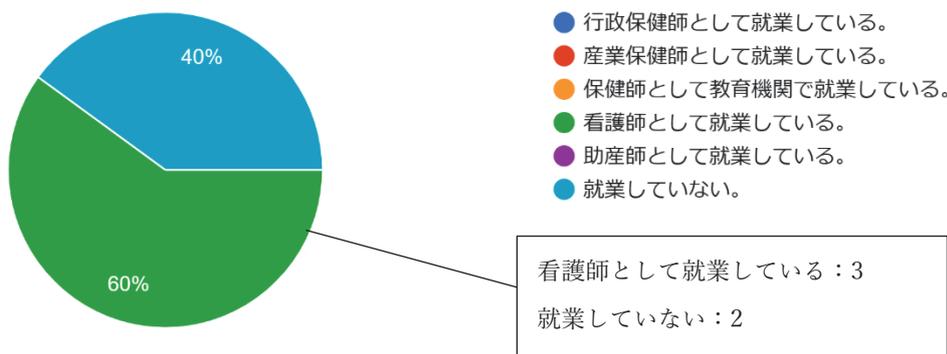
- 5) 参加者:6名、聴講者31名
- 6) 研修結果アンケート:回答数5名 回答率:83.3 %

研修参加者：6名 アンケート回答者：5名（回答率83.3%）

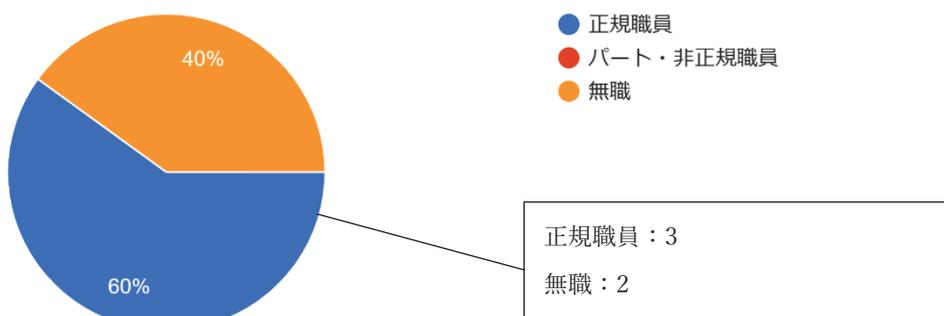
【1】研修参加者の年齢



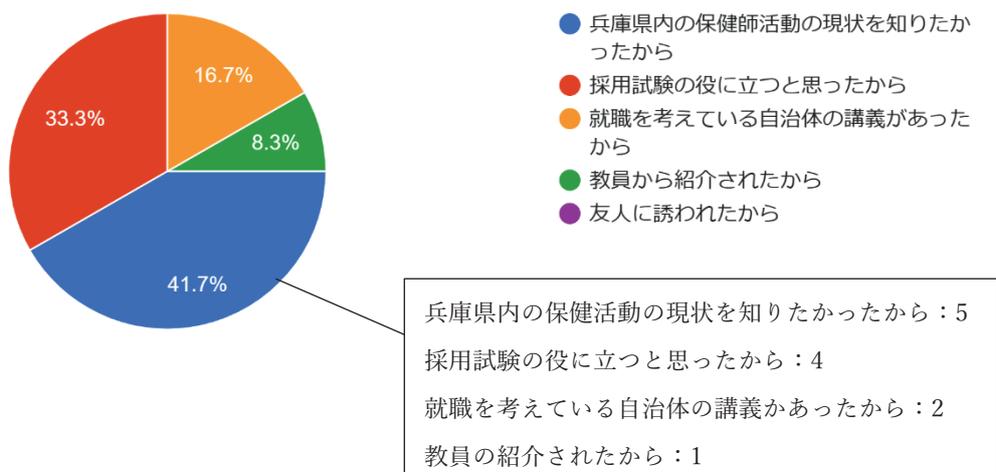
【2】現在の就業状況



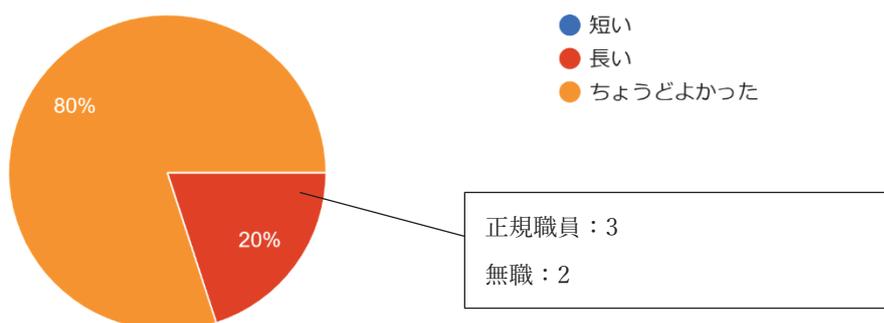
【3】現在の雇用状況



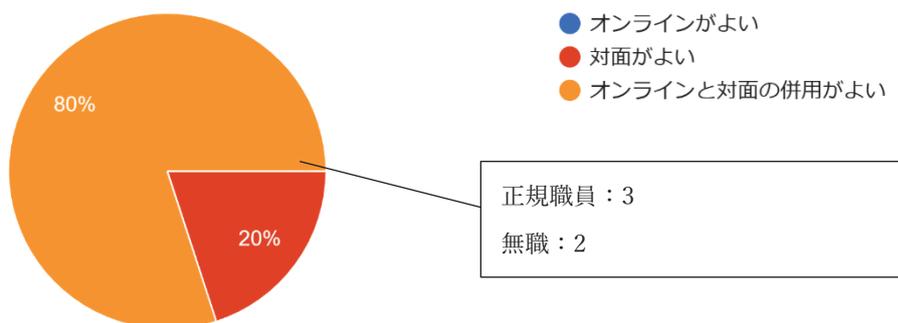
【4】研修会の参加動機



【5】研修時間

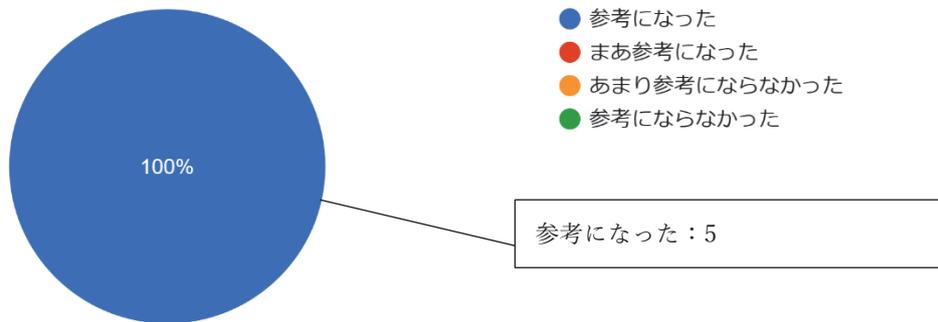


【6】研修方法



●研修内容について

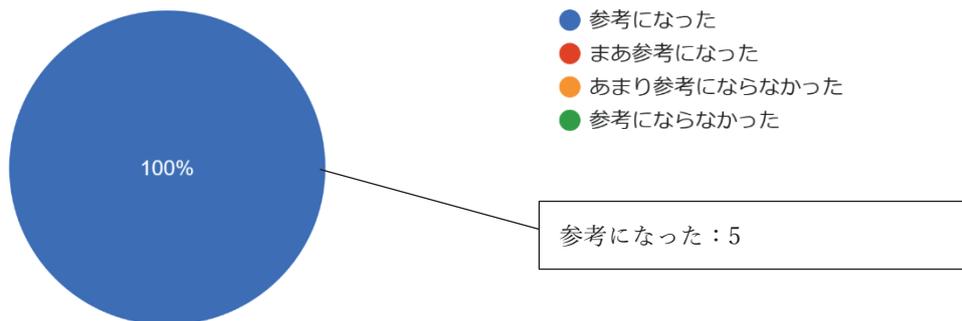
【7】 「最近の保健・医療・福祉の動向と兵庫県における保健施策について」の講義について



【8】 「最近の保健・医療・福祉の動向と兵庫県における保健施策について」の講義からの学び

- ・保健所と市町村の違いについて学ぶことができた。

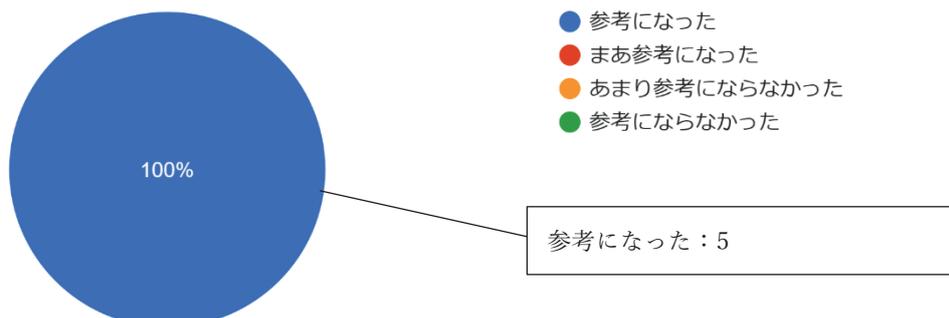
【9】 「兵庫県における保健師活動について」の講義について



【10】 「兵庫県における保健師活動について」の講義からの学び

- ・兵庫県の保健活動における広域的なサービスの内容を具体的に理解することが出来た。
- ・精神保健分野の実際の活動内容を知ることができて学びになった。

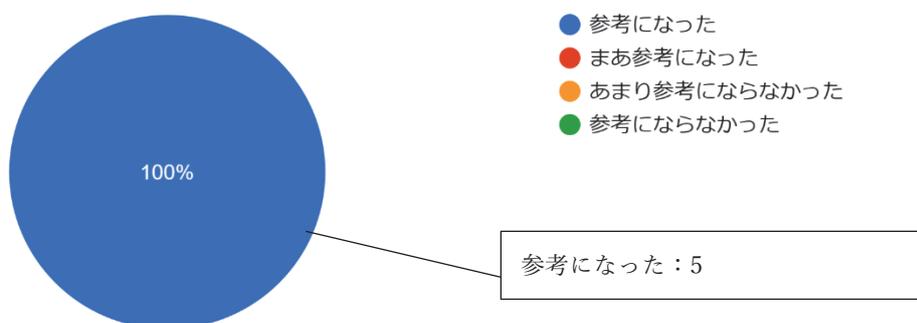
【11】 「神戸市の保健師活動」の講義について



### 【12】「神戸市の保健師活動」の講義からの学び

- ・神戸市における保健サービスの内容を理解することが出来た。また、分野別にどのような取り組みを行っているのかということを理解出来た。
- ・神戸市の新人保健師のサポート体制を知ることができて学びになった。

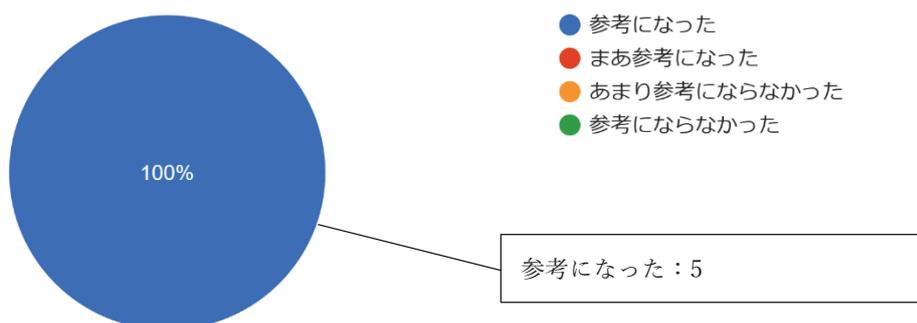
### 【13】「市町における保健師活動の実際について」の講義について



### 【14】「市町における保健師活動の実際について」の講義からの学び

- ・地域に根付いた地域サービスを提供している保健センターの役割や保健師とはどんな存在かということを理解することが出来た。
- ・保健師の環境づくりの実際が知れて学びになった。

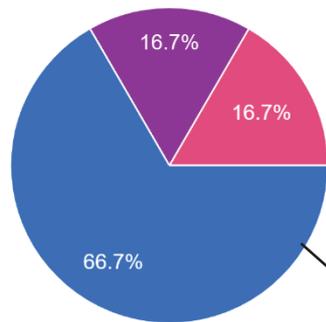
### 【15】座談会について



### 【16】座談会での学び・気づき

- ・育児や介護をしながらでも働いて行ける職業であるということと就職試験に向けての試験内容などを理解することが出来た。
- ・社会人採用があること、採用年齢上限があがっていることを初めて知った。
- ・直接行政の保健師さんとお話する機会はなく貴重な経験だった。
- ・転職して保健師になられた割合や年齢層が知れて参考になった。

【17】現時点での就業希望について（複数回答可）



- 保健師として新たに行政機関での就業を希望
- 保健師として新たに産業分野での就業を希望
- 保健師として新たに教育機関での就業を希望
- 保健師として現在の就業場所での就業を希望
- 看護師として現在の就業場所での就業を希望
- 助産師として現在の就業場所での就業を希望
- まだ考えていません

保健師として新たに行政機関での就業を希望している：4  
看護師として現在の就業場所での就業継続を希望している：1  
まだ考えていません：1

### (3)オンデマンド研修

## 2024 年度 オンデマンド研修

目的:新型コロナウイルス感染症禍で市町村間の保健師による直接的な情報共有の場がなく、活動方法を模索している方も多い。そのために、兵庫県内の先駆的活動や特徴的活動を実施している自治体やその活動を取り上げ、オンデマンドで活動紹介を行う。  
方法:兵庫県保健師キャリア支援センターホームページ内のオンデマンド研修視聴サイトからパスワード入力の視聴ページへ遷移し、視聴する。

### 1. 先駆的保健師活動の紹介

- 1) テーマ:「洲本市の母子保健事業における生活習慣病予防の取り組み」  
講 師:洲本市 保健師
- 2) テーマ:「丹波篠山市における愛育班活動の取り組み」  
講 師:丹波篠山市 保健師

### 2. 新任保健師研修

#### 1) 課題説明

- (1) 1年目の課題の取り組み方について  
開催日時:2024年5月16日(木)  
内容:講義「1年目の課題の取り組み方について」  
講師:兵庫県健康増進課
- (2) 2年目の課題の取り組み方について  
開催日時: 2022年5月21日(火)  
内容:講義「2年目の課題の取り組み方について」  
講師:兵庫県健康増進課
- (3) 3年目の課題の取り組み方について  
開催日時: 2024年5月23日(木)  
内容:講義「3年目の課題の取り組み方について」  
講師:兵庫県健康増進課

#### 2) 先輩保健師の講話（現在2023年度分のみ配信中。2024年度分は年度内に配信予定）

##### (1) 2023年度 新任保健師への講話（前期Ⅱ）

###### ① 1年目保健師への講話

〈 2023年9月6日開催の新任研修での講話オンデマンド研修版 〉

テーマ「2年目保健師として伝えたいこと」

講師 自治体 保健師

###### ② 3年目保健師への講話

〈 2023年9月27日開催の新任研修での講話オンデマンド研修版 〉

テーマ「新任保健師に伝えたいこと」

講師 自治体 保健師



## 5)総括



# 2024 年度兵庫県保健師キャリア支援センター事業総括

## 1. 兵庫県保健師キャリア支援センター業務検討会

今年度は、昨年度と同時期の 3 月 13 日(木)に業務検討会を開催した。主に新任期保健師研修を始めとする人材育成について協議した。

## 2. 人材育成研修

### 1) 新任期保健師研修会

新任期保健師の継続研修として、前期Ⅰ研修では各対象年のテーマ別講義(1 年目:個別支援、2 年目:地域診断、3 年目:PDCA)について神戸大学大学院の和泉比佐子先生を講師にお迎えし、5 月 16(木)、5 月 21 日(火)及び 5 月 23 日(木)に実施した。参加者は聴講者を含みそれぞれ 81 名(うち新任 71 名)、69 名(62 名)、86 名(同 76 名)であった。前期Ⅱ研修では先輩保健師の講話とグループワークを行い、それぞれファシリテーターを含み 9 月 4 日(水)89 名(同 71 名)、9 月 18 日(水)74 名(同 60 名)、9 月 20 日(金)87 名(同 70 名)の参加であった。後期研修では、中堅期保健師による各テーマ別の保健活動の実践についての講話、及び課題に関するグループワークを行った。参加者は、それぞれ 1 月 17 日(金)79 名(同 62 名)、1 月 23 日(木)72 名(同 59 名)、1 月 30 日(木)84 名(同 67 名)であった。新任期研修全体では、9 回、延 721 名(同 598 名)の参加であった。

研修後のアンケートでは、全ての研修において 9 割以上が学びの効果を感じられたとの評価であった。研修は約 8 ヶ月に及び、当日ディスカッションする事例は限られるため、集合研修と各所属における指導の連動が学びを深めることから、集合研修の学びの視点をどのように各自の事例に反映できるのかという実践へつなげるための支援が課題である。また、3 年間の研修のつながりを認識できるような工夫が必要である。本研修の事前事後で実施している専門的能力評価表について、2022 年度と 2023 年度の比較分析を行い、今後の新任期研修や現任教育の在り方に示唆を得た。

### 2) プリセプター研修会

6 月 29 日(木)に開催し 38 名の参加を得た。県庁職員による、新任期保健師現任教育計画の策定と活用に関する趣旨説明、兵庫大学の時長美希先生を講師にお迎えし、新任期の特性を踏まえた上での能力を高めるプリセプターシップのあり方の講義及びプリセプターとしての現状や課題を共有し、今後の支援のあり方を考えるグループワークを行った。研修後のアンケートでは 9 割以上が講義及びグループワークについて学びを実感できる研修となった。また、グループワークを通じて、新任期保健師一人ひとりに合わせた人材育成計画の立案と実践の必要性を再認識する機会となった。プリセプター同士の交流も情報交換の良い機会となった。

### 3) 地域ケアの総合調整研修

12 月 19 日(木)に、武庫川女子大学の和泉京子先生を講師にお迎えし、地域活動において科学的手法を用いて課題を明らかにする必要性とその方法について公開講座を行った。参加者は 34 名であった。また、昨年度から約 2 年間取り組んだ課題研修について、宍粟市のいきいき百歳体操に関する取組(サポート講師:武庫川女子大学の金谷志子先生)、洲本市の子育てに関する保健師等が認識する課題(サポート講師:神戸市看護大学の山下正先生)の 2 チームが実践を報告した。また、今年度から取り組んでいる加古川健康福祉事務所の高齢者施設での感染対策(神戸大学大学院の和泉比佐子先生)、明石市保健予防課の接触者健診結果のデータ分析(サポート講師:兵庫県立大の島村珠枝先生)、明石市健康推進課の 40 代から始めるフィットネスプログラム(甲南女子大学の有馬志津子先生)の 3 チームが実践報告を行った。研修会を通して、来年度、新たに 3 チームを加え 6 チームが課題研修に取り組むことになった。

## 3. 保健師及び地域保健に携わる関係者への調査研究

現在、「保健師のキャリア支援に関するニーズと支援体制に関する研究」に取り組んでいる。これらの

研究を通して、兵庫県下の保健師の実態を把握し、調査結果をもとに今後必要な支援の検討を進めていく予定である。

#### 4. 保健師キャリア支援(再就業支援含む)

##### 1) 保健師キャリア相談

県内の保健師(保健師免許保有者)を対象として、活動に関する具体的な相談(事業、個別支援等)、スキルアップやキャリアラダーに関すること等保健師活動全般に関する相談窓口を開設している。今年度の相談実績 10 件で、相談内容は、研究に関すること、転職や進学、キャリアアップに関する相談であった。メール、オンライン、対面など相談者のニーズに応じて相談方法を工夫した。必要に応じて相談ができる窓口をさらに周知する必要がある。

##### 2) 保健師就業・復職支援研修会

3月7日(金)に研修会を対面とオンラインの併用で行い、参加者は 37 名(受講者 6 名、聴講者 31 名)であった。研修会では、県職員による最近の保健医療福祉施策等に関する講義を総論とし、各論として、県、神戸市、宝塚市から各機関での保健師活動についての講義及び現職保健師との座談会を行った。研修後のアンケートから、研修は、行政機関での現在の県・政令市・市町の保健師活動の理解が深まったとともに、育児や介護をしながらの就業、社会人経験者の実際等を知ることができ、就業や転職の参考になったと満足度が高かった。

##### 3) オンデマンド研修

新任期保健師研修会の研修課題の説明に関する動画及び先輩保健師や中堅期保健師からの講話を配信し、随時活用できるよう提供している。先駆的な保健師活動の紹介については取材を進め、今年度は洲本市の母子保健活動、丹波篠山市における愛育班活動の 2 件を配信した。今後も随時配信していく予定である。

#### 5. まとめ

兵庫県保健師キャリア支援センターでの取組を開始して4年目となった。今年度は、昨年同様の対面を基本とした人材育成を進めることができた。研修の大枠が定着しつつある中、前年度の課題を反映し内容を工夫しながら研修を行っている。コロナが収束するにつれ、受講生の課題への取り組みに変化があり、提出課題の内容がよくなってきているのが印象的である。

新任期保健師研修会は、昨年度に引き続き、研修課題の実践時間を確保するスケジュール設定及びグループワーク、先輩からの講話を行った。ファシリテーターによる支援やグループワークによる多角的な視点の学びや気づきが大きく、満足度が高かった。また、中堅期保健師によるテーマ別の講義は、「個別課題」「地域診断」「PDCA(事業計画と評価)」が一連のつながりを持っていること、研修として取り組んでいることが地域でどのように展開されているのかという具体的な理解をすることにつながり、研修課題に取り組む意義の認識につながっていた。

地域ケアの総合調整研修では、公開講座と実践報告会を行い、根拠に基づく保健活動の必要性の理解が深まった。多忙な業務の中でサポート講師の手厚い支援により、学会発表まで進めることができたチームもあり、研究実践への興味につながったといえる。研修参加者や次年度の受講者が 6 チームと増加し、研修が定着しつつある。研修を通じて、活動の課題を明確化し、行政機関と大学の協働体制の強化につなげていきたいと考える。

保健師就業・復職支援研修会では、短時間、対面とオンラインの併用実施の効果が得られ、参加者の増加につながったと考える。また、講師や助言を依頼した自治体の協力があり、満足度の高い研修となった。引き続き、受講者のニーズに応じた方法を検討し、潜在保健師の就業につなげていきたい。

今年度の全研修において高評価を得た。他県から課題様式の照会があるなど、重要課題である人材育成について、さらなる充実、定着が求められる。そのためには、県内の自治体保健師及び看護系大学教員の協力が不可欠であり、県内全体で人材育成を進めていく機運を一層高め、継続して質の高い研修を実施していくことが重要である。今後は、活動を通じて把握したニーズをもとに、関係機関とも協議しながら進め、さらに充実した人材育成とネットワークの強化につなげていきたいと考える。

## 2. 新任期保健師研修専門的能力評価 (2022 年度・2023 年度)



## 新任期保健師研修専門的能力評価表から見た現状と課題

### 2022～2023 年度における新任期保健師研修専門的能力評価表から見た現状と課題

#### 1. 調査方法

1) 対象者：2022 年度及び 2023 年度新任期研修受講申し込み者で新任期保健師研修専門的能力評価表の提出が受講者及びその指導者

2) 方法：「新任期保健師研修専門的能力評価表」を用いて、研修前後で自己評価及び指導者評価を行った。

評価区分を点数化し、◎:4 点(達成できた)、○:3 点(だいたい達成できた)、△:2 点(あまり達成できなかった)、×:1 点(達成できなかった)とした。

新任期 1～3 年目の各集団の研修前後の評価の変化について、Wilcoxon の符号付き順位検定を行った (有意水準 5%)。

3) 調査内容：新任期 1 年目の評価指標数は 38

新任期 2 年目の評価指標数は 55

新任期 3 年目の評価指標数は 71

#### 2. 結果

1) 新任期研修の研修演目ごとの受講者の状況

受講年	研修演目	受講者数 (研修終了時点での実人数)
2022年	1年目	86
	2年目	59
	3年目	40
2023年	1年目	63
	2年目	78
	3年目	50

2) 各評価項目の結果については、表 1～6、図 1～6 に示した。

#### 3. 2022～2023 年度の研修評価まとめ

・個別支援は経験年数を重ねるごとに着実に向上している。対象者の力を引き出したり、行動変容への支援、困難事例への支援については、各年ともに個別支援関連の中では評価が低い。引き続き支援技術の向上を図るような研修や OJT の実践が必要である。個別事例のサマリーを作成し、自己の支援について振り返り、今後の活動に活かす指標も低い傾向にある。事例検討や引継ぎ等の機会を活用し、定期的に事例を俯瞰してみる視点や能力を養う支援が必要である。

- ・2～3年目において、地区診断の結果について職場内や関係者等に対してプレゼンテーションし、解決策等を検討する評価が低い。これは、このような機会に乏しいことが背景にあることが考えられる。各所属や自治体、健康福祉事務所等の単位で研修後のフィードバックの機会を設けたり、各職場内で行う事業検討の際に、研修で取り組んだ地域診断や事業計画案を共有するなど、研修課題として取り組んだことが実際の保健活動と結びつけられるような働きかけも必要である。
- ・新任期を通して調査研究課題の明確化の評価が低い。新任期研修のみでは調査研究の視点を持つことは難しいと思われる。OJTを通して、地域ケアの総合調整研修を活用するなど、所属内外に対して地域の健康課題を明確にした上で、保健活動の効率的・効果的な実践に向けた取り組みの経験への工夫ができることが望ましい。
- ・評価については、受講者より指導者評価の方がやや高かったが、概ね同様の傾向であった。評価の機会に、お互いがどのような現状や視点から評価したか等、今後の課題の明確化に活用していただきたい。
- ・評価について、「達成できなかった」という判断に未経験が含まれることは考慮すべき事情である。未経験のため達成できなかった状況と実施した上で達成できなかった状況を区別して評価できるような回答区分の検討が必要と思われる。

表1 2022年度新任保健師研修専門的能力評価表分析結果(受講者指導者研修前1年目)

1年目(2022年度)	受講者			指導者		
	平均値		有意差	平均値		有意差
	受講者 研修前	受講者 研修後		指導者 研修前	指導者 研修後	
1.担当地区の訪問対象者を把握することができる	2.84	3.29	**	2.96	3.55	**
2.訪問の優先順位を考慮することができる	2.56	3.06	**	2.66	3.23	**
3.対象の状況にあわせて、家庭訪問、面接相談、電話相談などを組み合わせて、適切な保健指導や生活支援が展開できる	2.31	3.05	**	2.57	3.29	**
4.対象者に事前連絡し、訪問日時を調整して設定できる	3.25	3.73	**	3.49	3.86	**
5.対象にあわせた必要物品を整えることができる	2.89	3.44	**	3.16	3.66	**
6.訪問目的の主たる対象者に直接会うことができる	3.39	3.69	**	3.62	3.86	**
7.訪問先で、あいさつ・自己紹介・訪問目的を適切に伝えられる	3.13	3.62	**	3.46	3.86	**
8.相手の話の腰を折らず、適度なあいづちをうちながら話をしっかり聴くことができる	3.18	3.49	**	3.48	3.78	**
9.個別事例との援助関係(信頼関係)が確立できる	2.43	3.04	**	2.99	3.48	**
10.生活者としての価値感や信念を尊重することができる	2.98	3.30	**	3.13	3.58	**
13.対象者に保健指導を行うために必要な、発達・発育、疾患等についての知識をもつことができる	2.36	2.85	**	2.49	3.10	**
14.訪問場面での状況や健康ニーズ予測し、訪問計画を立案できる	2.23	2.94	**	2.50	3.14	**
16.対象者の身体状況を把握できる(バイタルサイン・発育発達状況、母子手帳の確認など)	2.62	3.14	**	2.83	3.39	**
17.安全な方法で支援技術を提供できる	2.57	3.15	**	2.88	3.50	**
18.対象者の話を整理し、主訴を的確にとらえることができる	2.57	3.02	**	2.77	3.26	**
19.個人・家族のもつ力を引き出すことができる	2.02	2.53	**	2.28	2.86	**
20.家庭環境の観察や相談内容によって、訪問計画を修正できる	2.12	2.88	**	2.36	3.05	**
21.判断に迷うこと、わからないことについての対応がとれる(確認後の回答、上司の判断を得るなど)	3.20	3.48	**	3.35	3.54	**
22.個人、家族の健康課題をアセスメントし、健康ニーズを判断できる	2.38	2.84	**	2.56	2.96	**
23.必要な情報を収集し、科学的根拠に基づいて分析できる	2.22	2.69	**	2.34	2.84	**
24.現実的で対象者が納得できる保健指導計画が立案でき説明できる	1.94	2.70	**	2.13	2.91	**
25.保健指導案に基づき、対象者にわかり易く保健指導できる	2.00	2.67	**	2.35	3.00	**
26.対象者の変化を見ながら指導ができる	2.20	2.83	**	2.38	3.03	**
27.健康課題の解決に向け、主体性を尊重した援助ができる	2.33	2.81	**	2.41	3.06	**
28.行動変容を促す援助ができる	2.06	2.44	**	2.16	2.80	**
29.今後のかかわり方等について対象者に伝えることができる	2.51	3.19	**	2.77	3.34	**
30.具体的かつ客観的に記録を作成し、今後の方針を立てることができる	2.33	2.84	**	2.56	3.08	**
31.訪問結果及び支援経過を正確かつ迅速に報告できる	2.59	2.99	**	2.91	3.26	**
32.単独で継続訪問できる	1.73	2.73	**	1.90	3.11	**
33.困ったときには指導者の助言を求めることができる	3.38	3.62	**	3.41	3.70	**
34.継続訪問した事例のサマリーを作成し、自己の支援方法について振り返って今後の活動に活かすことができる	1.69	2.31	**	1.81	2.71	**
47.地区組織活動やセルフヘルプグループの活動内容を説明できる	1.68	2.11	**	1.74	2.38	**
49.個人・家族が活用可能な社会資源の情報を提供できる	2.05	2.65	**	2.17	2.89	**
51.個別事例への支援を通じて地域の課題へ視点を広げることができる	1.62	2.33	**	1.64	2.39	**
56.担当分野、地域について必要な情報を集めることができる	2.10	2.43	**	2.16	2.60	**
58.必要な情報があるデータベースを知っている	2.08	2.44	**	2.07	2.60	**
59.収集した情報を地域特性や健康課題を抽出するデータとして整理・選択し、保管することができる	1.69	2.02	**	1.62	2.15	**
61.担当する地域の統計資料を収集し、県、国の資料と比較や分析を行う	1.43	1.68	*	1.51	1.86	**

Wilcoxonの順位和検定

※:p<0.05、\*\*※:p<0.01

図1 2022年度1年目 研修評価全項目

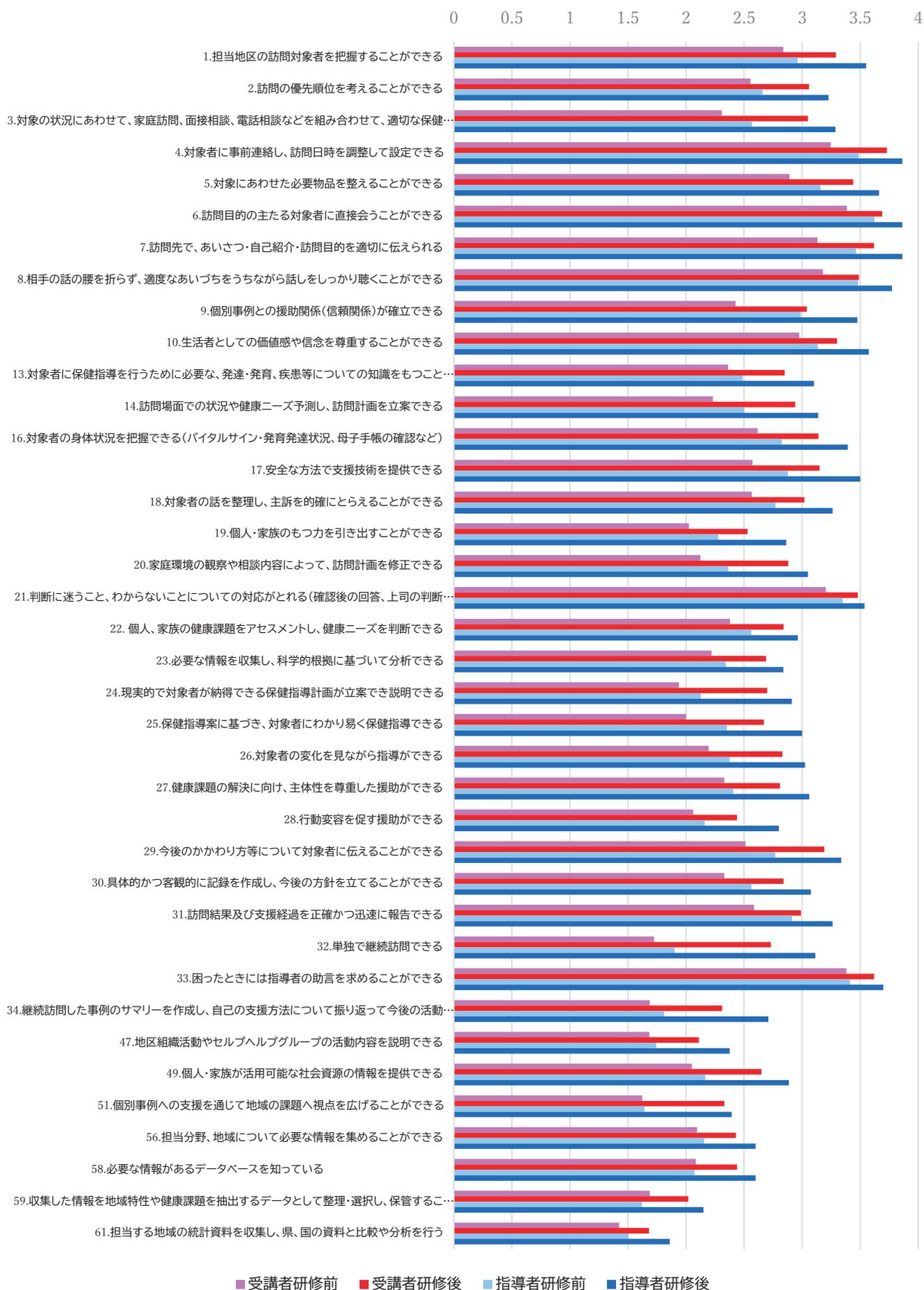


表2 2022年度新任期保健師研修専門的能力評価表分析結果(受講者指導者研修前2年目)

2年目(2022年度)	受講者			指導者		
	平均値		有意差	平均値		有意差
	受講者 研修前	受講者 研修後		指導者 研修前	指導者 研修後	
1.担当地区の訪問対象者を把握することができる	3.52	3.67	*	3.73	3.78	
2.訪問の優先順位を考慮することができる	3.21	3.45	**	3.46	3.64	
3.対象の状況にあわせて、家庭訪問、面接相談、電話相談などを組み合わせて、適切な保健指導や生活支援が展開できる	3.25	3.51	**	3.48	3.71	
4.対象者に事前連絡し、訪問日時を調整して設定できる	3.82	3.89		3.95	3.95	
5.対象にあわせた必要物品を整えることができる	3.63	3.80	*	3.80	3.89	
6.訪問目的の主たる対象者に直接会うことができる	3.80	3.85		3.89	3.95	
7.訪問先で、あいさつ・自己紹介・訪問目的を適切に伝えられる	3.82	3.89		3.89	3.91	
8.相手の話の腰を折らず、適度なあいづちをうちながら話をしっかり聴くことができる	3.66	3.78		3.88	3.89	
9.個別事例との援助関係(信頼関係)が確立できる	3.21	3.40	*	3.45	3.62	
10.生活者としての価値感や信念を尊重することができる	3.45	3.58		3.61	3.69	
11.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例に対して、関わりの方策を工夫できる	2.66	2.87	*	2.84	3.16	
13.対象者に保健指導を行うために必要な、発達・発育、疾患等についての知識をもつことができる	3.05	3.18		3.25	3.45	
14.訪問場面での状況や健康ニーズ予測し、訪問計画を立案できる	3.00	3.29	**	3.23	3.44	
15.相談内容の緊急性や重要性について判断できる	2.93	3.15	**	3.18	3.31	
16.対象者の身体状況を把握できる(バイタルサイン・発育発達状況、母子手帳の確認など)	3.43	3.55		3.55	3.73	
17.安全な方法で支援技術を提供できる	3.45	3.58		3.68	3.71	
18.対象者の話を整理し、主訴を的確にとらえることができる	3.18	3.38	*	3.39	3.51	
19.個人・家族のもつ力を引き出すことができる	2.82	2.89		2.95	3.11	
20.家庭環境の観察や相談内容によって、訪問計画を修正できる	3.05	3.24		3.32	3.38	
21.判断に迷うこと、わからないことについての対応がとれる(確認後の回答、上司の判断を得るなど)	3.66	3.71		3.75	3.85	
22.個人、家族の健康課題をアセスメントし、健康ニーズを判断できる	3.04	3.18	*	3.13	3.38	
23.必要な情報を収集し、科学的根拠に基づいて分析できる	3.02	3.02		3.14	3.31	
24.現実的で対象者が納得できる保健指導計画が立案でき説明できる	2.91	3.06		3.04	3.22	
25.保健指導案に基づき、対象者にわかり易く保健指導できる	3.05	3.07		3.29	3.42	
26.対象者の変化を見ながら指導ができる	3.13	3.22		3.23	3.47	
27.健康課題の解決に向け、主体性を尊重した援助ができる	3.07	3.20		3.18	3.36	
28.行動変容を促す援助ができる	2.79	2.93		2.95	3.15	
29.今後のかかわり方等について対象者に伝えることができる	3.43	3.53		3.43	3.58	
30.具体的かつ客観的に記録を作成し、今後の方針を立てることができる	3.18	3.20		3.29	3.42	
31.訪問結果及び支援経過を正確かつ迅速に報告できる	3.20	3.35	*	3.48	3.64	
32.単独で継続訪問できる	3.29	3.36		3.46	3.60	
33.困ったときには指導者の助言を求められることができる	3.75	3.73		3.88	3.91	
34.継続訪問した事例のサマリーを作成し、自己の支援方法について振り返って今後の活動に活かすことができる	2.71	2.87		2.95	3.13	
35.支援に必要な関係機関を理解できる	2.96	3.16	*	3.16	3.31	
36.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について、関係機関への連絡等により、情報収集ができる	2.88	3.09	*	3.14	3.24	
38.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について適切にアセスメントし、潜在化し健康ニーズを把握できる	2.55	2.73	*	2.66	2.91	
40.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例に対して、支援方策を検討できる	2.59	2.80	*	2.82	3.02	
47.地区組織活動やセルフヘルプグループの活動内容を説明できる	2.46	2.78	**	2.55	2.76	
48.地域の組織等と必要時連絡が取れ、連携して社会資源を活用できる	2.55	2.84	*	2.71	2.91	
49.個人・家族が活用可能な社会資源の情報を提供できる	2.98	3.22	**	3.09	3.33	
50.個人・家族等対象者が社会資源を利用できるよう調整できる	2.66	2.82		2.77	3.00	
51.個別事例への支援を通じて地域の課題へ視点を広げることができる	2.41	2.95	**	2.57	3.00	
52.地域のデータと個別事例を関連させて考えることができる	2.05	2.76	**	2.25	2.87	
53.地域のデータと個別事例を関連させ、地域の健康課題を抽出し説明できる	1.86	2.58	**	2.13	2.76	
56.担当分野、地域について必要な情報を集めることができる	2.66	3.05	**	2.93	3.31	
57.担当地域の健康課題について説明できる	2.09	2.73	**	2.28	2.85	
58.必要な情報があるデータベースを知っている	2.79	3.15	**	2.98	3.36	
59.収集した情報を地域特性や健康課題を抽出するデータとして整理・選択し、保管することができる	2.57	2.95	**	2.80	3.20	
60.地区診断をレポートにまとめることができる	1.82	2.71	**	2.00	3.04	
61.担当する地域の統計資料を収集し、県、国の資料と比較や分析を行う	2.11	2.85	**	2.26	3.05	
62.家庭訪問、保健事業への参加や関係機関との連絡をとって地域特性を説明できる	2.21	2.71	**	2.48	2.96	
63.データや情報から地域の潜在化している健康問題を抽出できる	1.79	2.45	**	2.11	2.76	
64.担当する地域、業務から調査研究課題を明確にできる	1.80	2.11	**	1.87	2.42	
65.職場内で地区診断結果をプレゼンテーションし、今後の方針について検討できる	1.53	2.00	**	1.70	2.33	
66.職場内で地域の健康問題の解決策が立案できる	1.53	2.02	**	1.74	2.37	

Wilcoxonの順位和検定

※:p<0.05、\*\*※:p<0.01

図2 2022年度2年目 研修評価全項目

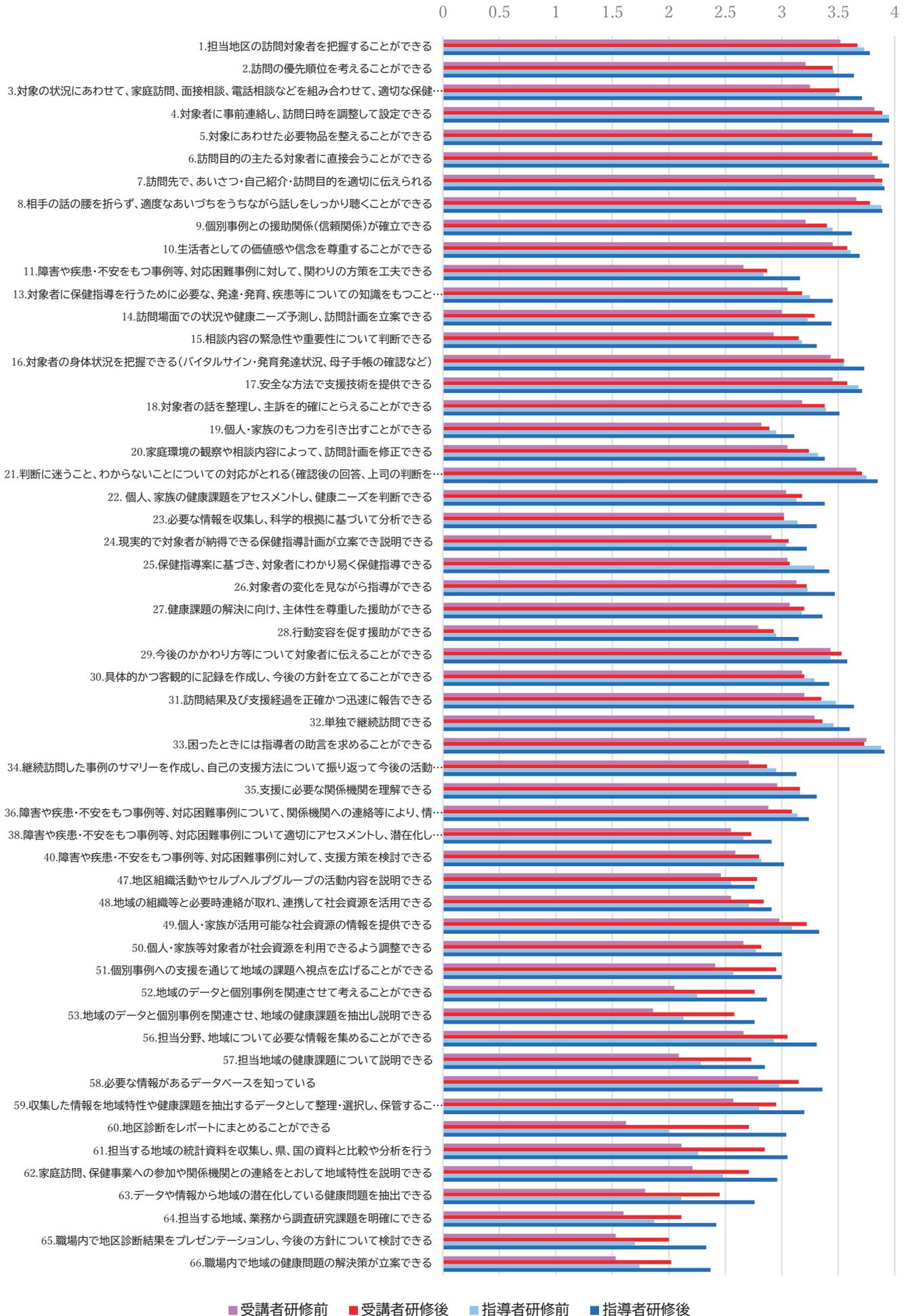


表3-1 2022年度新任保健師研修専門的能力評価表分析結果(受講者指導者研修前3年目)

3年目(2022年度)前半	受講者		指導者		有意差	
	有意差		有意差			
	受講者 研修前	受講者 研修後	指導者 研修前	指導者 研修後		
1.担当地区の訪問対象者を把握することができる	3.89	3.89	3.92	3.89		
2.訪問の優先順位を考慮することができる	3.76	3.81	3.84	3.86		
3.対象の状況にあわせて、家庭訪問、面接相談、電話相談などを組み合わせて、適切な保健指導や生活支援が展開できる	3.55	3.69	3.74	3.89		
4.対象者に事前連絡し、訪問日時を調整して設定できる	3.97	4.00	3.92	4.00		
5.対象にあわせた必要物品を整えることができる	3.92	3.92	3.87	3.94		
6.訪問目的の主たる対象者に直接会うことができる	3.87	3.92	3.89	3.94		
7.訪問先で、あいさつ・自己紹介・訪問目的を適切に伝えられる	3.89	3.94	4.00	4.00		
8.相手の話の腰を折らず、適度なあいづちをうちながら話をしっかり聴くことができる	3.82	3.86	3.95	4.00		
9.個別事例との援助関係(信頼関係)が確立できる	3.55	3.67	3.76	3.92		
10.生活者としての価値感や信念を尊重することができる	3.68	3.69	3.82	3.86		
11.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例に対して、関わりの方策を工夫できる	3.37	3.47	3.47	3.69	*	
12.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例と面接し、円滑な信頼関係を築くことができる	3.08	3.19	3.45	3.72	*	
13.対象者に保健指導を行うために必要な、発達・発育、疾患等についての知識をもつことができる	3.32	3.39	3.55	3.81	**	
14.訪問場面での状況や健康ニーズ予測し、訪問計画を立案できる	3.47	3.50	3.63	3.86	*	
15.相談内容の緊急性や重要性について判断できる	3.50	3.69	3.58	3.89	**	
16.対象者の身体状況を把握できる(バイタルサイン・発育発達状況、母子手帳の確認など)	3.66	3.83	3.81	3.94		
17.安全な方法で支援技術を提供できる	3.79	3.81	3.84	3.89		
18.対象者の話を整理し、主訴を的確にとらえることができる	3.61	3.64	3.63	3.89	**	
19.個人・家族のつらさを引き出すことができる	2.95	3.06	3.26	3.36		
20.家庭環境の観察や相談内容によって、訪問計画を修正できる	3.42	3.53	3.61	3.78		
21.判断に迷うこと、わからないことについての対応がとれる(確認後の回答、上司の判断を得るなど)	3.76	3.89	*	3.84	3.94	
22.個人、家族の健康課題をアセスメントし、健康ニーズを判断できる	3.42	3.56		3.53	3.78	**
23.必要な情報を収集し、科学的根拠に基づいて分析できる	3.29	3.42		3.58	3.61	
24.現実的で対象者が納得できる保健指導計画が立案でき説明できる	3.16	3.39	*	3.39	3.67	*
25.保健指導案に基づき、対象者にわかり易く保健指導できる	3.16	3.33		3.55	3.81	*
26.対象者の変化を見ながら指導ができる	3.32	3.47	*	3.61	3.83	*
27.健康課題の解決に向け、主体性を尊重した援助ができる	3.34	3.36		3.53	3.75	*
28.行動変容を促す援助ができる	2.95	3.11	*	3.34	3.58	*
29.今後のかかり方等について対象者に伝えることができる	3.63	3.75		3.74	3.94	*
30.具体的かつ客観的に記録を作成し、今後の方針を立てることができる	3.53	3.50		3.66	3.81	
31.訪問結果及び支援経過を正確かつ迅速に報告できる	3.53	3.56		3.74	3.83	
32.単独で継続訪問できる	3.63	3.72		3.71	3.78	
33.困ったときには指導者の助言を求めることができる	3.97	3.97		3.92	4.00	
34.継続訪問した事例のサマリーを作成し、自己の支援方法について振り返って今後の活動に活かすことができる	3.05	3.11		3.29	3.36	
35.支援に必要な関係機関を理解できる	3.58	3.78		3.74	3.92	*
36.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について、関係機関への連絡等により、情報収集ができる	3.58	3.69		3.71	3.86	
37.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例の課題を明確にし、支援目標を明らかにできる	2.89	3.22	**	3.24	3.47	*
38.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について適切にアセスメントし、潜在化し健康ニーズを把握できる	3.03	3.28	*	3.24	3.50	*
39.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例のキーパーソンを決定できる	3.13	3.28		3.47	3.78	*
40.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例に対して、支援方策を検討できる	3.18	3.33		3.45	3.67	*
41.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例の緊急時の対応について、事前に検討できる	2.71	3.08	**	3.16	3.42	*
42.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例の緊急性等に応じて、タイムリーに対応できる	2.95	3.08		3.08	3.42	**
43.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例の状況に応じて、支援方策を修正し、継続的に支援できる	3.08	3.28		3.34	3.67	**
44.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例への関わりについて評価し、支援方策を修正できる	2.89	3.22	**	3.29	3.50	
45.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について、関係機関への連絡等により、情報収集ができる	3.39	3.47		3.58	3.83	**
46.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について、常時所属内で共有し、スムーズに対応ができる	3.16	3.33		3.47	3.56	
47.地区組織活動やセルフヘルプグループの活動内容を説明できる	2.97	3.08		3.18	3.28	
48.地域の組織等と必要時連絡が取り、連携して社会資源を活用できる	3.24	3.44		3.32	3.53	
49.個人・家族が活用可能な社会資源の情報を提供できる	3.34	3.61	**	3.58	3.78	
50.個人・家族等対象者が社会資源を利用できるよう調整できる	3.16	3.42	**	3.45	3.67	*

Wilcoxonの順位和検定

※:p<0.05、\*\*:p<0.01

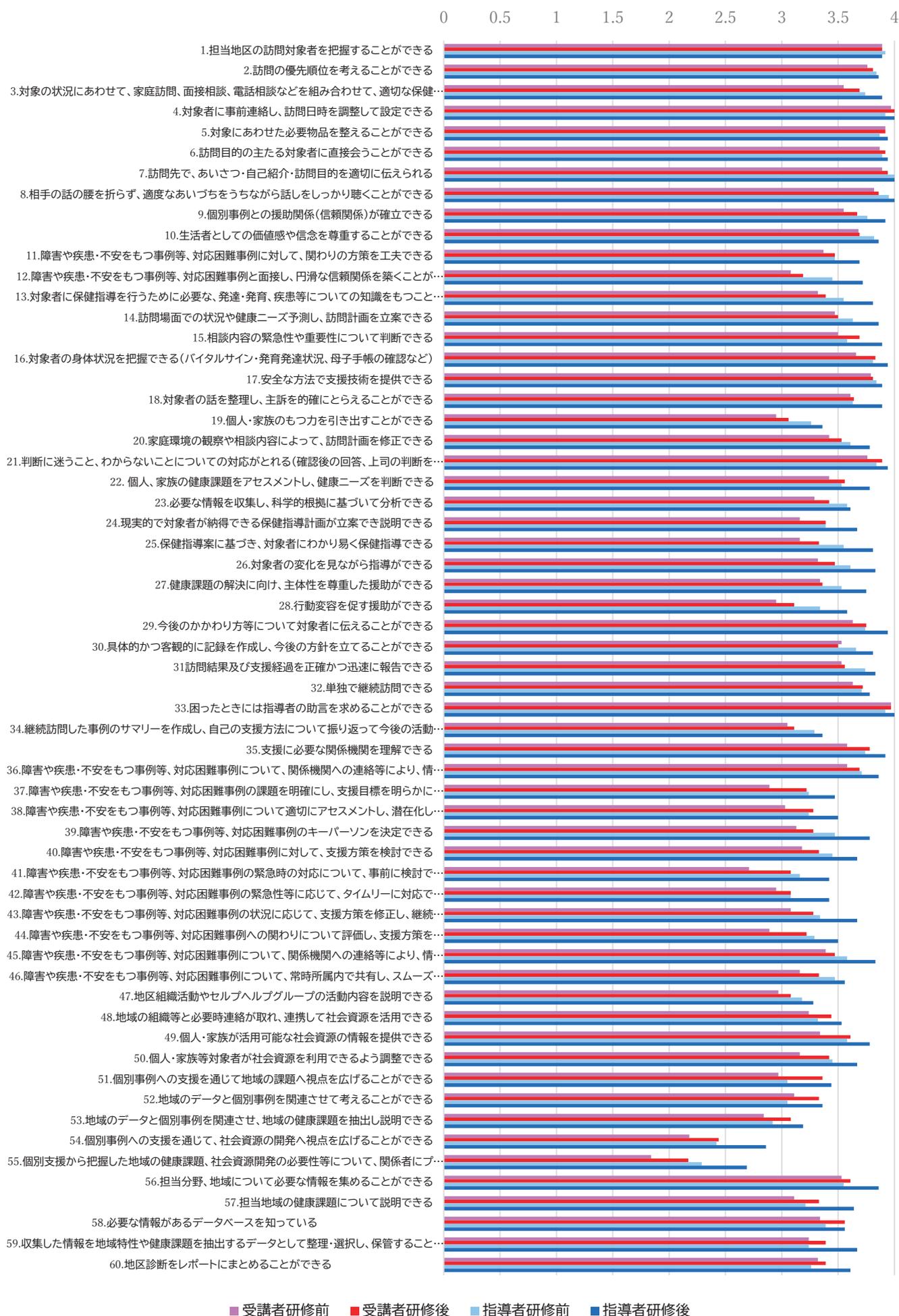
表3-2 2022年度新任保健師研修専門的能力評価表分析結果(受講者指導者研修前3年目)

3年目(2022年度)後半	受講者			指導者		
	平均値		有意差	平均値		有意差
	受講者 研修前	受講者 研修後		指導者 研修前	指導者 研修後	
51.個別事例への支援を通じて地域の課題へ視点を広げることができる	2.97	3.36	**	3.05	3.44	**
52.地域のデータと個別事例を関連させて考えることができる	3.11	3.33	*	3.05	3.36	**
53.地域のデータと個別事例を関連させ、地域の健康課題を抽出し説明できる	2.84	3.08	*	2.92	3.19	*
54.個別事例への支援を通じて、社会資源の開発へ視点を広げることができる	2.18	2.44	**	2.42	2.86	**
55.個別支援から把握した地域の健康課題、社会資源開発の必要性等について、関係者にプレゼンテーションし理解が得られる	1.84	2.17	*	2.29	2.69	*
56.担当分野、地域について必要な情報を集めることができる	3.53	3.61		3.55	3.86	**
57.担当地域の健康課題について説明できる	3.11	3.33		3.21	3.64	**
58.必要な情報があるデータベースを知っている	3.34	3.56		3.39	3.56	
59.収集した情報を地域特性や健康課題を抽出するデータとして整理・選択し、保管することができる	3.24	3.39		3.24	3.67	**
60.地区診断をレポートにまとめることができる	3.32	3.39		3.26	3.61	*
61.担当する地域の統計資料を収集し、県、国の資料と比較や分析を行う	3.26	3.36		3.26	3.53	
62.家庭訪問、保健事業への参加や関係機関との連絡をとって地域特性を説明できる	3.21	3.33		3.16	3.53	**
60.地区診断をレポートにまとめることができる	3.32	3.39		3.26	3.61	*
61.担当する地域の統計資料を収集し、県、国の資料と比較や分析を行う	3.26	3.36		3.26	3.53	
62.家庭訪問、保健事業への参加や関係機関との連絡をとって地域特性を説明できる	3.21	3.33		3.16	3.53	**
63.データや情報から地域の潜在化している健康問題を抽出できる	3.03	3.14		3.00	3.39	*
64.担当する地域、業務から調査研究課題を明確にできる	2.55	2.61		2.74	3.03	
65.職場内で地区診断結果をプレゼンテーションし、今後の方針について検討できる	2.39	2.61		2.68	3.11	**
66.職場内で地域の健康問題の解決策が立案できる	2.47	2.61		2.65	2.83	
67.健康問題を解決するために、協働するべき住民や関係機関(者)等が選出できる	2.34	2.72	**	2.58	3.00	**
68.住民や関係機関(者)等との話し合いの中で住民や地域の現状を共有できる	2.37	2.69	*	2.61	3.03	**
69.個別事例・担当事業をとりまく関係機関の機能・役割(職種)が説明できる	2.97	3.22	*	3.32	3.58	*
70.必要な社会資源の活用ができる	3.00	3.19		3.29	3.61	**
71.個別事例について、関係機関と課題について共有ができ、具体的に支援方を検討できる	2.89	3.25	*	3.32	3.64	**

Wilcoxonの順位和検定

\*\* : p<0.05、\*\*\* : p<0.01

図3-1 2022年度3年目 研修評価全項目 前半



■ 受講者研修前 ■ 受講者研修後 ■ 指導者研修前 ■ 指導者研修後

図3-2 2022年度3年目 研修評価全項目 後半

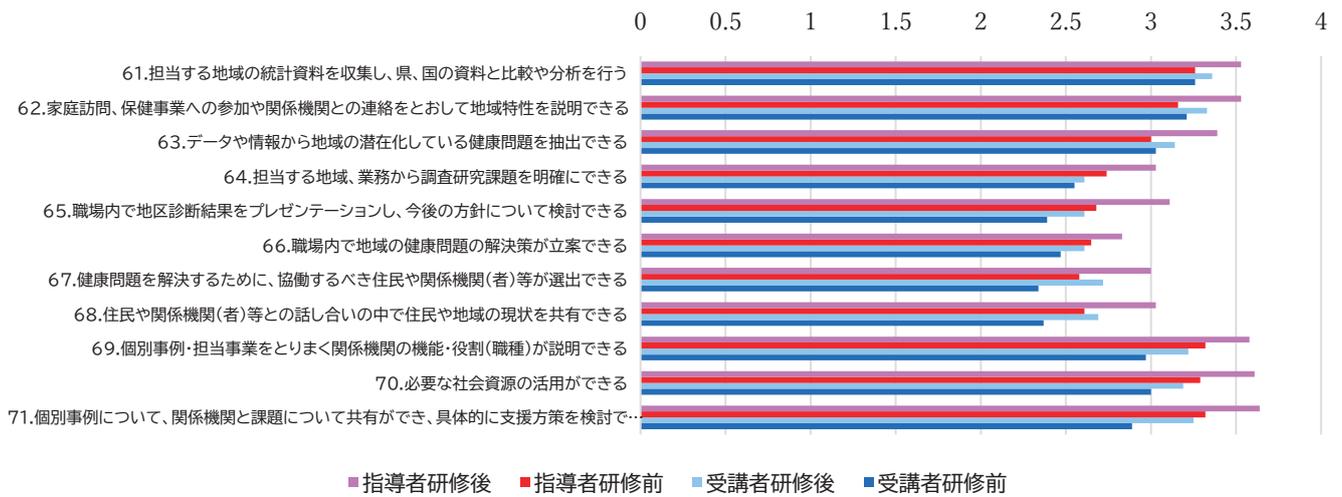


表4 2023年度新任期保健師研修専門的能力評価表分析結果(受講者指導者研修前1年目)

1年目(2023年度)	受講者			指導者		
	平均値		有意差	平均値		有意差
	受講者 研修前	受講者 研修後		指導者 研修前	指導者 研修後	
1.担当地区の訪問対象者を把握することができる	2.24	3.23	**	2.58	3.60	**
2.訪問の優先順位を考慮することができる	1.83	2.90	**	2.13	3.22	**
3.対象者の状況にあわせて、家庭訪問、面接相談、電話相談などを組み合わせて、適切な保健指導や生活支援が展開できる	1.75	2.85	**	2.15	3.14	**
4.対象者に事前連絡し、訪問日時を調整して設定できる	2.52	3.77	**	2.94	3.90	**
5.対象にあわせた必要物品を整えることができる	2.27	3.34	**	2.59	3.56	**
6.訪問目的の主たる対象者に直接会うことができる	2.72	3.58	**	3.02	3.79	**
7.訪問先で、あいさつ・自己紹介・訪問目的を適切に伝えられる	2.62	3.58	**	2.83	3.75	**
8.相手の話の腰を折らず、適度なあいづちをうちながら話をしっかり聴くことができる	2.84	3.45	**	3.13	3.71	**
9.個別事例との援助関係(信頼関係)が確立できる	1.94	2.92	**	2.29	3.32	**
10.生活者としての価値感や信念を尊重することができる	2.56	3.11	**	2.66	3.33	**
13.対象者に保健指導を行うために必要な、発達・発育、疾患等についての知識をもつことができる	1.98	2.71	**	2.37	3.05	**
14.訪問場面での状況や健康ニーズ予測し、訪問計画を立案できる	1.75	2.77	**	2.00	3.11	**
16.対象者の身体状況を把握できる(バイタルサイン・発育発達状況、母子手帳の確認など)	2.22	2.98	**	2.54	3.32	**
17.安全な方法で支援技術を提供できる	2.05	3.19	**	2.48	3.46	**
18.対象者の話を整理し、主訴を的確にとらえることができる	2.19	2.90	**	2.39	3.10	**
19.個人・家族のもつ力を引き出すことができる	1.61	2.47	**	1.89	2.57	**
20.家庭環境の観察や相談内容によって、訪問計画を修正できる	1.72	2.82	**	1.97	3.05	**
21.判断に迷うこと、わからないことについての対応がとれる(確認後の回答、上司の判断を得るなど)	2.81	3.48	**	3.20	3.57	**
22.個人、家族の健康課題をアセスメントし、健康ニーズを判断できる	2.00	2.79	**	2.17	3.05	**
23.必要な情報を収集し、科学的根拠に基づいて分析できる	1.95	2.73	**	2.08	2.90	**
24.現実的で対象者が納得できる保健指導計画が立案でき説明できる	1.53	2.60	**	1.84	2.94	**
25.保健指導案に基づき、対象者にわかり易く保健指導できる	1.61	2.66	**	2.00	3.10	**
26.対象者の変化を見ながら指導ができる	1.67	2.73	**	2.00	3.05	**
27.健康課題の解決に向け、主体性を尊重した援助ができる	1.86	2.77	**	2.10	2.97	**
28.行動変容を促す援助ができる	1.55	2.45	**	1.82	2.67	**
29.今後のかかわり方等について対象者に伝えることができる	1.97	2.98	**	2.21	3.29	**
30.具体的かつ客観的に記録を作成し、今後の方針を立てることができる	2.05	2.76	**	2.23	3.08	**
31.訪問結果及び支援経過を正確かつ迅速に報告できる	2.29	2.98	**	2.66	3.33	**
32.単独で継続訪問できる	1.19	2.82	**	1.48	3.23	**
33.困ったときには指導者の助言を求められることができる	3.12	3.55	**	3.30	3.68	**
34.継続訪問した事例のサマリーを作成し、自己の支援方法について振り返って今後の活動に活かすことができる	1.43	2.38	**	1.65	2.76	**
47.地区組織活動やセルフヘルプグループの活動内容を説明できる	1.52	2.27	**	1.48	2.42	**
49.個人・家族が活用可能な社会資源の情報を提供できる	1.64	2.65	**	1.85	2.89	**
51.個別事例への支援を通じて地域の課題へ視点を広げることができる	1.34	2.35	**	1.52	2.41	**
56.担当分野、地域について必要な情報を集めることができる	1.92	2.53	**	1.97	2.78	**
58.必要な情報があるデータベースを知っている	1.92	2.37	**	1.81	2.54	**
59.収集した情報を地域特性や健康課題を抽出するデータとして整理・選択し、保管することができる	1.59	2.13	**	1.67	2.40	**
61.担当する地域の統計資料を収集し、県、国の資料と比較や分析を行う	1.23	1.76	**	1.44	2.10	**

Wilcoxonの順位検定

※:p<0.05、\*\*※:p<0.01

図4 2023年度1年目 研修評価全項目

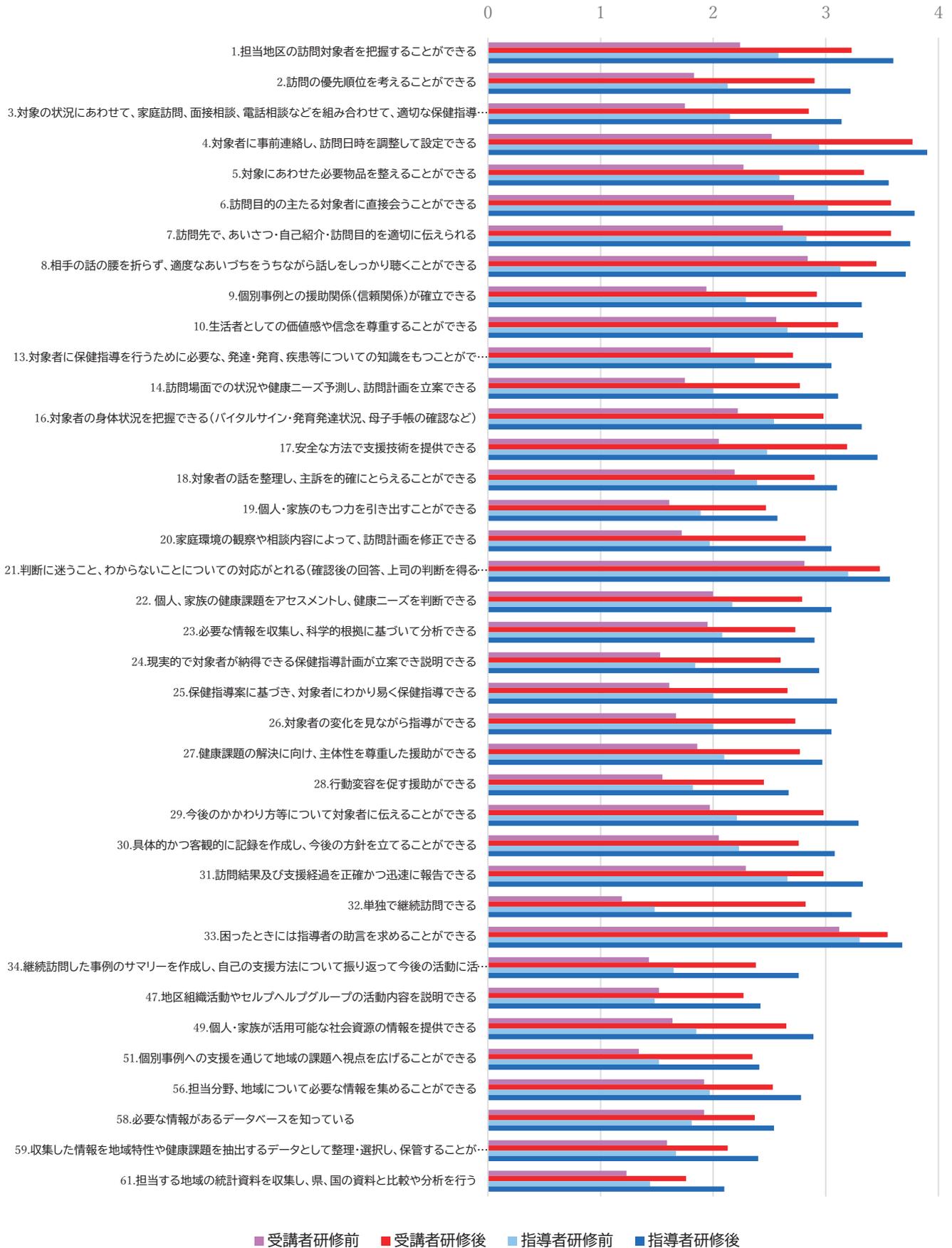


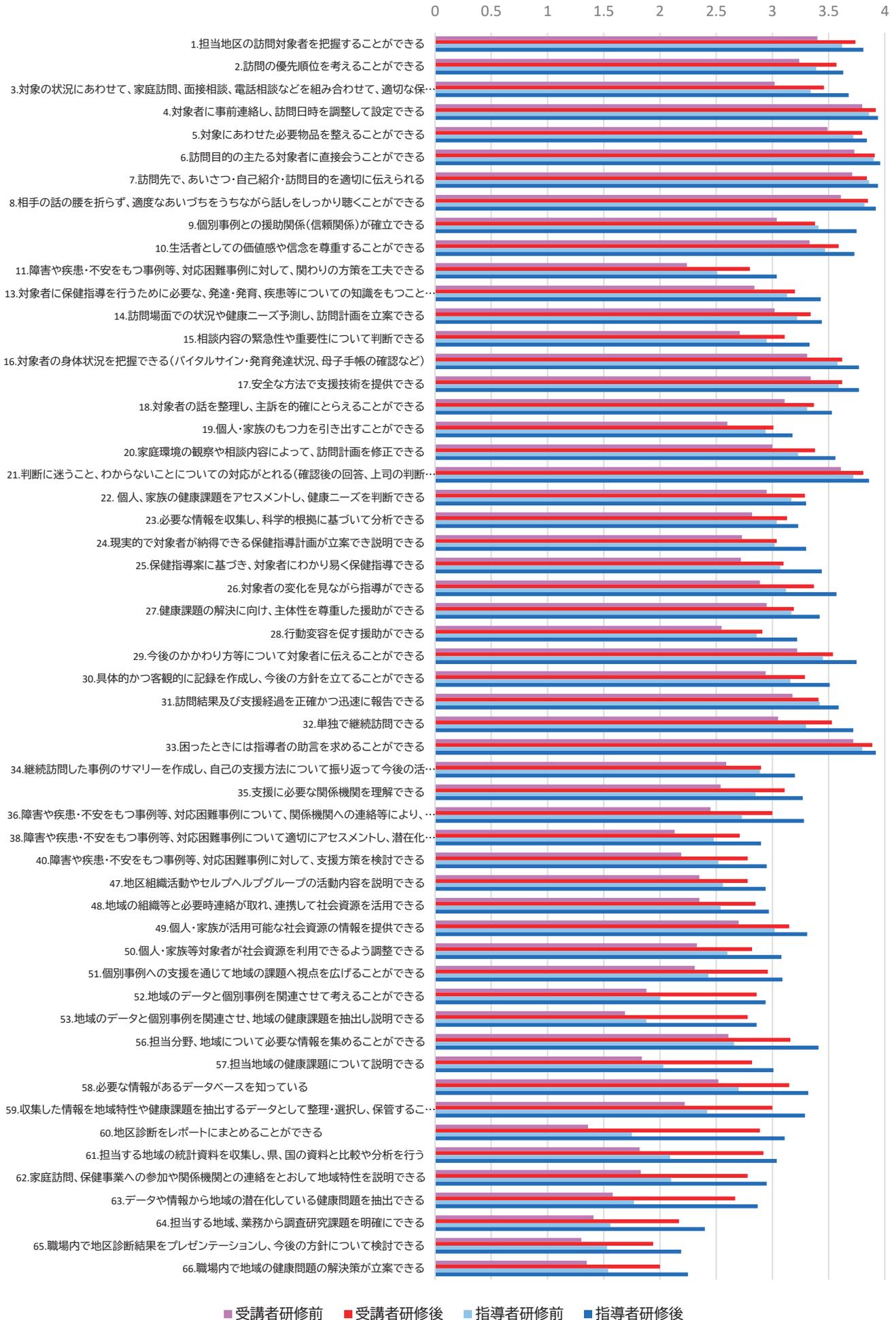
表5 2023年度新任期保健師研修専門的能力評価表分析結果(受講者指導者研修前2年目)

2年目(2023年度)	受講者			指導者		
	平均値		有意差	平均値		有意差
	受講者 研修前	受講者 研修後		指導者 研修前	指導者 研修後	
1.担当地区の訪問対象者を把握することができる	3.40	3.74	***	3.02	3.81	
2.訪問の優先順位を考慮することができる	3.24	3.57	***	3.39	3.63	
3.対象の状況にあわせて、家庭訪問、面接相談、電話相談などを組み合わせて、適切な保健指導や生活支援が展開できる	3.02	3.46	***	3.34	3.68	***
4.対象者に事前連絡し、訪問日時を調整して設定できる	3.80	3.92	***	3.86	3.94	
5.対象にあわせて必要物品を整えることができる	3.49	3.80	***	3.72	3.84	
6.訪問目的の主たる対象者に直接会うことができる	3.73	3.91	***	3.9	3.96	
7.訪問先で、あいさつ・自己紹介・訪問目的を適切に伝えられる	3.71	3.84	***	3.86	3.94	*
8.相手の話の腰を折らず、適度なあいづちをうちながら話しをしっかりと聴くことができる	3.61	3.85	***	3.82	3.92	
9.個別事例との援助関係(信頼関係)が確立できる	3.04	3.38	***	3.41	3.75	***
10.生活者としての価値感や信念を尊重することができる	3.33	3.59	***	3.47	3.73	*
11.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例に対して、関わりの方策を工夫できる	2.24	2.80	***	2.51	3.04	***
13.対象者に保健指導を行うために必要な、発達・発育、疾患等についての知識をもつことができる	2.84	3.20	***	3.13	3.43	***
14.訪問場面での状況や健康ニーズ予測し、訪問計画を立案できる	3.02	3.34	***	3.22	3.44	
15.相談内容の緊急性や重要性について判断できる	2.71	3.11	***	2.95	3.33	***
16.対象者の身体状況を把握できる(バイタルサイン・発育発達状況、母子手帳の確認など)	3.31	3.82	***	3.58	3.77	***
17.安全な方法で支援技術を提供できる	3.34	3.82	***	3.59	3.77	***
18.対象者の話を整理し、主訴を的確にとらえることができる	3.11	3.37	***	3.31	3.53	*
19.個人・家族のもつ力を引き出すことができる	2.6	3.01	***	2.94	3.18	*
20.家庭環境の観察や相談内容によって、訪問計画を修正できる	3.00	3.38	***	3.23	3.56	*
21.判断に迷うこと、わからないことについての対応がとれる(確認後の回答、上司の判断を得るなど)	3.61	3.81	***	3.72	3.86	
22.個人、家族の健康課題をアセスメントし、健康ニーズを判断できる	2.95	3.29	***	3.17	3.30	
23.必要な情報を収集し、科学的根拠に基づいて分析できる	2.82	3.13	***	3.04	3.23	
24.現実的で対象者が納得できる保健指導計画が立案でき説明できる	2.73	3.04	***	3.02	3.30	***
25.保健指導案に基づき、対象者にわかり易く保健指導できる	2.72	3.10	***	3.07	3.44	***
26.対象者の変化を見ながら指導ができる	2.89	3.37	***	3.12	3.57	***
27.健康課題の解決に向け、主体性を尊重した援助ができる	2.95	3.19	***	3.17	3.42	***
28.行動変容を促す援助ができる	2.55	2.91	***	2.86	3.22	***
29.今後のかかわり方等について対象者に伝えることができる	3.22	3.54	***	3.45	3.75	***
30.具体的かつ客観的に記録を作成し、今後の方針を立てることができる	2.94	3.29	***	3.16	3.51	***
31.訪問結果及び支援経過を正確かつ迅速に報告できる	3.18	3.41	***	3.42	3.59	***
32.単独で継続訪問できる	3.05	3.53	***	3.3	3.72	***
33.困ったときには指導者の助言を求めることができる	3.72	3.89	***	3.8	3.92	
34.継続訪問した事例のサマリーを作成し、自己の支援方法について振り返って今後の活動に活かすことができる	2.59	2.90	***	2.89	3.2	***
35.支援に必要な関係機関を理解できる	2.54	3.11	***	2.85	3.27	***
36.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について、関係機関への連絡等により、情報収集ができる	2.45	3.00	***	2.73	3.28	***
38.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について適切にアセスメントし、潜在化し健康ニーズを把握できる	2.13	2.71	***	2.48	2.90	***
40.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例に対して、支援方策を検討できる	2.19	2.78	***	2.52	2.95	*
47.地区組織活動やセルフヘルプグループの活動内容を説明できる	2.35	2.78	***	2.56	2.94	*
48.地域の組織等と必要時連絡が取れ、連携して社会資源を活用できる	2.35	2.85	***	2.54	2.97	
49.個人・家族が活用可能な社会資源の情報を提供できる	2.70	3.15	***	3.02	3.31	*
50.個人・家族等対象者が社会資源を利用できるよう調整できる	2.33	2.82	***	2.6	3.08	***
51.個別事例への支援を通じて地域の課題へ視点を広げることができる	2.31	2.96	***	2.43	3.09	*
52.地域のデータと個別事例を関連させて考えることができる	1.88	2.86	***	2.00	2.94	
53.地域のデータと個別事例を関連させ、地域の健康課題を抽出し説明できる	1.69	2.78	***	1.88	2.86	
56.担当分野、地域について必要な情報を集めることができる	2.61	3.16	***	2.66	3.41	***
57.担当地域の健康課題について説明できる	1.84	2.82	***	2.03	3.01	***
58.必要な情報があるデータベースを知っている	2.52	3.15	***	2.7	3.32	*
59.収集した情報を地域特性や健康課題を抽出するデータとして整理・選択し、保管することができる	2.22	3.00	***	2.42	3.29	***
60.地区診断をレポートにまとめることができる	1.36	2.89	***	1.75	3.11	***
61.担当する地域の統計資料を収集し、県、国の資料と比較や分析を行う	1.82	2.92	***	2.09	3.04	
62.家庭訪問、保健事業への参加や関係機関との連絡をとって地域特性を説明できる	1.83	2.78	***	2.10	2.95	*
63.データや情報から地域の潜在化している健康問題を抽出できる	1.58	2.67	***	1.77	2.87	***
64.担当する地域、業務から調査研究課題を明確にできる	1.41	2.17	***	1.56	2.40	***
65.職場内で地区診断結果をプレゼンテーションし、今後の方針について検討できる	1.30	1.94	***	1.53	2.19	***
66.職場内で地域の健康問題の解決策が立案できる	1.35	2.00	***	1.54	2.25	***

Wilcoxonの順位和検定

※: p<0.05、\*\*\*: p<0.01

## 図5 2023年度2年目 研修評価全項目



■ 受講者研修前 ■ 受講者研修後 ■ 指導者研修前 ■ 指導者研修後

表6-1 2023年度新任期保健師研修専門的能力評価表分析結果(受講者指導者研修前3年目)

3年目(2023年度)前半	受講者			指導者		
	平均値		有意差	平均値		有意差
	受講者 研修前	受講者 研修後		指導者 研修前	指導者 研修後	
1.担当地区の訪問対象者を把握することができる	3.71	3.80	*	3.76	3.82	
2.訪問の優先順位を考慮することができる	3.55	3.80	**	3.65	3.80	*
3.対象者の状況にあわせて、家庭訪問、面接相談、電話相談などを組み合わせて、適切な保健指導や生活支援が展開できる	3.49	3.76	**	3.62	3.75	
4.対象者に事前連絡し、訪問日時を調整して設定できる	3.89	3.98		3.93	3.94	
5.対象にあわせた必要物品を整えることができる	3.80	3.94	*	3.85	3.94	
6.訪問目的の主たる対象者に直接会うことができる	3.87	3.96		3.93	3.96	
7.訪問先で、あいさつ・自己紹介・訪問目的を適切に伝えられる	3.84	3.96		3.91	3.96	
8.相手の話の腰を折らず、適度なあいづちをうちながら話をしっかり聴くことができる	3.75	3.92	**	3.82	3.94	*
9.個別事例との援助関係(信頼関係)が確立できる	3.51	3.82	**	3.65	3.76	
10.生活者としての価値感や信念を尊重することができる	3.58	3.80	**	3.55	3.75	*
11.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例に対して、関わりの方策を工夫できる	3.15	3.43	**	3.25	3.55	**
12.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例と面接し、円滑な信頼関係を築くことができる	2.71	3.18	**	3.05	3.39	**
13.対象者に保健指導を行うために必要な、発達・発育、疾患等についての知識をもつことができる	3.31	3.47	*	3.45	3.55	
14.訪問場面での状況や健康ニーズ予測し、訪問計画を立案できる	3.33	3.63	**	3.40	3.63	*
15.相談内容の緊急性や重要性について判断できる	3.35	3.55	*	3.44	3.61	
16.対象者の身体状況を把握できる(バイタルサイン・発育発達状況、母子手帳の確認など)	3.55	3.76	**	3.60	3.82	**
17.安全な方法で支援技術を提供できる	3.58	3.76	**	3.64	3.75	
18.対象者の話を整理し、主眼的確にとらえることができる	3.31	3.59	**	3.55	3.61	
19.個人・家族のもつ力を引き出すことができる	3.02	3.14	*	3.13	3.33	**
20.家庭環境の観察や相談内容によって、訪問計画を修正できる	3.35	3.61	**	3.45	3.67	**
21.判断に迷うこと、わからないことについての対応がとれる(確認後の回答、上司の判断を得るなど)	3.67	3.82	*	3.78	3.84	
22.個人、家族の健康課題をアセスメントし、健康ニーズを判断できる	3.33	3.49	*	3.31	3.57	**
23.必要な情報を収集し、科学的根拠に基づいて分析できる	3.13	3.37	**	3.22	3.47	**
24.現実的で対象者が納得できる保健指導計画が立案でき説明できる	3.13	3.39	*	3.25	3.45	*
25.保健指導案に基づき、対象者にわかり易く保健指導できる	3.16	3.43	**	3.36	3.57	*
26.対象者の変化を見ながら指導ができる	3.31	3.51	**	3.53	3.63	
27.健康課題の解決に向け、主体性を尊重した援助ができる	3.18	3.59	**	3.36	3.55	*
28.行動変容を促す援助ができる	2.91	3.20	*	3.05	3.27	*
29.今後のかかわり方等について対象者に伝えることができる	3.53	3.73	**	3.62	3.75	
30.具体的かつ客観的に記録を作成し、今後の方針を立てることができる	3.25	3.39		3.36	3.55	
31.訪問結果及び支援経過を正確かつ迅速に報告できる	3.36	3.53	*	3.49	3.63	
32.単独で継続訪問できる	3.40	3.69	**	3.56	3.76	*
33.困ったときには指導者の助言を求めることができる	3.71	3.84		3.87	3.88	
34.継続訪問した事例のサマリーを作成し、自己の支援方法について振り返って今後の活動に活かすことができる	2.95	3.18	*	3.13	3.20	
35.支援に必要な関係機関を理解できる	3.18	3.47	**	3.38	3.57	*
36.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について、関係機関への連絡等により、情報収集ができる	3.33	3.63	**	3.44	3.76	**
37.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例の課題を明確にし、支援目標を明らかにできる	2.75	3.18	**	2.85	3.27	**
38.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について適切にアセスメントし、潜在化し健康ニーズを把握できる	2.93	3.24	**	3.00	3.20	*
39.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例のキーパーソンを決定できる	2.93	3.27	**	3.09	3.47	**
40.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例に対して、支援方策を検討できる	3.09	3.41	**	3.16	3.51	**
41.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例の緊急時の対応について、事前に検討できる	2.49	3.00	**	2.82	3.14	*
42.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例の緊急性等に応じて、タイムリーに対応できる	2.51	3.10	**	2.87	3.35	**
43.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例の状況に応じて、支援方策を修正し、継続的に支援できる	2.76	3.16	**	2.95	3.33	*
44.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例への関わりについて評価し、支援方策を修正できる	2.65	3.10	**	2.93	3.27	*
45.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について、関係機関への連絡等により、情報収集ができる	2.91	3.36	**	3.22	3.60	**

Wilcoxonの順位和検定

※:p<0.05、\*\*※:p<0.01

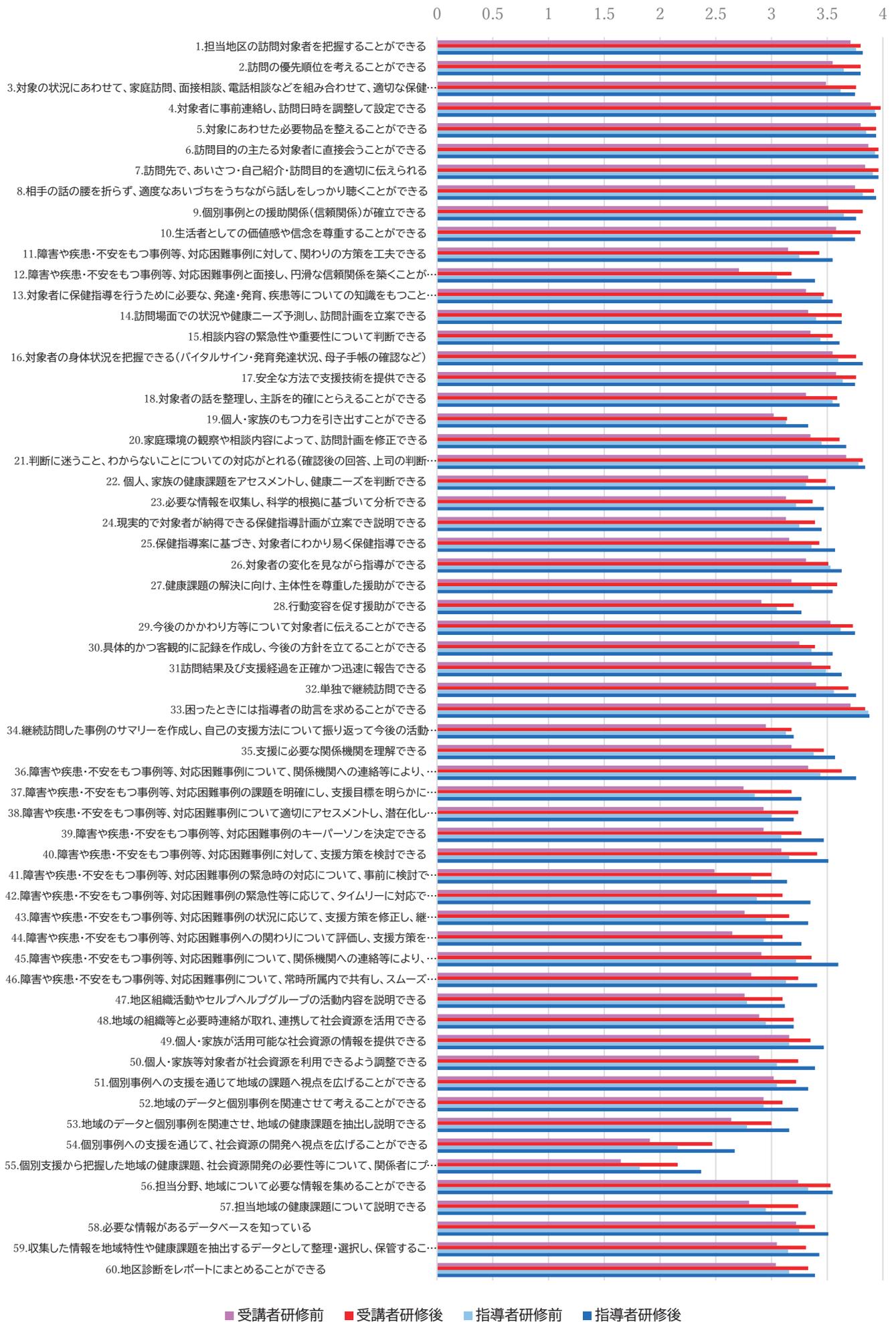
表6-2 2023年度新任期保健師研修専門的能力評価表分析結果(受講者指導者研修前3年目)

3年目(2023年度)後半	受講者			指導者		
	平均値		有意差	平均値		有意差
	受講者 研修前	受講者 研修後		指導者 研修前	指導者 研修後	
46.障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について、常時所属内で共有し、スムーズに対応ができる	2.82	3.24	**	3.13	3.41	*
47.地区組織活動やセルフヘルプグループの活動内容を説明できる	2.76	3.10	**	2.78	3.12	**
48.地域の組織等と必要時連絡が取れ、連携して社会資源を活用できる	2.89	3.20	**	2.95	3.20	*
49.個人・家族が活用可能な社会資源の情報を提供できる	3.16	3.35	*	3.16	3.47	**
50.個人・家族等対象者が社会資源を利用できるよう調整できる	2.89	3.24	**	3.05	3.39	**
51.個別事例への支援を通じて地域の課題へ視点を広げることができる	3.02	3.22	*	3.05	3.33	*
52.地域のデータと個別事例を関連させて考えることができる	2.93	3.10	*	2.93	3.24	**
53.地域のデータと個別事例を関連させ、地域の健康課題を抽出し説明できる	2.84	3.00	**	2.78	3.16	**
54.個別事例への支援を通じて、社会資源の開発へ視点を広げることができる	1.91	2.47	**	2.16	2.67	**
55.個別支援から把握した地域の健康課題、社会資源開発の必要性等について、関係者にプレゼンテーションし理解が得られる	1.85	2.16	**	1.82	2.37	**
56.担当分野、地域について必要な情報を集めることができる	3.24	3.53	**	3.33	3.55	*
57.担当地域の健康課題について説明できる	2.80	3.24	**	2.95	3.31	**
58.必要な情報があるデータベースを知っている	3.22	3.39	*	3.25	3.51	**
59.収集した情報を地域特性や健康課題を抽出するデータとして整理・選択し、保管することができる	3.05	3.31	**	3.15	3.43	**
60.地区診断をレポートにまとめることができる	3.04	3.33	**	3.16	3.39	*
61.担当する地域の統計資料を収集し、県、国の資料と比較や分析を行う	2.93	3.18	**	3.05	3.33	**
62.家庭訪問、保健事業への参加や関係機関との連絡をとって地域特性を説明できる	2.75	3.08	**	2.87	3.31	**
63.データや情報から地域の潜在化している健康問題を抽出できる	2.85	3.10	**	2.76	3.20	**
64.担当する地域、業務から調査研究課題を明確にできる	2.29	2.73	**	2.53	2.80	**
65.職場内で地区診断結果をプレゼンテーションし、今後の方針について検討できる	2.38	2.76	**	2.47	2.78	**
66.職場内で地域の健康問題の解決策が立案できる	2.33	2.76	**	2.40	2.82	**
67.健康問題を解決するために、協働するべき住民や関係機関(者)等が選出できる	2.13	2.76	**	2.40	2.92	**
68.住民や関係機関(者)等との話し合いの中で住民や地域の現状を共有できる	2.09	2.89	**	2.40	2.90	**
69.個別事例・担当事業をとりまく関係機関の機能・役割(職種)が説明できる	2.64	3.16	**	2.87	3.29	**
70.必要な社会資源の活用ができる	2.45	2.96	**	2.75	3.37	**
71.個別事例について、関係機関と課題について共有ができ、具体的に支援方策を検討できる	2.49	3.06	**	2.75	3.37	**

Wilcoxonの順位和検定

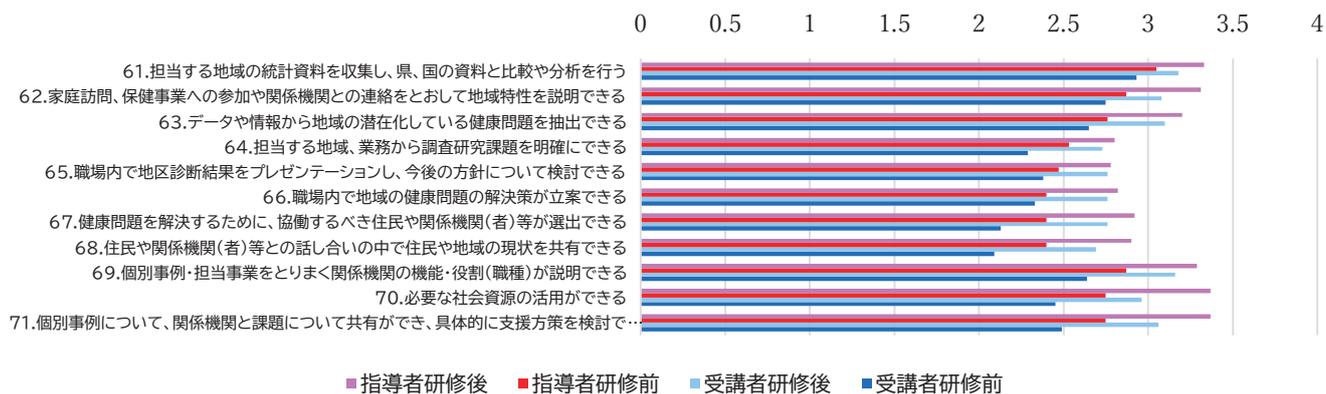
※:p<0.05、\*\*※:p<0.01

図6-1 2023年度3年目 研修評価全項目 前半



■ 受講者研修前 ■ 受講者研修後 ■ 指導者研修前 ■ 指導者研修後

図6-2 2023年度3年目 研修評価全項目 後半













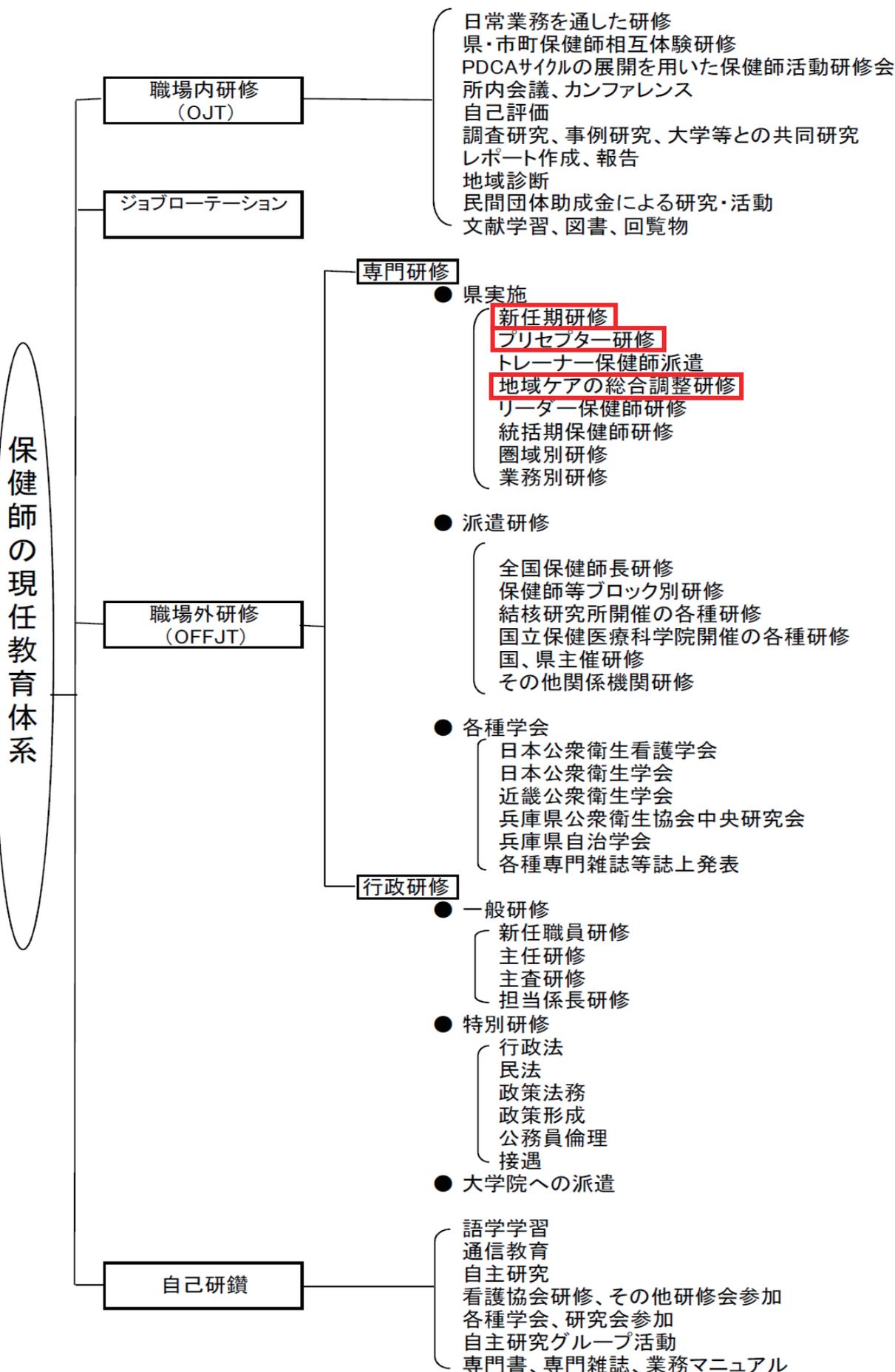


### 3. 卷末資料



# 兵庫県保健師の現任教育体系

※   は兵庫県保健師キャリア支援センター2024年度実施事業



キャリアレベル					
	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
キャリアレベルの定義					
所属組織における役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の新任者であり行政組織人及び保健師専門職としての自覚を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画された担当業務を自立して実施する。</li> <li>プリセプターとして後輩の指導を担う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健活動に係る担当業務全般について自立して行う。</li> <li>役割や立場の違いを理解し、つなぎ役としての組織的な役割を担う。</li> <li>自組織を越えたプロジェクトに参画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属係内でチームのリーダーシップをとって保健活動を推進する。</li> <li>キャリアレベルA-5の保健師を補佐する。</li> <li>関係機関との信頼関係を築き協働する。</li> <li>自組織を越えたプロジェクトで主体的に発言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属課の保健事業全般に關して指導的役割を担う。</li> <li>自組織を越えた関係者との連携・調整を行う。</li> </ul>
責任を持つ業務の範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当業務を的確に把握・理解し、個別事例に対して責任を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>系の保健事業に係る業務全般を理解し、地域支援活動に係る担当業務に責任を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>係の保健事業と施策との関係性を理解し、主担当として担当業務に責任を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課の保健事業に係る業務全般を理解し、その効果的な実施に対して責任を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の健康施策に係る事業全般を理解し、その効果的な実施に対して責任を持つ。</li> </ul>
専門技術の到達レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な事例への対応を主体的に行う。</li> <li>地域活動を通して地域特性や地域資源を把握し、地域の人の健康課題を明らかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例への対応を必要に応じて指導を受けて実施する。</li> <li>担当地域の健康課題の優先度を判断し、地域の人の主体性を尊重した解決策を立案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例に対して自立して対応する。</li> <li>健康課題を明確にし、チーム内で共有し、地域の人々と協働して事業計画を提案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例に対して、担当保健師等にスーパーバイズすることができ、地域の潜在的な健康課題を明確にし、施策に応じた事業化を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織横断的な連携を図りながら、複雑かつ緊急性の高い地域の健康課題に対して迅速に対応する。</li> <li>健康課題解決のための施策を提案する。</li> </ul>

保健師の活動領域		各レベルにおいて求められる能力			
1 対人支援活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学や公衆衛生看護学等の専門知識に基づき個人及び家族の健康と生活に関するアセスメントを行う能力</li> <li>個人や家族の生活の多様性を踏まえ、あらゆる保健活動の場面を活用して個人及び家族の主体性を尊重し、課題解決のための支援及び予防的支援を行う能力</li> <li>必要な資源を導入及び調整し、効果的かつ効率的な個人及び家族への支援を行う能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人及び家族の健康と生活について分析し健康課題解決のための支援計画を立てる。</li> <li>個人及び家族の多様性や主体性を尊重した支援を指導を受けながら実践できる。</li> <li>支援に必要な資源を把握できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例の支援を必要に応じて、指導を受けて実施できる。</li> <li>対象の主体性を踏まえ、支援に必要な資源を指導を受けて導入及び調整できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例の潜在的な健康課題を把握し、予防に係る支援を実施できる。</li> <li>健康課題に予防的に介入できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑かつ緊急性の高い健康課題を迅速に明確化し、必要な資源を調整し、効果的な支援を実践できる。</li> </ul>
1-2. 集団への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の特性を把握し、グループダイナミクスを活用し、集団及び地域の健康度を高める能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団のグループダイナミクスを活用して、特性に応じた支援計画を企画し、自立して支援できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団への支援を通して、地域の健康課題を明確化することができ、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団への支援を通して、地域の課題解決に向けた事業計画を立案できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団への支援を通して立案した事業により、住民による地域の健康課題の解決を支援することができる。</li> </ul>

保健師の活動領域		各レベルにおいて求められる能力				
2	地域支援活動	<p>・地域の健康課題や地域資源を明確化し、地域組織や関係機関と協働して課題解決する能力</p> <p>・地域の特性を理解し住民と協働して組織化・ネットワーク化を促す能力</p> <p>・地域組織を育成し、ネットワーク化し協働する能力</p>	<p>・担当地区の情報进行分析し、健康課題の明確化と優先性の判断ができる。</p> <p>・多様な住民ニーズを把握しながら、地域組織と共に活動できる。</p>	<p>・地域診断や地区活動で明らかになった課題を事業計画立案に活用できる。</p> <p>・住民と共に活動しながら、住民ニーズに応じた組織化が提案できる。</p>	<p>・地域に潜在する健康課題を把握し、リスクの低減や予防策を計画し実践できる。</p> <p>・住民ニーズに応じた組織化と協働し、必要に応じて新たな資源やネットワークの立ち上げを検討することができる。</p>	<p>・地域診断や地区活動で明らかになった課題を施策立案に活用できる。</p> <p>・多様な住民組織のネットワークを立ち上げ、地域組織の育成を行うことができる。</p>
	2-1. 地域診断・地区活動	<p>・健康なまちづくりを推進するため保健、医療、福祉、介護等の各種サービスの総合的な調整を行う能力</p> <p>・住民、学校、企業ほか、地域の関係機関と協働し連携を図り、地域特性に応じたケアシステムを構築する能力</p>	<p>・担当地区の各種サービスとその関係性を理解し、指導を受けながら担当事例への対応を通して必要なサービス調整ができる。</p>	<p>・地域の健康課題や地域特性に基づき、関係機関と協働し、地域ケアシステム改善・強化について検討できる。</p>	<p>・各種サービスの円滑な連携のために必要な調整ができる。</p> <p>・地域の健康課題や特性に応じたケアシステムについて検討し提案することができる。</p>	<p>・保健福祉政策に基づき、地域特性に応じたケアシステムの構築に係る施策化ができる。</p>
3	事業化のための活動策化	<p>・保健医療福祉施策を理解し、事業を企画立案し、予算確保できる能力</p> <p>・地域の健康課題を解決するため、自組織のビジョンを踏まえた保健医療福祉施策を提案する能力</p>	<p>・担当地区の健康課題を把握し、施策と事業との関連性について理解したうえで、事業計画立案に参画することができる。</p> <p>・担当事業の進捗管理ができる。</p>	<p>・係内の事業の成果や評価等をまとめ、組織内で共有することができる。</p> <p>・地域の健康課題を明らかにし、評価に基づく事業の見直しや新発事業計画を提案できる。</p>	<p>・保健医療福祉計画に基づいた事業計画を立案し、事業や予算の必要性について上司や予算担当者に説明できる。</p>	<p>・地域の健康課題を解決するための自組織のビジョンを踏まえた施策を各種保健医療福祉計画策定時に提案できる。</p>
	3-1. 事業化・施策化	<p>・平時において、地域の健康課題及び関連連法規や自組織内の健康危機管理計画等に基つき、地域の健康危機*の低減策を講じる能力</p> <p>*災害、医薬品、食中毒、感染症、飲料水その他何らかの原因により生じる地域住民の生命、健康の安全を脅かす事態</p>	<p>・健康危機対応マニュアルに基づき、予防活動を行うことができる。</p> <p>・健康危機発生後、必要な対応を指導者の指示のもと実施できる。</p> <p>・現状を把握し、情報を整理し、上司に報告する事ができる。</p>	<p>・健康危機対応マニュアルに基つき、予防活動を行うことができる。</p>	<p>・健康危機管理計画や体制の見直しを計画的に行うことができる。</p>	<p>・有事に起こりうる複雑な状況の対応に備え、平時より関係者との連携体制を構築できる。</p> <p>・健康危機管理計画や体制の見直しを計画的に行うことができる。</p>
4	健康危機管理の体制整備	<p>・健康危機発生時に、組織内の関係者と連携し、住民の健康被害を回避し、必要な対応を迅速に判断し実践する能力</p>	<p>・発生要因を分析し、二次的健康被害を予測し予防するための活動を主体的に実施できる。</p>	<p>・必要な情報を整理し組織内外の関係者へ共有でき、変化する状況を分析し、二次的健康被害を予測し、予防活動を計画、実施できる。</p>	<p>・健康被害を予測し、回避するための対応方法について、変化する状況を踏まえて、見直しができる。</p> <p>・組織内の関連部署と連携、調整できる。</p>	<p>・健康被害を予測し、回避するための対応方法について、変化する状況を踏まえて、見直しができる。</p> <p>・組織内の関連部署と連携、調整できる。</p>
	4-1. 健康危機管理の体制整備	<p>・健康危機発生時の対応</p>	<p>・健康危機発生時の対応</p>	<p>・健康危機発生時の対応</p>	<p>・健康危機発生時の対応</p>	<p>・健康危機発生時の対応</p>

保健師の活動領域		各レベルにおいて求められる能力					
5 管理的活動	保健師の活動領域	求められる能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルに基づく事業評価方法を理解できる。</li> <li>・担当する事例に係る評価結果に基づき支援方法の見直しができる。</li> <li>・組織における情報管理に係る基本指針を理解し、業務に係る文書等を適切に管理できる。</li> <li>・保健活動上知り得た個人情報等を適切に取り扱うことができる。</li> <li>・業務の記録を適切に行い関係者への情報伝達ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属係内のメンバーと共同して事業の評価及び見直しを主体的に実施できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属係内で事業評価が適切に実施できるよう後輩保健師を指導できる。</li> <li>・事業計画の立案時に評価指標を適切に設定できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属部署内外の関係者とともに事業評価を行い、事業の見直しや新規事業の計画を提案できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価に基づき保健活動の効果を検証し、施策の見直しについて提案できる。</li> <li>・施策立案時に評価指標を適切に設定できる。</li> </ul>
	5-1. PDCAサイクルに基づく事業・施策評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属部署内外の関係者とともに、事業評価及び施策評価、保健活動の効果検証を行う能力</li> <li>・評価結果等の根拠に基づき事業及び施策の必要な見直しを行う能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健活動に係る情報の取扱が適切に行われているか、自主的に確認できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健活動に係る情報管理上の不則の事態が発生した際に、所属部署内で主導して対応できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健活動の情報管理に係る規則の遵守状況を評価し、マニュアル等の見直しを提案できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属部署内外の関係者とともに事業評価を行い、事業の見直しや新規事業の計画を提案できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価に基づき保健活動の効果を検証し、施策の見直しについて提案できる。</li> <li>・施策立案時に評価指標を適切に設定できる。</li> </ul>
	5-2. 情報管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織内外の保健活動に係る情報を適切に保管、開示、保護する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のキャリア形成ビジョンを持ち、積極的に自己研鑽できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後輩保健師の指導を通して人材育成上の課題を抽出し、見直し案を提示できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の研修事業を企画し、実施・評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の人材育成方針に沿った保健師の人材育成計画を作成できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の人材育成方針に沿った保健師の人材育成計画を作成できる。</li> </ul>
5-3. 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の人材育成方針を理解し、保健師の人材育成計画を作成する能力</li> <li>・継続的に自己研鑽するとともに、後輩を指導・育成する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠に基づき保健活動を実施するため、実施した保健活動の記録を適切に行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導を受けながら研究的手法を用いて事業の評価ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域診断などにおいて研究的手法を用いて分析し、根拠に基づき保健事業を計画できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠に基づき、質の高い保健事業を提案し、その効果を検証できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠に基づき、質の高い保健事業を提案し、その効果を検証できる。</li> </ul>	
6. 保健師の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の活動理念である社会的公正性・公共性について理解し、活動を倫理的に判断する能力</li> </ul>	<p>保健師の活動の理念である社会的公正性・公共性について理解し、活動を倫理的に判断できる</p>					

自治体保健師の標準的なキャリアラダー(管理職保健師に向けた能力に係るキャリアラダー)

別紙2-2

キャリアレベル		
(係長級への準備段階)	B-2 (係長級)	B-3 (課長級)
		B-4 (部局長級)

保健師の活動領域	各レベルにおいて求められる能力		
	求められる能力	B-1 (係長級への準備段階)	B-2 (係長級)
1. 政策策定と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の動向や自組織の方針を理解し、担当部署に係る活動方針のビジョンを示し、必要に応じた見直しを行う能力</li> <li>自治体を代表して外部機関の上位者との調整や交渉を行う能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民の健康課題等に基づく事業化、施策化及び事業評価に基づく見直しができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療福祉に係る国の動向や組織の方針、施策の評価を踏まえ、組織の政策ビジョンに係る提言ができる。</li> </ul>
2. 危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機等の発生時に組織の管理者として迅速な判断を行う能力</li> <li>組織内外の調整を行う能力</li> <li>危機を回避するための予防的措置が行われるよう管理する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理に係る組織内外の関係者を把握し、有事に備えた関係性の構築ができる。</li> <li>有事にマニュアルに沿って行動し、課長の補佐や部下への指示を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療福祉政策に係る必要な計画や法制度整備について組織内で提言し、実現に向け組織の意志決定者及び関係機関にはたらきかけができる。</li> <li>危機管理に必要な計画・マニュアル・内規等の整備を組織に提言し、実現化することができる。</li> <li>有事に、組織の対応方針に基づき、代表して、関係機関の代表者と連携し、部局を統括して対応できる。</li> </ul>
3. 人事管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当部署内の全職員の能力・特性を把握し、資質向上のしくみづくりと必要に応じた見直しを行う能力</li> <li>組織目標・計画を踏まえて保健師採用計画・配置基準・人事異動を提言する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>係内職員の能力・特性を把握し、資質向上のための取組を企画、実施、評価できる。</li> <li>係内の業務内容と量を動員し、人材配置について課長に提案できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職の人材育成計画を策定するため関係者が協働し検討できる場を設置し運営できる。</li> <li>関係課長と連携し、保健師の業務範囲等を踏まえ保健師必要数について人事部門を含め組織内で提案できる。</li> <li>組織目標・計画を踏まえて、保健師採用計画・配置基準・人事異動を提言できる。</li> </ul>

# 兵庫県保健師キャリア支援センター事業

【2024年度の実績】

(神戸市看護大学 いちかんダイバーシティ看護開発センター内)

## 兵庫県保健師キャリア支援センター(2021.4月設置)

県内のすべての保健師の質の向上を目指す人材育成拠点

現職保健師

潜在保健師

資質向上・キャリア支援  
人材確保

### 人材育成研修

兵庫県人材育成ガイドラインに則った研修

2024年度参加者  
新任期 延721名  
プリセプター 38名  
地域ケアの総合調整研修 34名  
5市・5大学

### キャリア支援

リカレント教育・キャリア相談

2024年度実績(2025.3.13現在)  
キャリア相談 10件  
オンデマンド研修  
保健師就業・復職支援研修会  
37名(聴講者含む)

### 兵庫県保健師キャリア支援センター

事務局:神戸市看護大学

兵庫県

運営委託

### 調査研究

- ①保健師のキャリア支援に関するニーズと支援体制に関する研究
  - ②行政保健師の産育休取得前後の支援ニーズに関する研究
- (2024年度全て現在進行中)

### 業務検討会

構成員12名  
保健師代表  
(県、政令市、中核市、市町)  
兵庫県看護系大学協議会  
県看護協会  
2024年度 年1回開催

兵庫県看護協会

兵庫県内行政機関

ネットワーク構築

兵庫県内事業所等

兵庫県内看護系大学

# 兵庫県 保健師キャリア支援センター

2021年4月設置

保健師の質の向上を目的として、保健師人材育成の拠点となる  
兵庫県保健師キャリア支援センターを神戸市看護大学内に設置いたしました。

## 1 保健師のキャリア相談

保健師業務に関する質問をなんでもどうぞ！

予約制

毎月第3水曜日  
面談・電話

にて実施

- ・ホームページより随時受付中
- ・日時・方法は応相談（オンライン相談も可）
- ・いちかんダイバーシティ看護開発センター教員、公衆衛生看護学領域教員が相談対応



お申込フォームは  
こちら



## 2 保健師人材育成研修

兵庫県保健師人材育成ガイドラインに  
則り研修を実施します。

新任期 保健師研修

中堅期 保健師研修

統括期 保健師研修

オンデマンド研修

県下の先駆的保健師活動の紹介など、随時アップ



随時更新中！



## 3 保健師に関する調査研究



## 4 兵庫県 保健師キャリア支援センター ホームページ

キャリア相談の  
お申し込みも HP から

<https://kobe-phn-cc.jp/>

- ・キャリアアップ情報
- ・研修等の案内
- ・相談窓口フォーム等



〒651-2103 神戸市西区学園西町3丁目4番地（神戸市看護大学内）  
（直通電話）078-794-8084 / （大学代表）078-794-8080  
phncenter@kobe-ccn.ac.jp

ご要望を  
お寄せ  
ください

# 保健師キャリア相談

無料

保健師の業務やキャリアに関することで  
困っていることや相談したいことはありませんか？

地域課題を多角的な  
視点から分析して  
みたい。

プリセプターとして  
どう対応したら  
いいだろう。

今関わっている  
個別対応はこれで  
いいのかしら？

保健師としてどのように  
キャリアアップして  
いったらいいのかな。

## 主な相談内容

- ①保健師活動に関する具体的な相談（事業、個別支援等）
- ②スキルアップに関すること
- ③キャリアラダーに関すること
- ④保健師活動に関する調査研究に関すること
- ⑤その他保健師活動に関すること 何でも！



日時：毎月第3水曜日 13:00～20:00

上記以外の日程（土曜日も含む）や相談方法は調整可能ですのでご相談ください。

方法：面談（来所・遠隔）または電話（**予約制**）**予約**

方法：**メール（随時）**

相談員：保健師キャリア支援センター教員（藤本）

公衆衛生看護学分野教員（岩本、山下）

連絡先：保健師キャリア支援センター事務局

（神戸市看護大学 いちかんダイバーシティ看護開発センター内）

**Mail : [phncenter@kobe-ccn.ac.jp](mailto:phncenter@kobe-ccn.ac.jp)**

ご相談いただいた事やその内容は、ご所属の方など他者へお話しすることはありませんので  
安心してご相談ください。なお、ご自身が希望される場合には、他者へ情報提供することもで  
きます。

問い合わせ先:神戸市看護大学内 兵庫県保健師キャリア支援センター

〒651-2103 神戸市西区学園西町3丁目4番地

TEL 078-794-8084（直通）※直通電話はつながりにくいこともありますのでご了承ください。

078-794-8080（代表）

相談内容は匿名の上統計的に処理し、今後の保健師支援に活かすための研究に活用させていただきますのでご了承ください。

## 兵庫県保健師キャリア支援センター事務局名簿

2024年度

機 関 名	職 名	氏 名
公立大学法人 神戸市看護大学 いちかんダイバーシティ看護開発センター	特任講師	藤本 佳子
公立大学法人 神戸市看護大学 看護学部健康生活看護学領域公衆衛生看護学分野	教 授	岩本 里織
	講 師	山下 正
	助 教	山田 暢子
	助 教	遠藤 真澄
公立大学法人 神戸市看護大学 事務局	担当課長	篠原 良浩
公立大学法人 神戸市看護大学 事務局経営管理課	担当係長	戸田 正明
		高坂 泰司
		日和 さおり

※資料 P107～122 のデータ分析・図表作成は、元神戸市看護大学いちかんダイバーシティ看護開発センター 特任講師 磯濱 亜矢子 氏の協力による。

## 編集後記

神戸市看護大学が兵庫県から委託を受け兵庫県保健師キャリア支援センターが設立して4年が経過しました。本学と兵庫県健康増進課が協力しながら運営を行い、研修の大枠が定着しつつあります。新型コロナウイルス感染症流行の影響がほぼなくなった今年度は、対面での研修を基本に、より質の高い充実した研修となるように工夫しながら取り組んでまいりました。

特に、多様化する新任期の保健師の背景にも着目し、同期同士の交流を始め、社会経験年数の異なる保健師同士のグループ編成や交流を意識しました。また、新任期を支えるファシリテーターとして、兵庫県下の自治体保健師や大学教員の皆様にご意見をいただきながら、学びの場を大事に企画・実施いたしました。

その他の研修等においても、参加者数や実践研究への取り組みの増加、参加者から寄せられる声から、保健活動の実践における本センターの試行錯誤の取り組みの意義を感じる1年でした。

保健師の活動は、知識として学びを積み重ねるもののほかに、先輩保健師の後ろ姿から伝承されるものも多くあります。それらは、直接見聞きし、共に活動することで後輩保健師の意識となり、行動となって現れ、地域に根付いていくものです。各々の現場の中で相互から学び合うものが根底にあり、それを他機関の保健師同士と分かち合えることで、保健師全体の資質が高まっていくことを願っています。

当センターでは、今後も引き続き県下全体での学びを支える取組をしてまいります。その取組を下支えしているのは、県や市町など各現場の皆様の日々の活動です。県下の保健師の皆様と当センターが車の両輪となって、兵庫県の保健師活動の未来を作り上げられるよう、これからも尽力してまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

2025年3月

兵庫県保健師キャリア支援センター事務局教員

藤本 佳子(いちかんダイバーシティ看護開発センター・特任講師)

岩本 里織(神戸市看護大学公衆衛生看護学分野・教授)

山下 正(神戸市看護大学公衆衛生看護学分野・講師)

山田 暢子(神戸市看護大学公衆衛生看護学分野・助教)

遠藤 真澄(神戸市看護大学公衆衛生看護学分野・助教)

兵庫県保健師キャリア支援センター事業実績報告書  
(2024年度)

発行日 2025年3月31日

発行者 兵庫県保健師キャリア支援センター事務局  
(公立大学法人 神戸市看護大学)

〒651-2103

兵庫県神戸市西区学園西町3丁目4番地  
TEL 078-794-8080(代表) / 078-794-8084(直通)

